

志木市遺跡群 24

市場裏遺跡第21地点

西原大塚遺跡第199地点

城山遺跡第79地点

2021

埼玉県志木市教育委員会

はじめに

志木市教育委員会
教育長 柚木 博

ここに刊行する『志木市遺跡群24』は、平成24・25年度に国庫補助事業として、教育委員会が発掘調査を実施した成果をまとめたものです。

今回報告する遺跡は、市場裏遺跡第21地点、西原大塚遺跡第199地点、城山遺跡第79地点の3地点分です。

市場裏遺跡第21地点の調査では、弥生時代後期～古墳時代前期の住居跡1軒・方形周溝墓3基などが発見されました。

西原大塚第199地点では、中世以降の土坑・溝跡が発見されました。

城山遺跡第79地点では、縄文時代の土坑、古墳時代後期の住居跡、平安時代の住居跡・掘立柱建築遺構、中世以降の土坑など、複数の時代の遺構が発見されました。

今回の調査においても本市の歴史を知る上で欠くことのできない貴重な資料を得ることができました。この成果が郷土史研究をはじめ、多くの人々に幅広く活用されることを切に願っております。

最後になりましたが、本書の刊行にあたり、格別の御理解と御協力を頂いた事業主体者、そして深い御理解と御協力を賜りました地元の多くの方々並びに関係者に対し、心から感謝申し上げる次第です。

例 言

1. 本書は、埼玉県志木市に所在する遺跡群のうち、平成24年度に発掘調査を実施した市場裏遺跡第21地点と平成25年度に発掘調査を実施した西原大塚遺跡第199地点、城山遺跡第79地点の3地点分の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 発掘作業・整理作業・報告書刊行作業は、志木市教育委員会が主体となり、国庫及び県費の補助金の交付を受け実施した。
3. 本書の作成において、編集は大久保聡が行った。執筆は下記以外を大久保が行った。なお、中世以降の遺物については、朝霞市教育委員会の野澤 均氏にご教示を頂いた。
尾形則敏 第1章、第3章第2節(2)～(4)、第4章第3節の土器、第4節、第5章第3節
徳留彰紀 第3章第2節(5) 縄文土器、第4章第2・5節の縄文土器
4. 遺物の実測は、星野恵美子・松浦恵子・林ゆき子・増田千春が行った。遺構・遺物のデジタルトレースには深井恵子・青木 修・池野谷有紀が行った。遺物の写真撮影は青木が行った。
5. 表土剥ぎ作業については、株式会社大塚屋商店に委託し、重機オペレータは田中三三が担当した。
6. 本書に掲載した石器については、有限会社アルケーリサーチ（取締役社長 藤波啓容）に実測を委託した。
7. 本報告に係る出土品及び記録図面・写真等は、志木市立埋蔵文化財保管センターに一括して保管している。
8. 調査組織（令和2年度）

教 育 長	柚 木 博
教 育 政 策 部 長	北 村 竜 一
教 育 政 策 部 次 長	大 熊 克 之
生 涯 学 習 課 長	山 本 勲
生 涯 学 習 課 副 課 長	中 原 敦 也
生 涯 学 習 課 主 幹	浅 見 千 穂
生 涯 学 習 課 主 査	武 井 香 代 子
”	尾 形 則 敏
”	徳 留 彰 紀
生 涯 学 習 課 主 任	松 永 真 知 子
”	大 久 保 聡
生 涯 学 習 課 主 事 補	鈴 木 風 月
志 木 市 文 化 財 保 護 審 議 会	井 上 國 夫（会 長）
”	深 瀬 克（委 員）
”	上 野 守 嘉（委 員）
”	新 田 泰 男（委 員）
”	金 子 博 一（委 員）

9. 発掘作業及び整理作業参加者

<市場裏遺跡第21地点>

○発掘作業

調査担当者 大久保 聡・尾形 則敏
調査員 深井 恵子
調査補助員 星野恵美子・鈴木 浩子
作業員 林 ゆき子・松浦 恵子
重機オペレータ 田中 三二(株式会社大塚屋商店)

○整理作業

調査員 深井 恵子・青木 修
調査補助員 星野恵美子・鈴木 浩子
作業員 小林 律・池野谷有紀・片山 望・小林 律・増田千春・
松浦 恵子・村田 浩美・山口 優子

<西原大塚遺跡第199地点>

○発掘調査

調査担当者 大久保 聡・尾形 則敏
調査員 深井 恵子
調査補助員 星野恵美子・鈴木 浩子
作業員 青木 栄一・小林 律・二階堂美知子・増田千春・林 ゆき子・
松浦 恵子・村田 浩美
重機オペレータ 田中 三二(株式会社大塚屋商店)

○整理作業

調査員 深井 恵子・青木 修
調査補助員 星野恵美子・鈴木 浩子
作業員 青木 栄一・池野谷有紀・小林 律・二階堂美知子・増田千春・
林 ゆき子・松浦 恵子・村田 浩美・山口 優子

<城山遺跡第79地点>

○発掘調査

調査担当者 大久保 聡・尾形 則敏
調査員 深井 恵子・青木 修
調査補助員 星野恵美子・鈴木 浩子
作業員 小林 律・増田千春・橋本美奈子・林 ゆき子・松浦 恵子・村田 浩美
重機オペレータ 田中 三二(株式会社大塚屋商店)

○整理作業

調査員 深井 恵子・青木 修
調査補助員 星野恵美子・鈴木 浩子
作業員 池野谷有紀・片山 望・小林 律・高田美智子・二階堂美知子・
林 ゆき子・増田千春・松浦 恵子・村田 浩美・山口 優子

10. 発掘作業・整理作業・報告書刊行作業には、以下の諸機関・諸氏のご教示・ご援助を賜った。記して感謝する次第である（敬称略）。

埼玉県教育局市町村支援部生涯学習文化財課・（財）埼玉県埋蔵文化財調査事業団・朝霞市教育委員会・朝霞市博物館・新座市教育委員会・和光市教育委員会・富士見市教育委員会・富士見市立水子貝塚資料館・富士見市立難波田城資料館

五十嵐 睦・江原 順・加藤秀之・川畑隼人・隈本健介・齊藤 純・齋藤欣延・笹川紗希・鈴木一郎・照林敏郎・中岡貴裕・野沢 均・早坂廣人・堀 善之・前田秀則・柳井章宏・山本 龍・山田尚友・安田 脩一・山本典幸・和田晋治

11. 本報告に係る文化財保護法に基づく各種届出等及び指示通知については、下記の通りである。

〈市場裏遺跡第21地点〉

- 周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等について（通知）

平成25年3月19日付け 教生文第5－1509号

- 埋蔵物の文化財認定について（通知）

平成26年3月20日付け 教生文第7－182号

〈西原大塚遺跡第199地点〉

- 周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等について（通知）

平成26年2月20日付け 教生文第5－1524号

- 埋蔵物の文化財認定について（通知）

平成27年2月20日付け 教生文第7－186号

〈城山遺跡第79地点〉

- 周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等について（通知）

平成25年6月12日付け 教生文第5－120号

- 埋蔵物の文化財認定について（通知）

平成26年3月20日付け 教生文第7－210号

凡 例

1. 本報告書で使用した地図は以下のとおりである。

第1図 1：10,000「志木市全国」アジア航測株式会社調製

第2図 1：2,500 ゼンリン電子住宅地図 デジタウン「埼玉県志木市」平成27年4月発行
株式会社ゼンリン

2. 挿図版の縮尺は、それぞれに明記した。
3. 遺構挿図版中の水系レベルは、海拔標高を示す。また、同一遺構の水系レベルは統一して示した。
4. ビット・掘り込み内の数値は、床面もしくは確認面からの深さを示し、単位はcmである。また、同一遺構内にあるビットでも、おそらく後世のビットと思われるものには、数値を省略した。
5. 遺構挿図版中のドットは遺物出土位置を示すが、遺物が密集する場合は個体別にドットマークを換えて表示した。番号は遺物挿図版中の遺物番号と一致する。
6. 遺構挿図版中のスクリーントーンについては、各挿図版内にその内容を示したが、遺物挿図版中のスクリーントーンは、土器の赤彩範囲を示す。
7. 土器一覧表「法量」項中にある表記については、以下のとおりである。また、現存値は〔 〕、推定値は（ ）を付した。

高：器高 口：口径 底：底径 厚：器厚

8. 土器・土製品一覧で使用した色調は、『新版 標準土色帖 1999年版』農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修を参考にした。
9. 遺構の略記号は、以下のとおりである。

F P = 炉穴 Y = 弥生時代後期～古墳時代前期の住居跡

H = 古墳時代後期～平安時代の住居跡 方：方形周溝墓 T = 掘立柱建築遺構

D = 土坑 W = 井戸跡 M = 溝跡 P = ビット

目 次

はじめに

例 言／凡 例／目 次／挿図目次／表 目 次／図版目次

第1章 平成25年度の調査成果	1
第1節 市域の地形と遺跡	1
第2節 調査に至る経緯	9
第2章 市場裏遺跡第21地点の調査	11
第1節 遺跡の概要	11
第2節 検出された遺構・遺物	14
第3章 西原大塚遺跡第199地点の調査	23
第1節 遺跡の概要	23
第2節 検出された遺構・遺物	27
第4章 城山遺跡第79地点の調査	50
第1節 遺跡の概要	50
第2節 縄文時代の遺構・遺物	55
第3節 古墳時代後期・平安時代の遺構・遺物	61
第4節 中世以降の遺構・遺物	76
第5節 遺構外出土遺物	101
第5章 調査のまとめ	111
第1節 市場裏遺跡第21地点の調査成果	111
第2節 西原大塚遺跡第199地点の調査成果	111
第3節 城山遺跡第79地点の調査成果	113

[付編] 自然科学分析

Ⅰ. 市場裏遺跡から出土した大型植物遺体	119
Ⅱ. 市場裏遺跡第21地点出土炭化材の樹種同定	121
Ⅲ. 城山遺跡から出土した炭化種実	123
Ⅳ. 城山遺跡第79地点出土炭化材の樹種同定	125

図 版

報告書抄録

挿 図 目 次

第1図	市域の地形と調査地点—平成25年度— (1/20,000)	6
第2図	市場裏遺跡の調査地点 (1/3,000)	11
第3図	確認調査時の遺構分布図 (1/150)	13
第4図	遺構分布図 (1/150)	13
第5図	3号住居跡 (1/60)	15
第6図	3号住居跡遺物出土状態 (1/60)	16
第7図	3号住居跡出土遺物 (1/4・1/3)	16
第8図	4号方形周溝墓 (1/60)	18
第9図	5号方形周溝墓 (1/60)	19
第10図	5号方形周溝墓出土遺物 (1/3)	20
第11図	6号方形周溝墓 (1/60)	21
第12図	5号土坑 (1/60)	22
第13図	1号ピット (1/60)	22
第14図	遺構外出土遺物 (1/4)	22
第15図	西原大塚遺跡の調査地点 (1/5,000)	24
第16図	確認調査時の遺構分布図 (1/400)	25
第17図	遺構分布図 (1/400・1/150)	26
第18図	基本土層 (1/60)	27
第19図	土坑1 (1/60)	29
第20図	土坑2 (1/60)	31
第21図	54号溝跡 (1/60)	35
第22図	ピット (1/60)	37
第23図	ピット出土遺物 (1/3)	37
第24図	遺構外出土遺物1 (2/3・1/3)	41
第25図	遺構外出土遺物2 (1/3)	42
第26図	遺構外出土遺物3 (1/3)	43
第27図	遺構外出土遺物4 (1/3・4/5)	44
第28図	城山遺跡の調査地点 (1/3,000)	51
第29図	確認調査時の遺構分布図 (1/200)	52
第30図	遺構分布図 (1/100)	54
第31図	基本土層 (1/60)	54
第32図	14号炉穴 (1/60)	55
第33図	971・973号土坑 (1/60)	56
第34図	971号土坑出土遺物 (1/3)	57
第35図	ピット (1/60)	60
第36図	289号住居跡・遺物出土状態 (1/60)	62
第37図	289号住居跡カマド (1/30)	63
第38図	289号住居跡出土遺物 (1/4・1/3)	63
第39図	290号住居跡 (1/60)	65

第40図	290号住居跡遺物出土状態 (1/60)	66
第41図	290号住居跡カマド (1/30)	66
第42図	290号住居跡出土遺物 (1/4)	67
第43図	291号住居跡・遺物出土状態 (1/60)	69
第44図	291号住居跡出土遺物 (1/4)	69
第45図	292号住居跡 (1/60)	71
第46図	10号掘立柱建築遺構 (1/60)	72・73
第47図	10号掘立柱建築遺構出土遺物 (1/4・1/3)	74
第48図	33号ピット・113号ピット出土遺物 (1/60・1/4)	76
第49図	土坑1 (1/60)	79
第50図	土坑2 (1/60)	81
第51図	土坑3 (1/60)	85
第52図	963号土坑出土遺物 (1/3)	87
第53図	970号土坑出土遺物1 (1/4・1/3・1/2)	87
第54図	970号土坑出土遺物2 (1/3・1/4)	88
第55図	井戸跡 (1/60)	89
第56図	ピット1 (1/60)	91
第57図	ピット2 (1/60)	92
第58図	ピット3 (1/60)	93
第59図	ピット4 (1/60)	94
第60図	ピット出土遺物 (1/4・1/3)	98
第61図	遺構外出土遺物1 (2/3・1/3・1/4)	102
第62図	遺構外出土遺物2 (1/3)	103
第63図	遺構外出土遺物3 (1/4・1/3・4/5)	104

目 次

第1表	志木市埋蔵文化財包蔵地一覧	1
第2表	平成25年度調査地点一覧 (1)	7
	平成25年度調査地点一覧 (2)	8
第3表	市場裏遺跡第21地点の発掘調査工程表	14
第4表	3号住居跡出土土器一覧	17
第5表	4号方形周溝墓出土土器一覧	18
第6表	5号方形周溝墓出土土器一覧	20
第7表	遺構外出土陶磁器・土器一覧	22
第8表	西原大塚遺跡第199地点の発掘調査工程表	25
第9表	土坑一覧	33
第10表	54号溝跡出土土器一覧	37
第11表	ピット一覧 (1)	38
	ピット一覧 (2)	39

第12表	遺構外出土石器一覧(1)	44
	遺構外出土石器一覧(2)	45
第13表	遺構外出土縄文土器一覧(1)	45
	遺構外出土縄文土器一覧(2)	46
	遺構外出土縄文土器一覧(3)	47
	遺構外出土縄文土器一覧(4)	48
第14表	遺構外出土製品一覧	49
第15表	遺構外出土弥生～古墳時代土器一覧	49
第16表	遺構外出土陶磁器・土器一覧	49
第17表	城山遺跡第79地点の発掘調査工程表	52
第18表	971号土坑出土土器一覧(1)	58
	971号土坑出土土器一覧(2)	59
第19表	縄文時代のピット一覧	60
第20表	289号住居跡出土土器一覧	64
第21表	290号住居跡出土土器一覧(1)	67
	290号住居跡出土土器一覧(2)	68
第22表	291号住居跡出土土器一覧	70
第23表	292号住居跡出土土器一覧	71
第24表	10号掘立柱建築遺構ピット一覧	74
第25表	10号掘立柱建築遺構出土土器・陶器一覧	75
第26表	古墳・平安時代のピット一覧	76
第27表	113号ピット出土土器一覧	76
第28表	中世以降の土坑一覧	86
第29表	中世以降のピット一覧(1)	95
	中世以降のピット一覧(2)	96
	中世以降のピット一覧(3)	97
第30表	中世以降の遺構出土陶磁器・土器一覧(1)	98
	中世以降の遺構出土陶磁器・土器一覧(2)	99
第31表	中世以降の遺構出土鉄製品・石製品・石器一覧	100
第32表	遺構外出土石器一覧	105
第33表	遺構外出土土器一覧(1)	105
	遺構外出土土器一覧(2)	106
	遺構外出土土器一覧(3)	107
	遺構外出土土器一覧(4)	108
	遺構外出土土器一覧(5)	109
	遺構外出土土器一覧(6)	110
第34表	遺構外出土陶磁器・土器一覧	110
第35表	市場裏遺跡第21地点から出土した炭化種実	119
第36表	樹種同定結果	121
第37表	城山遺跡第79地点から出土した炭化種実	123
第38表	遺構別の樹種同定結果	125
第39表	樹種同定結果一覧	126

図版目次

- 図版1 市場裏遺跡第21地点
1. 調査前風景 2. 表土剥ぎ風景 3. 遺構確認状況
4. 3号住居跡遺物出土・焼土検出状態 5. 3号住居跡炭化材出土・焼土検出状態
6・7. 3号住居跡遺物出土状態 8. 3号住居跡土層断面（B-B'）
- 図版2 市場裏遺跡第21地点
1. 3号住居跡赤色砂利層検出状態 2. 3号住居跡貯蔵穴・凸堤 3. 3号住居跡P1
4. 3号住居跡P2 5. 3号住居跡 6. 3号住居跡掘り方
7. 3号住居跡土層断面（A-A'） 8. 調査風景
- 図版3 市場裏遺跡第21地点
1・2. 4号方形周溝墓 3・4. 5号方形周溝墓 5. 6号方形周溝墓
6. 4・6号方形周溝墓 7. 5号土坑 8. 1号ピット
- 図版4 市場裏遺跡第21地点
1. 3号住居跡出土遺物 2. 4号方形周溝墓出土遺物 3. 5号方形周溝墓出土遺物
4. 遺構外出土遺物
- 図版5 西原大塚遺跡第199地点
1. 調査前風景 2. 表土剥ぎ風景 3. 遺構確認状況 4. 基本土層A-A'（東面）
5. 基本土層B-B'（南面） 6. 720号土坑 7. 721号土坑 8. 722号土坑
- 図版6 西原大塚遺跡第199地点
1. 723号土坑 2. 724・725号土坑 3. 726号土坑 4. 727号土坑
5. 728号土坑 6. 729～732号土坑 7. 730号土坑 8. 731号土坑
- 図版7 西原大塚遺跡第199地点
1. 733号土坑 2. 54号溝跡（西から） 3. 54号溝跡（東から）
4. 54号溝跡遺物出土状態 5. 4号ピット 6. 11号ピット 7. 12号ピット
- 図版8 西原大塚遺跡第199地点
1. 17号ピット 2. 18号ピット 3. 23号ピット 4. 27号ピット 5. 34号ピット
6. 61号ピット 7. 除雪作業風景 8. 調査風景
- 図版9 西原大塚遺跡第199地点
1. 54号溝跡出土遺物 2. 11号ピット出土遺物 3. 23号ピット出土遺物
4. 61号ピット出土遺物 5. 遺構外出土遺物1
- 図版10 西原大塚遺跡第199地点
遺構外出土遺物2
- 図版11 西原大塚遺跡第199地点
遺構外出土遺物3
- 図版12 城山遺跡第79地点
1. 調査前風景 2. 表土剥ぎ風景 3. 基本土層A-A' 4. 基本土層B-B'

5. 14号炉穴検出状況 6. 14号炉穴 7. 971号土坑土層断面 8. 971号土坑
- 図版13 城山遺跡第79地点
1. 971号土坑坑底面工具痕 2. 973号土坑 3. 105号ピット 4. 106号ピット
5. 108号ピット 6. 110号ピット 7. 116号ピット 8. 117号ピット
- 図版14 城山遺跡第79地点
1・2. 289号住居跡遺物出土状態 3. 289号住居跡炭化材出土状態
4. 289号住居跡カマド 5. 289号住居跡P1 6. 289号住居跡
7・8. 290号住居跡遺物出土状態
- 図版15 城山遺跡第79地点
1. 290号住居跡カマド遺物出土状態 2. 290号住居跡カマド
3. 290号住居跡カマド掘り方 4. 290号住居跡貯蔵穴
5. 290号住居跡P1 6. 290号住居跡P2 7. 290号住居跡
8. 291号住居跡遺物出土状態
- 図版16 城山遺跡第79地点
1. 291号住居跡遺物出土状態 2. 291号住居跡 3. 292号住居跡
4. 292号住居跡カマド 5. 10号掘立柱建築遺構
6・7. 10号掘立柱建築遺構P1遺物出土状態 8. 10号掘立柱建築遺構P1
- 図版17 城山遺跡第79地点
1. 10号掘立柱建築遺構P2遺物出土状態 2. 10号掘立柱建築遺構P2
3. 10号掘立柱建築遺構P3 4. 10号掘立柱建築遺構P4遺物出土状態
5. 10号掘立柱建築遺構P4 6. 10号掘立柱建築遺構P5 7. 10号掘立柱建築遺構P6
8. 10号掘立柱建築遺構P7
- 図版18 城山遺跡第79地点
1. 33号ピット 2. 113号ピット 3. 957号土坑（西から）
4. 958号土坑（東から） 5. 959号土坑（東から） 6. 960・961号土坑（西から）
7. 962号土坑（南から） 8. 963号土坑（東から）
- 図版19 城山遺跡第79地点
1. 964号土坑（南から） 2. 965号土坑（東から） 3. 966号土坑（西から）
4. 967号土坑（西から） 5. 968号土坑（南から） 6. 969号土坑（東から）
7・8. 970号土坑遺物出土状態
- 図版20 城山遺跡第79地点
1. 970号土坑グライ化状況 2. 970号土坑 3. 972号土坑（東から）
4. 20号ピット遺物出土状態 5. 48号井戸跡 6. 49号井戸跡 7. 調査風景
8. 埋め戻し風景
- 図版21 城山遺跡第79地点
1. 971号土坑出土遺物 2. 289号住居跡出土遺物
- 図版22 城山遺跡第79地点
1. 290号住居跡出土遺物 2. 291号住居跡出土遺物 3. 292号住居跡出土遺物

- 図版23 城山遺跡第79地点
1. 10号掘立柱建築遺構出土遺物 2. 113号ピット出土遺物 3. 土坑出土遺物
- 図版24 城山遺跡第79地点
970号土坑出土遺物1
- 図版25 城山遺跡第79地点
1. 970号土坑出土遺物2 2. 井戸跡出土遺物 3. ピット出土遺物
- 図版26 城山遺跡第79地点
遺構外出土遺物1
- 図版27 城山遺跡第79地点
遺構外出土遺物2
- 図版28 市場裏遺跡第21地点
1. 市場裏遺跡第21地点から出土した炭化種実 2. 炭化材の走査型電子顕微鏡写真
- 図版29 城山遺跡第79地点
城山遺跡第79地点から出土した炭化種実
- 図版30 城山遺跡第79地点
炭化材の走査型電子顕微鏡写真

第1章 平成25年度の調査成果

第1節 市域の地形と遺跡

(1) 地理的環境と遺跡分布

志木市は、埼玉県の南西部に位置し、市域はおおよそ南北4.71km、東西4.73kmの広がりを持ち、面積は9.05㎢、人口約7万5千人の自然と文化の調和する都市である。

地理的景観を眺めて見ると、市域東部の宗岡地区は、荒川（旧入間川）の形成した沖積低地が扯がり、市域西部の本町・柏町・幸町地区は、古多摩川によって形成された武蔵野台地の上にある。また、市内には東部に荒川、中央に古くは舟運で利用された新河岸川、そして西部から中央に新河岸川と合流する柳瀬川の3本の川が流れている。

こうした自然環境の中で、市内遺跡の大部分は、柳瀬川・新河岸川右岸流域の台地縁辺部に帯状に分布している。遺跡は柳瀬川上流から順に、西原大塚遺跡（7）、新邸遺跡（8）、中道遺跡（5）、城山遺跡（3）、中野遺跡（2）、市場裏遺跡（15）、富士前遺跡（10）、富士前遺跡（11）、大原遺跡（16）

No.	遺跡名	遺跡の規模	地目	遺跡の種類	遺跡の時代	主な遺構	主な遺物
2	中野	67,620㎡	畑・宅地	集落跡	旧石器、縄(早～後)、弥(後)、古(前～後)、平、中・近世	石器集中地点、住居跡、土坑、井戸跡、溝跡等	石器、縄文・弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器等
3	城山	82,100㎡	畑・宅地	城館跡・集落跡	旧石器、縄(草創～晩)、弥(後)、古(前～後)、奈・平、中・近世	石器集中地点、住居跡、土坑、土坑墓、地下室、井戸跡、溝跡、柏城跡関連、跡造関連等	石器、縄文・弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器、土師質土器、古銭、跡造関連遺物等
5	中道	54,420㎡	畑・宅地	集落跡・墓跡	旧石器、縄(早～後)、弥(後)、古(前～後)、平、中・近世	石器集中地点、住居跡、土坑、方形周溝墓、土坑墓、地下式坑、溝跡、道路状遺構等	石器、縄文土器、土師器、須恵器、陶磁器、古銭、人骨等
6	塚の山古墳	800㎡	林	古墳?	古墳?	古墳?	なし
7	西原大塚	164,960㎡	畑・宅地	集落跡・墓跡	旧石器、縄(前～晩)、弥(後)、古(前～後)、奈・平、中・近世	石器集中地点、住居跡、土坑、方形周溝墓、井戸跡、溝跡等	石器、縄文・弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器、古銭等
8	新邸	20,080㎡	畑・宅地	貝塚・集落跡・墓跡	縄(早～中)、古(前～後)、中・近世、近代	貝塚、住居跡、土坑、方形周溝墓、井戸跡、溝跡、段切状遺構、ビッド群等	石器、貝、縄文・弥生土器、土師器、陶磁器、古銭等
9	城山貝塚	900㎡	林	貝塚	縄(前)	斜面貝塚	石器、縄文土器、貝
10	田子山	74,030㎡	畑・宅地	集落跡・墓跡	縄(草創～晩)、弥(後)、古(後)、奈・平、中・近世	住居跡、土坑、方形・円形周溝墓、ローム採掘遺構、溝跡等	縄文・弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器、炭化種子等
11	富士前	14,830㎡	宅地	集落跡	縄文、弥(後)～古(前)、平安、近世以降	住居跡、土坑?、溝跡?	弥生土器、土師器
12	馬場	2,800㎡	畑	集落跡	古(前)	住居跡?	土師器
13	関根兵庫跡跡	4,900㎡	グラウンド	館跡	中世	不明	なし
14	宿	7,700㎡	水田	館跡	中世	溝跡、桁状構築物	木・石製品
15	市場裏	13,800㎡	宅地	集落跡・墓跡	弥(後)～古(前)、中世以降	住居跡、方形周溝墓、土坑	弥生土器、土師器、土師質土器
16	大原	1,700㎡	宅地	不明	近世以降?	溝跡	なし
17	上宿	8,600㎡	水田・宅地	集落跡	平安・中・近世	住居跡、溝跡	土師器、須恵器
合計		519,240㎡					

令和2年12月18日現在

第1表 志木市埋蔵文化財包蔵地一覧

と名付けられている。また、荒川・新河岸川が形成した沖積低地でも、馬場遺跡(12)、宿遺跡(14)、関根兵庫館跡(13)が認められる。最新では、平成30年12月、新たに新河岸川左岸流域で上宿遺跡(17)が発見され、自然堤防上に位置する遺跡の存在も明らかにされつつある。なお、現在市内の遺跡総数は、前述した13遺跡に塚の山古墳(6)、城山貝塚(9)を加えた15遺跡である(第1図・第1表)。

(2) 歴史的環境

次に市内の遺跡を時代順に概観してみることにする。

1. 旧石器時代

旧石器時代の遺跡は、柳瀬川右岸の中野・城山・中道・西原大塚遺跡で確認されている。

中道遺跡では、昭和62(1987)年の富士見・大原線(現ユリノキ通り)の工事に伴う発掘調査により、立川ローム層のⅣ層上部・Ⅵ層・Ⅶ層で、礫群や石器集中地点が検出されている。これにより、黒曜石製のスクレイパーやナイフ形石器、安山岩や凝灰岩の石核や剥片などが発見されている。

西原大塚遺跡では、西原特定土地区画整理事業に伴う発掘調査により、石器集中地点が検出されている。石器集中地点は、平成6(1994)年度には2ヶ所、平成7(1995)年度には1ヶ所が検出され、ナイフ形石器・剥片などが発見されている。最新では、令和元(2019)年に第224地点で立川ローム層の第Ⅳ層下部～第Ⅴ層上部・第Ⅶ層から石器集中地点と礫群が検出されている。

平成11～14(1999～2002)年度にかけて発掘調査が実施された中野遺跡第49地点では、立川ローム層の第Ⅳ層下部から、黒曜石・真岩の石核・剥片が約60点出土している。平成27(2016)年に発掘調査された中野遺跡第91㊦地点からは、礫群1基が検出された。

また、城山遺跡では、平成13(2001)年に発掘調査が実施された第42地点から、立川ローム層の第Ⅳ層上部と第Ⅶ層の2ヶ所で石器集中地点が検出されている。平成20・21年に発掘調査が実施された第62地点(道路・駐車場部分)でも1ヶ所の石器集中地点が検出され、ナイフ形石器・剥片が出土している。平成23(2011)年に発掘調査が実施された第71地点では、立川ローム層の第Ⅳ層下部～第Ⅴ層上部で石器集中地点2ヶ所、礫群9基が検出された。令和元(2019)年には第96地点で立川ローム層の第Ⅳ層下部～第Ⅴ層上部・第Ⅶ層で石器集中地点と礫群が検出されている。

2. 縄文時代

縄文時代では、西原大塚遺跡を中心に中期後葉の遺跡が集中し、城山貝塚の周辺の城山遺跡からは、前期末葉(諸磯式期)の住居跡や土器がやや多く検出される傾向にある。

ここでは、時代の推移に従って説明することにする。まず、草創期では、平成4(1992)年に発掘調査が実施された城山遺跡第16地点から爪形文系土器1点、平成6(1994)年に発掘調査が実施された城山第21地点から多縄文系土器3点、第22地点から爪形文系土器1点、平成10(1998)年に発掘調査が実施された田子山遺跡第51地点から有茎尖頭器1点が出土している。

早期では、遺構の検出例はまだ少ないが、住居跡として、平成18(2006)年に発掘調査が実施された中道遺跡第65地点で検出された早期末葉(条痕文系)の10号住居跡1軒が最古のものと言える。土器としては、田子山遺跡で燃糸文・沈線文・条痕文系土器が出土しているが、御嶽神社を中心とする東側でやや多く出土する傾向がある。最新資料では、平成23(2011)年に発掘調査が実施された田子山

遺跡第121地点のローム上層の遺物包含層から燃糸文系土器・石器がまとめて出土している。また、城山・中野・田子山遺跡からは、条痕文系土器が伊穴に伴い出土している。

前期では、西原大塚・新邸遺跡で前期中葉の黒浜式期の住居跡が検出され、新邸遺跡のものは貝層をもつ住居跡である。城山遺跡では、令和元（2019）年度に発掘調査が実施された第96地点から、前期後葉の諸磯期で、貝層を持つ住居跡が4軒検出された。住居内貝層からヤマトシジミ・マガキが検出されている。平成2年度に市指定文化財に認定された城山貝塚も縄文海進期にあたるこの頃の時代に形成された斜面貝塚と考えられる。

中期になると遺跡が最も増加する。特に、中期中葉から後葉の勝坂式～加曾利E式期にはその傾向が強くなり、中野・城山・中道・西原大塚・田子山遺跡で住居跡を中心に土坑が検出されている。特に西原大塚遺跡では、現時点で180軒以上の住居跡が環状に配置していることが判明しつつある。中期末葉からは遺跡が減少し、現在のところ西原大塚遺跡から敷石をもつ住居跡1軒が確認されているが、平成27（2016）年に発掘調査された中道遺跡第76地点からは、加曾利EⅣ式の両耳壺を出土する住居跡1軒が検出された。

後期では、西原大塚遺跡から堀之内式期の住居跡1軒と加曾利B式期の住居跡1軒、遺物集中地点1ヶ所、平成25（2013）年度に発掘調査が実施された中野遺跡第85地点からは、称名寺式期の市内初の柄鏡形住居（敷石住居）1軒が検出されている。また、その他の遺構としては、平成6（1994）年に発掘調査が実施された田子山遺跡第31地点で、土坑1基が検出され、称名寺式期の土器が出土している。最新資料として、平成26（2015）年に発掘調査された西原大塚遺跡第204地点や平成27・28（2016・2017）年に発掘調査された中野遺跡第91地点から、包含層出土遺物として、縄文時代後期（称名寺式～堀之内式期）の遺物が比較的多く出土している。

晩期では、中野・田子山遺跡から安行ⅢC式・千網式の土器片が少量発見されるにとどまり、以降市内では弥生時代中期まで空白の時代となる。

3. 弥生時代～古墳時代前期

弥生時代では、前期の遺跡は検出されていないが、中期については令和元（2019）年に発掘調査された城山遺跡第96地点で市内初となる宮ノ台式期の住居跡1軒、方形周溝墓1基が検出された。住居跡からは壺、甕、高坏、挟入柱状片刃石斧、扁平片刃石斧、石包丁が良好な状態で出土している。

弥生時代後期から古墳時代前期と考えられる遺跡は数多く検出されている。中でも、平成27（2016）年に発掘調査された中野遺跡第91地点からは、弥生時代後期前葉に比定される久ヶ原式土器を出土する住居跡が発見されている。平成6（1994）年に発掘調査が実施された田子山遺跡第31地点の21号住居跡は後期中葉に比定される可能性があり、その住居跡からは、多数の土器をはじめ、大量の炭化種子（イネ・アワ・ダイズなど）、炭化材が出土し、当時の食糧事情を考える上で重要である。富士前遺跡では、『志木市史』にも掲載されているが、不時の発見に伴い、龍目痕をもつ壺形土器をはじめとした多くの土器が発見されている。

西原大塚遺跡では後期末葉から古墳時代前期にかけての住居跡が約600軒確認されており、市内最大の集落跡であることが判明している。特に、122号住居跡からは全国的にも稀な「イヌ」を象ったと思われる動物形土製品が出土している。平成24（2012）年に発掘調査が実施された第179地点からは、遺存状態は良好ではないが、市内初の銅剣が出土している。

昭和62（1987）年以降、西原大塚・田子山・市場裏遺跡の3遺跡において、方形周溝墓が検出されてきたが、最新では、平成15（2003）年に発掘調査が実施された新邸遺跡第8地点と平成18（2006）年に実施された中道遺跡第65地点でも、それぞれ1基が確認されている。これにより当時の墓域が、集落と単一的なまとまりをもって存在することが明らかになってきたと言えるであろう。

市内で最も多く方形周溝墓が検出されている西原大塚遺跡では、10号方形周溝墓の溝底から一括出土した中に畿内系の庄内式の長脚高坏が出土していることに注目される。また、平成11（1999）年に発掘調査が実施された西原大塚遺跡第45地点では、一辺20mを超える市内最大規模の17号方形周溝墓が発見され、この方形周溝墓の溝からは、珍しい鳥形土製品をはじめ、畿内系の有段口縁壺、吉ヶ谷式系の壺、在地系の壺などと大きく畿内・比企地域・在地の3要素の特徴を示す壺が出土している。なお、鳥形土製品1と壺形土器4点の計5点は、考古資料として市指定文化財に指定されている。こうした地域に関わる被葬者の人物像が浮き彫りにされたことで、当地域の弥生時代後期から古墳時代前期の歴史を紐解く手がかりになったことは重要である。

4. 古墳時代中・後期

古墳時代でも前期末葉から中期になると、遺跡が減少する傾向にある。その中で、西原大塚遺跡に隣接する新邸遺跡で検出されている第2地点の1号住居跡と平成15（2003）年に発掘調査が実施された第8地点の2～8号住居跡は、古墳時代前期でも比較的新しい段階に比定される可能性がある。このことから、新邸遺跡で検出された住居跡は、隣接する西原大塚遺跡から継続して広がった集落跡ではないかと推測される。

中期の遺跡では、中道・城山・中野遺跡から住居跡が発見されている。その中でも、平成7（1995）年に発掘調査が実施された中道遺跡第37地点19号住居跡は、5世紀中葉に比定され、カマドをもつ住居跡としては市内最古のものである。

5世紀末葉になると、遺跡が増加傾向にあり、特に6世紀後半から7世紀後半にかけては、縄文中期を越えるほどの爆発的な増加をみる。こうした集落跡は現在、中道・城山・中野遺跡に比較的古い5世紀代の住居跡が確認されていることから、柏町地区を中心に存在した集落が、6世紀後半以降、周辺地域に拡散するという動きを読み取ることができる。

なお、新邸遺跡では第8地点で初めて古墳時代後期（7世紀中葉）の住居跡が1軒検出されている。この住居跡は、3×3.5mの小型の長方形を呈するもので、焼土住居であり、床面上からは土器・炭化材の他ベンガラ塊が出土している。

現在、5世紀後半から7世紀後半にかけての時期に比定できる住居跡の軒数は、最も多い城山遺跡で約230軒、次いで中野遺跡で約55軒、中道遺跡と田子山遺跡で16軒ずつ、新邸遺跡で1軒を数える。

また住居跡以外では、平成5（1993）年に発掘調査が実施された田子山遺跡第24地点から、6世紀後半以降のものと考えられる4.1×4.7mの不整形円形で2ヶ所にブリッジをもつ小型の円形周溝墓が1基確認されている。さらに、平成14（2002）年に発掘調査された田子山遺跡第81地点を契機に御嶽神社を取り囲むように外周で推定約33mの巨大な溝跡の存在が明らかになり、現時点では古墳の周溝ではないかと考えられ、今後この一帯での古墳の発見に期待されている。

5. 奈良・平安時代

奈良・平安時代の遺跡は、古墳時代後期以降に拡散した集落内で確認される傾向にあり、現在のところ、中野・城山・中道・西原大塚・田子山遺跡で検出されている。中でも城山・田子山遺跡はこの時代を代表とする遺跡として挙げることができる。城山遺跡では、平成8（1996）年に発掘調査が実施された第35地点の128号住居跡から、印面に「富」1文字が書かれた完形品の銅印が出土しているが、これは県内でも稀少な例として貴重な資料であろう。この住居跡からはその他、須恵器環や猿投産の緑釉陶器の小破片1点、布目瓦の小破片2点などが出土している。平成20・21（2008・2009）年の城山遺跡第62地点の調査では、平安時代の241号住居跡から皇朝十二銭の一つである富壽神寶が2枚とその近くからは鉄鎌1点と土鎌1点が出土しており、祭祀行為が行われたと考えられる貴重な例として、県内でも重要な発見につながっている。

田子山遺跡では、平成5（1993）年に発掘調査が実施された第24地点からは、住居跡の他、掘立柱建築遺構・溝跡そして100基を越える土坑群が検出されている。平成6（1994）年に発掘調査が実施された第31地点の44号住居跡からは、腰帯の一部である銅製の丸鞆が出土している。さらにカマド右横の床面上からは、東金子窯跡群と南比企窯跡群の製品という生産地の異なる須恵器環が併せて出土したことにより、土器編年の基本資料として貴重であると言える。

なお、以上のうち、城山遺跡128号住居跡出土の銅印ほか9点の遺物と城山遺跡第241号住居跡出土の富壽神寶ほか2点の遺物は、考古資料として、平成25年3月1日付けで、市指定文化財に指定されている。

6. 中・近世

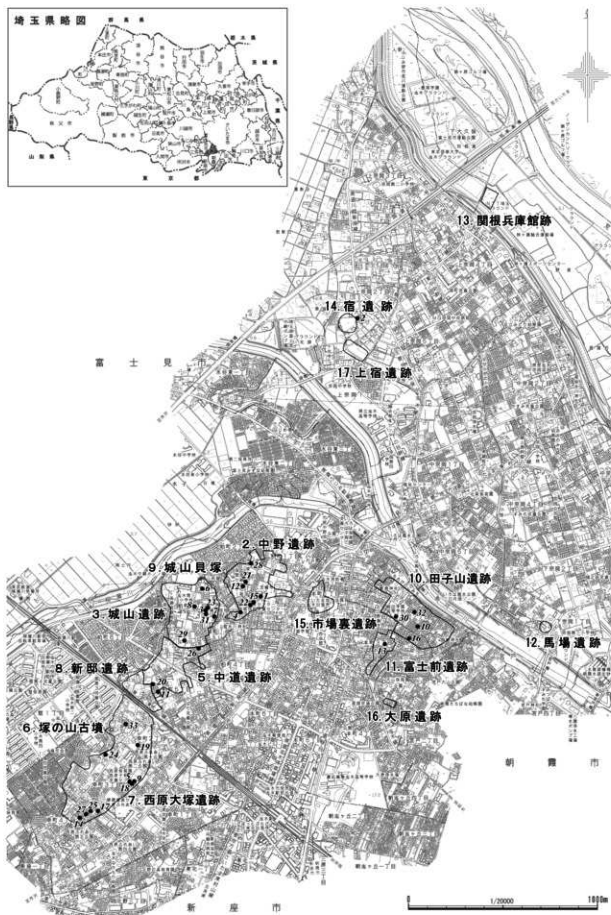
中・近世の遺跡は、「柏の城」を有する城山遺跡と大塚千手堂関連である新邸・中道遺跡、そして関根兵庫館跡・宿遺跡が代表される遺跡と言える。城山遺跡では、数次にわたる発掘調査により、『館村旧記』（註1）にある「柏之城落城後の屋敷削の図」に相当する堀跡などが多数発見されている。近年では、『廻国雑記』（註2）に登場する「大石信濃守館」が「柏の城」に相当し、『大塚十五坊』についても市内の「大塚」に由来があるという説が有力と言えるであろう（神山 1988・2002）。

また、平成7（1995）年に発掘調査が実施された第29地点の127号土坑からは、馬の骨が検出されている。この土坑からは、板碑と土師質土器の他、炭化種子（イネ・オオムギ・コムギなど）も出土しており、イネの塊状のものは「おにぎり」あるいは「ちまき」のようなものであるという分析結果が報告されている。

さらに、平成8（1996）年度に発掘調査が実施された第35地点から、鑄造関連の遺構が検出されている。130号土坑については鑄造遺構、134号土坑については溶解炉に該当し、遺物としては、大量の鉄滓（スラッグ）、鑄型、三叉状土製品、砥石などが出土している。最新資料では、平成27・28（2015・2016）年に発掘調査された第89地点の調査により、第35地点の鑄造関連の捨て場が明らかになった。この調査により、鍋本体の大型鑄型、鍋の耳部分の小型鑄型、三叉状・四叉状土製品・トリペ・砥石などの道具類や鉄滓（スラッグ）などの大量の遺物が斜面に流れ込むように出土した。

平成13（2001）年度の第42地点からは、多くの土坑・地下室・井戸跡が検出される中、234号土坑から、鉄鍋の完形品が出土したことは特筆すべきである。この鉄鍋は、土坑の坑底面に伏せてある状態で出土しており、「鍋被り葬」と呼ばれる風習が志木市でも実在していた可能性が高い。

戦国期の資料としては、平成6（1994）年度に発掘調査が実施された第21地点から、当市では初め



第1図 市域の地形と調査地点—平成25年度— (1/20,000)

令和2年12月28日現在

番号	調査地点	所在地	調査原因	面積 (㎡)	確認調査日	発掘期間	備考
1	中野遺跡 第82地点	柏町1丁目1519の12	個人住宅建設	165.66	平成25年 4月9日	—	盛土保存適用
2	宿遺跡 第2地点	上宗岡2丁目642-7	個人住宅建設	76.66	4月15日	—	遺構・遺物は検出されなかった
3	城山遺跡 第79地点	柏町3丁目2617-3	個人住宅建設	165.42	4月23日	平成25年5月6日～7月19日	発掘調査
4	中野遺跡 第83地点	柏町1丁目19-25	ブロック土留 及びフェンス設置	12.30	—	—	工事立会
5	西原大塚遺跡 第192地点	幸町3丁目7171-1の一部、 7172-1の一部	個人住宅建設	133.00	5月27日	—	盛土保存適用
6	城山遺跡 第71③地点	柏町3丁目2599-14、2603-3	共同住宅建設	156.30	平成22年3月1日～9日	—	盛土保存適用
7	城山遺跡 第80地点	柏町3丁目2657-2	分譲住宅建設	128.00	6月18日	—	平成26年度発掘調査実施
8	城山遺跡 第81地点	柏町3丁目2618-1の一部・ 14	個人住宅建設	80.97	6月17日	—	盛土保存適用
9	西原大塚遺跡 第193地点	幸町3丁目7171-4	個人住宅建設	149.08	7月22日	—	盛土保存適用
10	田子山遺跡 第129地点	本町2丁目1732-17	個人住宅建設	69.75	8月22日	9月6日～ 13日	発掘調査
11	中道遺跡 第73地点	柏町5丁目2936-1の一部	店舗建設	84.45	8月23日	—	盛土保存適用
12	中野遺跡 第84地点	柏町1丁目1570-2	宅地造成を伴う 分譲住宅建設	367.43	9月9日・10日	—	盛土保存適用
13	富士前遺跡 第23地点	本町3丁目1851-1、1852-1	宅地造成を伴う 分譲住宅建設	1,453.27	9月17日 ～20日	—	平成26年度発掘調査実施
14	西原大塚遺跡 第194地点	幸町4丁目8122	個人住宅建設	100.13	9月24日	—	盛土保存適用
15	中野遺跡 第85地点	柏町1丁目1515-17	個人住宅建設	161.53	9月26日	10月17日～ 11月16日	発掘調査
16	田子山遺跡 第130地点	本町3丁目1825-9の一部・ 15・16・21	分譲住宅建設	170.59	9月30日	—	盛土保存適用
17	西原大塚遺跡 第195地点	幸町3丁目7510、7511	共同住宅建設	419.23	10月3日・ 4日	—	盛土保存適用
18	西原大塚遺跡 第197地点	幸町3丁目7171-7、7172-5	個人住宅建設	142.00	10月9日	—	盛土保存適用
19	西原大塚遺跡 第196地点	幸町2丁目6158の一部	個人住宅建設	252.68	10月10日	—	盛土保存適用
20	中道遺跡 第74地点	柏町5丁目2983-4	個人住宅建設	269.93	10月11日	11月18日～平成 26年1月24日	発掘調査
21	中野遺跡 第49地点	柏町1丁目1504-4他	電力埋設トラフ撤去 工事	30.00	—	—	工事立会
22	中野遺跡 第86地点	柏町1丁目1515-14	電柱工事	1.00	—	—	工事立会
23	城山遺跡 第82地点	柏町3丁目2617-1	分譲住宅建設	685.66	11月28日・ 29日	1月27日 ～3月25日	(平成25年度) 発掘調査面積：298.43 ㎡
						4月1日 ～5月16日	(平成26年度) 発掘調査面積：387.23 ㎡
24	西原大塚遺跡 第199地点	幸町3丁目7296-1	個人住宅建設	174.51	12月2日	2月3日 ～21日	発掘調査

第2表 平成25年度調査地点一覧(1)

番号	調査地点	所在地	調査原因	面積 (㎡)	確認調査日	発掘期間	備考
25	西京大塚遺跡 第198地点	幸町3丁目7296-1	個人住宅建設	430.01	12月16日・ 17日	—	盛土保存適用
26	中道遺跡 第75地点	柏町4丁目2671-6	個人住宅建設	228.54	12月19日	—	盛土保存適用
27	西京大塚遺跡 第22地点	幸町4丁目8103、8104	個人住宅建設	183.06	平成3年 7月19日	—	慎重工事
28	中野遺跡 第87地点	柏町1丁目1484-12	個人住宅建設	159.36	平成26年 1月21日	3月6日 ～17日	発掘調査
29	城山遺跡 第83地点	柏町3丁目2638-1、2639- 1、2639-2の一部	個人住宅建設	99.48	2月7日	—	盛土保存適用
30	田子山遺跡 第131地点	本町2丁目1700-1	学校校舎建替	2,196.00	2月26日 ～28日	—	平成26年度発掘調査実施
31	城山遺跡 第84地点	柏町3丁目2656の一部	駐車場建設	100.00	2月25日	—	盛土保存適用
32	田子山遺跡 第132地点	本町2丁目1690-1・11・12	分譲住宅建設	884.00	3月12日 ～14日	—	平成26年度発掘調査実施
33	西京大塚遺跡 第200地点	幸町2丁目6251	分譲住宅建設	75.55	3月17日	—	平成26年度発掘調査実施
合 計				9,805.55			

第2表 平成25年度調査地点一覧(2)

て、鏡かがみの札ふだである鉄製品1点と鉄鏡1点が出土している。出土した遺構は、19世紀前半の86号土坑であるため混入品となるが、「柏の城」に関連する資料として大変重要な資料に加わったと言える。

平成11～14(1999～2002)年度にかけて発掘調査が実施された中野遺跡第49地点からは、段切状遺構の坑底面から頭を北に向け横臥屈葬された人骨を出土した67号土坑、その他、ピット列・土坑・井戸跡・溝跡などが検出された。その後、平成27(2015)年度に第49地点の北側に隣接する第95地点の調査が実施され、段切状遺構の坑底面より、新たな土坑45基・井戸跡2基・溝跡1本・ピット231本などが検出された。特に、土坑のうち、市内で初めて「T字形」の火葬土坑5基が検出されたことは特筆すべきである。こうした墓域的な様相が僅かながら判明しつつある中、この一帯が『館村日記』に記載がある「村中の墓場」関連に相当する遺構ではないかとの見方がある。

中道遺跡では、昭和62(1987)年の第2地点から人骨を伴う地下式坑、掘立柱建築遺構が検出され、平成7(1995)年の第37地点からは、人骨と古銭5枚を出土した土坑墓1基と13世紀に比定される青磁盤1点を出土した道路状遺構1条が検出されている。

新邸遺跡では、昭和60(1985)年の第1地点から段切状遺構の平場から多数の土坑・地下式坑が検出され、平成15(2003)年の第8地点からは、人骨と六文銭を伴う火葬墓2基が検出されている。おそらく、この新邸遺跡から中道遺跡一帯は、『館村日記』に記載がある「大塚千手堂」であり、古くは天台宗の「七堂大伽藍」を誇る「松林山観音寺大受院しょうりんざんくわんおんのんにだいじゆいん」関連遺構と考えられる。その後、平成25(2013)年には、中道遺跡第74地点の発掘調査が実施され、段切状遺構の平場から多数のピットや溝跡などが検出され、上記を裏付ける追加資料となった。

7. 近代以降

近代以降の遺跡では、平成5（1993）年に発掘調査が実施された田子山遺跡第31地点から、敷島神社境内に存在する富士塚の築造（明治2～5年）に関連するローム探掘遺構が検出されている。この遺構の坑底面からは、鋤・鎌などの無数の工具痕が観察され、探掘作業がかなり組織的な単位で行われていたこともわかり、地域研究の重要な資料と言える。

平成15（2003）年の新邸遺跡第8地点からは、野火止水跡が検出され、市内初の発掘調査例となった。用水路の基盤面からは水付きの錆着面が確認され、底面からは大量の陶磁器が出土した。

第2節 調査に至る経緯

志木市は、都心から25km圏内に位置し、東武東上線志木ー池袋駅間を急行で20分という交通の便に恵まれ、都心近郊のベッドタウンとして発展してきた。近年の都市化に伴い、各種の開発行為も増大してきたが、とりわけ住宅建設の占める割合が高く開発による遺跡破壊が進行する状況にある。また、遺跡の集中する本町・柏町・幸町地区は都市化の最も進展する地域になっていることも遺跡破壊の事態を一層大きくしていると言える。

こうした状況の中、志木市教育委員会で文化財行政を進めていくために、埋蔵文化財を保護・保存していくことが重要な課題となっている。しかしながら、開発により遺跡の現状保存が困難な状況であり、記録保存という処置によって対処しているのが現状である。

ここで、志木市における発掘調査の経過を振り返ってみると、まず、1973（昭和48）年に西原大塚遺跡において発掘調査が実施されたのが最初の調査であろう。そして以後、1982（昭和57）年までは、志木市史編さん事業に伴う学術的な発掘調査が実施されていた。1983（昭和58）年には、志木市において遺跡調査会が組織され、1985（昭和60）年には当市にとって最大規模の調査となった城山遺跡第1地点の調査が実施された。この調査は、市内における発掘調査体制の本格的組織化の契機となり、以降志木市の埋蔵文化財保護を推進する上で大きな転換となったと言える。

そうした中、当市における開発行為、特に住宅建設については小規模のものが多いことから、こうした小規模の開発にも対応する必要がある。しかし、小規模な開発の当事者は個人で、その個人が専用に使用する住宅の建設についての記録保存の実施については、費用の負担など記録保存を進める上で困難な点が多かった。そのため、1987（昭和62）年以降、国・県よりの補助金の交付を受け、志木市教育委員会を主体とした発掘調査を実施することになったのである。さらに、民間・公共事業を問わず確認調査については、すべて公費で対応し、開発事業者の負担軽減と埋蔵文化財包蔵地の詳細な分布状況の把握を積極的に進めている。特に、発掘調査件数及び面積が、1987（昭和62）年以降急激に増加しているのは、こうした理由によるものと考えられる。

最近では、昭和40年前後の人口増加が始まった頃に建設された個人住宅の建て替えも多くなってきており、平成2年度以来、個人住宅建設に伴う調査件数が増加してきている。また、平成8年度は全体の調査件数及び面積が激減しているが、教育委員会で行った発掘調査の件数は逆に過去最高の9件のぼり増加したという現象が生じた。これは、平成7年度に調査対象区域の見直しを行ったことが影響したのと考えられる。その見直しの内容は、今まで「遺跡の存在する可能性が高い地域」でも発見が全

く無かった地域を過去の調査成果により割り出し、その地域については「将来遺跡が発見される可能性のある地域」に変更したというものである。なお、平成9年度より、遺跡の現状保存を目的とするため、遺跡の盛土保存を適用するに至っている。

平成10年度以降は、西原大塚遺跡内における個人住宅建設を中心とした各種開発が著しい増大を見せている。これは、平成5年度以降、西原大塚遺跡内では土地区画整理事業が開始され、これに伴い発掘調査が実施されているが、工事の完了後に周辺地域の開発が始まったためと考えられる。今後は、この地域の開発については、市内の他地域よりも増大することが予想されるため、埋蔵文化財保存事業についても充分留意しなくてはならないであろう。

なお、教育委員会は、平成15年1月、今までに集積された調査データに基づいて、遺跡の存否及び範囲について大々的に修正を行った。これにより、市場遺跡・水川前遺跡の2遺跡の削除と中野・城山・中道・西原大塚・新邸・田子山・富士前・市場裏遺跡の8遺跡の一部範囲が縮小され、市内遺跡総数は14遺跡に変更されることになった。同時にこれは、手続き上に係る事務量の削減と確認調査に使用する重機のコスト削減を目的とし、効率的な事業の運営を図ったものであった。

平成20年度以降は、今まで実施してきた「遺跡調査会方式」を廃止し、新規事業から「市直営方式」の導入を開始した。つまり、志木市では、個人及び民間による各種開発に伴う発掘調査（個人住宅建設を除く）については、今まで志木市遺跡調査会を発足させ、実施してきたが、職員の派遣や手続法などによる問題点を考慮し、平成20年度以降の新規事業からは、市直営による受託事業として実施することになった。特に、市の既調査組織では対応できない中・大規模の調査については、民間調査組織への支援業務委託により実施することになった。

また、令和元年度には、受託事業のうち、民間調査組織への支援業務委託により実施した事業については、「民営方式」を取り入れることで対応することとした。

最後に本報告で掲載する平成25年度の調査内訳について以下にまとめることにする。

平成25年度は、全保存事業対象の件数は33件、そのうち確認調査件数28件、発掘調査件数7件、盛土保存適用件数16件、工事立会件数19件であった。工事内容の内訳件数は、個人専用住宅建設18件、分譲住宅建設5件、宅地造成を伴う分譲住宅建設2件、共同住宅建設2件、店舗建設1件、学校校舎建替工事1件、駐車場建設1件、電力埋設トラフ撤去工事1件、ブロック土留及びフェンス設置工事1件、電柱工事1件である。

【註】

註1 平成26年度「全国都道府県市区町村別面積調」により、9.06㎢から9.05㎢に変更された。

註2 『館村旧記』は、館村（現在の志木市柏町・幸町・館）の名主宮原右衛門伸恒が、享保12～14（1727～1729）年にかけて執筆したものである。

註3 『廻回雑記』は、左大臣近衛房嗣の子で、京都聖護院門跡をつとめた道興准后が、文明18年（1486）6月から10ヶ月間、北陸路から関東各地をめぐる、駿河甲斐にも足をのぼし、奥州松島までの旅を紀行文にまとめたものである。

【引用文献】

- 神山健吉 1988 「廻回雑記」に現れる 大石信濃守の館と十五坊の所在についての一考察 『郷土志木』第7号
2002 「道興をめぐる二つの譚説を糾す」 『郷土志木』第31号

第2章 市場裏遺跡第21地点の調査



第2図 市場裏遺跡の調査地点 (1/3,000)

れ、第1回目の発掘調査が実施されている。確認調査はこれまでに25地点を実施している（第2図）。発掘調査を実施した地点は第1・2・3・13・21・23地点である。発掘調査によって検出された遺構は、縄文時代の土坑1基、弥生時代後期から古墳時代前期の住居跡6軒、方形周溝墓6基、中世以降の土坑6基であり、弥生時代後期～古墳時代前期の集落跡・墓跡を中心とした遺跡であると考えられる。

（2）発掘調査の経過

確認調査は、平成25年1月21日に実施した。調査区内の東西方向に2本のトレンチを設定し、バックホーを使用し表土を剥ぎ、同時に遺構確認作業を行った。その結果、弥生時代後期～古墳時代前期の住居跡3軒を確認した（第3図）。そのため、ただちに依頼者に調査の結果を報告し、保存対策について検討を依頼したが、保護層30cm以上を確保することは難しく、盛土保存は不可能であるという回答を得た。そのため、平成25年2月13日から発掘調査を実施することに決定した。

以下、発掘調査の大まかな経過を説明することにし、各遺構の精査経過については、第3表の発掘調査工程表に示した。

2月13日 重機により調査区の表土剥ぎ作業を開始する。

14日 人員導入による発掘作業を開始する。調査前の準備として、器材をトラックに積載し、現地に搬入する。重機による表土剥ぎ作業を終了し、調査区の整備と細部の遺構確認作業を行い、遺構検出状況の写真撮影を行う。

15日 弥生時代後期～古墳時代前期の住居跡（3Y）・方形周溝墓（4方、5方）の精査を開始する。本日中には4方を完掘した。

18日 4方の完掘全景写真撮影を行う。土層断面図および平板測量で平面図を作成する。

19日 4方のエレベーション図を作成し、調査を終了する。4方の北側に一部重複して弥生時代後期～古墳時代前期の方形周溝墓（6方）を検出。6方の精査を開始する。土層断面の写真撮影、土層断面図を作成し、完掘する。平面図、エレベーション図を作成し、完掘全景写真撮影を行い、6方の調査を終了する。5方の土層断面の写真撮影、および土層断面図を作成する。3Yでは掘り下げてすぐに硬化した面が検出された。サブトレンチを入れ、土層の堆積状況、床面の確認をいくつか、精査を進めた。

20日 5方ではセクションベルトを掘削し、完掘する。平面図、エレベーション図を作成する。

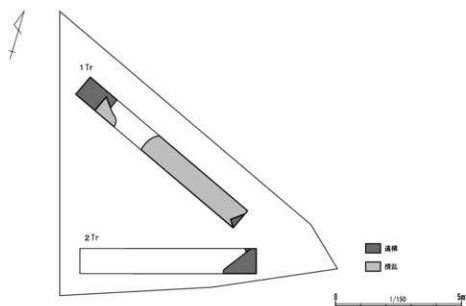
21日 5方の完掘全景写真撮影を行い、調査を終了する。

22日 縄文時代の土坑（5D）の精査を開始する。5D完掘兼断面写真の撮影を行い、断面図・平面図を作成し、調査を終了する。

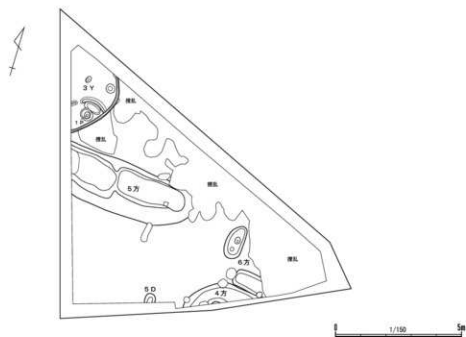
25日 3Yでは住居東側で赤色砂利層を検出。住居西壁際で床面を確認した。床面付近からは焼土、炭化材を検出した。遺物・炭化材出土状況、焼土検出状況の写真撮影を行い、遺物の取り上げ、炭化材、焼土範囲を平面図で記録した。凸堤を検出。

26日 3YのP2、貯蔵穴の精査。断面写真撮影等の記録を行い、完掘する。3Yの完掘全景写真撮影を行い、平面図を作成した。

27日 3Y貼床の精査を行う。断面図に貼床断面を追加し、完掘後、掘り方全景の写真撮影を行い、掘り方平面図を作成する。3Yの精査を終了する。器材の片付けを行い、撤出作業を行う。



第3図 確認調査時の遺構分布図 (1/150)



第4図 遺構分布図 (1/150)

	平成25年2月																												3月
	13日	14日	15日	16日	17日	18日	19日	20日	21日	22日	23日	24日	25日	26日	27日	28日	1日												
表土削ぎ作業 (縄文時代)	2:19	2:14																											
5 D (弥生時代)																						2:22	2:22						
3 Y	2:15			2:27																									
4 方	2:15			2:19																									
5 方	2:15			2:21																									
6 方							2:19		2:19																				
埋戻し																											2:28	3:1	

第3表 市場裏遺跡第21地点の発掘調査工程表

2月28日 埋め戻しを開始する。

3月1日 埋め戻しを終了し、本日で全作業を完了する。

第2節 検出された遺構・遺物

(1) 概要

今回の調査で検出された遺構については、縄文時代の土坑1基（5D）、弥生時代後期～古墳時代前期の住居跡1軒（3Y）・方形周溝墓3基（4～6方）、時期不明のピット（1P）が検出された。遺構外出土遺物としては、近世以降の陶磁器・土器が出土した。

(2) 住居跡

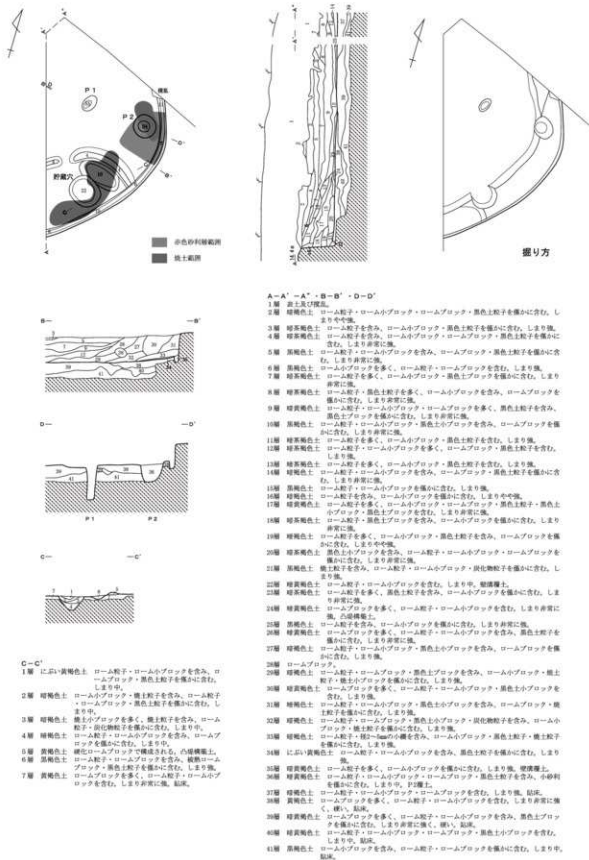
3号住居跡

遺構（第5・6図）

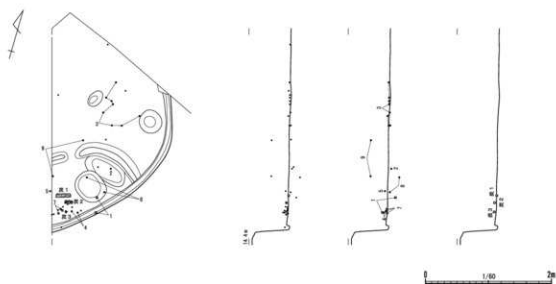
位置 調査区北端部。

検出状況 5方の内側方台部にある。1Pに切られる。

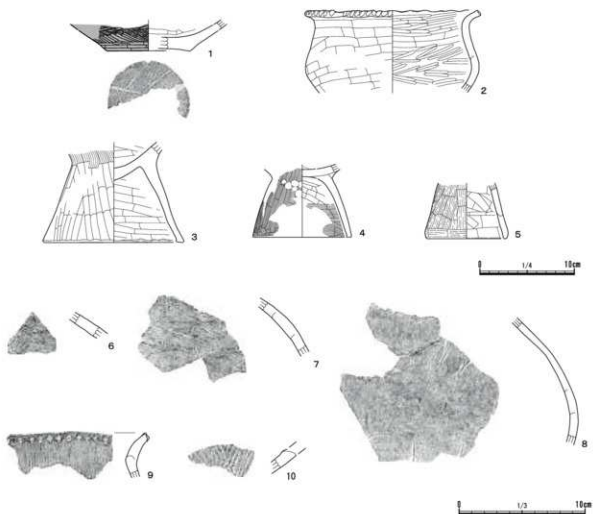
構造 平面形：隅丸方形か。規模：不明。遺構確認面からの深さ40～50cm。壁：ほぼ垂直に立ち上がる。主軸方位：不明。壁溝：確認できた範囲では全周する。上幅11cm前後／下幅5cm前後／床面からの深さ6～11cm。床面：全面に硬化している。炉：確認できなかった。貯蔵穴：住居南東コーナー付近から検出された。51×43cmの隅丸長方形を呈し、深さは22cm。周囲には幅22cm程で高さ4cmの凸堤が弧状に巡らされている。また、貯蔵穴の東側で凸堤との間に70×33cmの楕円形で、10cm程度の窪みが認められた。柱穴：P1は主柱穴と考えられる。P1は27×20cmの楕円形で、深さ55cm。P2は赤色砂利層の除去後に検出された。36×35cmの円形で、深さ34cm。赤色砂利層：貯蔵穴の東側の住居南東コーナーから検出された。検出範囲は80×67cm、層厚は10cm程度。特にP2の南側付近に砂・小礫が多かった。入口施設：検出されなかった。掘り方：壁際では8cm程度の深さで掘り込まれ、中央部分は26cm前後の深さで掘り込まれており、壁際から中央部分にかけて段差になっている。掘り方底面には工具痕と思われる凹みが多く観察された。その他：南東コーナーで焼土範囲を検出した。焼土範囲は床面、貯蔵穴、凸堤、赤色砂利層の上から検出されている。



第5図 3号住居跡 (1/100)



第6図 3号住居跡遺物出土状態 (1/60)



第7図 3号住居跡出土遺物 (1/4・1/3)

[覆 土] 住居覆土は40層(2~41層)に分層された。9・26・30層はロームブロックを多く含む暗黄褐色土で、覆土中層にレンズ状・ブロック状に堆積していた。覆土のしまりは全体的に強く、特に中層の4・5・7~10・14・17・18・26層、下層の20・25層が非常に強い。堆積状況から本住居跡は人為的に埋め戻された可能性がある。

[遺 物] 壺・甕形土器が出土した。第7図1は貯蔵穴と壁溝からの出土で、第7図2・3・4・7は床面直上からの出土である。第7図8は貯蔵穴からの出土である。なお、P1覆土上層およびP1西脇の窪み(セクションD-D'を参照)に微細な炭化物が確認されたため、覆土をサンプリングし、自然科学分析を行った。分析結果については、119ページを参照。また、炭化材が貯蔵穴の西隣で床面直上から検出された。炭化材の樹種同定の結果については、121ページ参照。

[時 期] 弥生時代後期後葉~古墳時代前期初頭。

[所 見] 本住居跡は、壁際のみではあるが、炭化材および焼土が床面から検出されており、焼失住居の可能性もある。また、覆土については通常の自然堆積による覆土とは異なり、高圧力により覆土の中~下層が特に硬化している状況であった。5方との新旧関係は不明だが、5方の内側方台部に構築されていることから、本住居跡が埋め戻された後、5方が構築されたために覆土の硬化が生じたと推測できる。

遺 物 (第7図、図版4-1、第4表)

1・6~8は壺形土器、2~5・9・10は甕形土器である。

図版番号 図版番号	器種	遺存度	法量 (cm)	特 徴	胎 土	調 整	出土位置
第7図1 図版4-1-1	壺	胴部下半 ~底部 40%	高 [3.3] 底 (8.7)	底部は斜面或は文様/底部に木葉道 /外面に赤彩/9と同一個体と思 われる	暗黄褐色/黄褐色粒 子を多く、砂粒を含む	内面:ヘラナデ/外面:細かい ハゲ目調整後ヘラ着き調整	貯蔵穴内と壁 溝内
第7図2 図版4-1-2	甕	口縁部~ 胴部中位 20%	高 [3.3] 底 (8.7)	小型甕/口縁部は短く外反する/ 口唇端部に押捺/最大径は口縁部 と胴部中位はほぼ同じ	暗黄褐色/黄褐色粒 子を多く、砂粒を含む	内面:ヘラナデ後ヘラ着き調 整/外面:横方向にヘラナデ	貯蔵穴と凸堤 の間の窪み内
第7図3 図版4-1-3	甕	胴部下半 ~脚台部 60%	高 [8.0] 底 (11.2)	台付甕/「ハ」字状の脚台部/脚 台部内面の天井部は丸く出尻状/ 箱端部は平坦	暗黄褐色を基調/黄 褐色粒子を多く、砂 粒を含む	内面:胴部及び脚台部はヘラ ナデ/外面:胴部から脚台部 にかけてハゲ目調整、以下は 縦方向のヘラナデ	P1・P2付近の 床面上から散 在的
第7図4 図版4-1-4	甕	胴部下半 ~脚台部 20%	高 [7.7] 底 (10.5)	台付甕/「ハ」字状の脚台部/箱 端部は平坦	暗黄褐色を基調/黄 褐色粒子を多く、砂 粒を含む	内面:胴部はヘラナデ、脚台 部はヘラナデ後ハゲ目調整/ 外面:縦方向にハゲ目調整	貯蔵穴南側の 床面上
第7図5 図版4-1-5	甕	脚台部 30%	高 [5.9] 底 (8.4)	台付甕/「ハ」字状の脚台部/箱 端部は丸い	暗黄褐色を基調/黄 褐色粒子・砂粒を含む	内面:ヘラナデ/外面:粗いハ ゲ目調整	貯蔵穴南側の 覆土中(床面土 4cm)
第7図6 図版4-1-6	壺	胴部上半 小破片	厚0.8	LRの単面斜縄文を全文後に2条 の白縄粘附文がまわる/円形赤彩 文あり	暗黄褐色/黄褐色粒 子を多く、砂粒を含む	内面:ヘラナデか	覆土中(確認調 査時に出土)
第7図7 図版4-1-7	壺	胴部破片	厚0.7	球状を呈する胴部/外面は黒く煤 けている	暗黄褐色/黄褐色粒 子を多く、砂粒を含む	内面:ヘラナデ/外面:ハゲ目 調整後粗いヘラ着き調整	貯蔵穴南側の 床面上
第7図8 図版4-1-8	壺	胴部上半 ~下半破 片	厚0.6	外面に赤彩/1と同一個体と思わ れる	暗黄褐色/黄褐色粒 子を多く、砂粒を含む	内面:ヘラナデ/外面:細かい ハゲ目調整後ヘラ着き調整	貯蔵穴内
第7図9 図版4-1-9	甕	口縁部破 片	厚0.8	口縁部は外反する/口唇部外面に 斜み目がまわる/外面を中心に黒 く煤けている	暗黄褐色を基調/砂 粒を含む	内面:ヘラナデ/外面:ハゲ目 調整	凸堤付近の覆 土中(床土28・ 30cm)
第7図10 図版4-1-10	甕	胴部下半 小破片	厚0.7	脚台部にかけて緩やかにカーブす る	暗黄褐色を基調/砂 粒を含む	内面:ヘラナデ/外面:粗いハ ゲ目調整	貼床内

第4表 3号住居跡出土土器一覧

(3) 方形周溝墓

4号方形周溝墓

遺構 (第8図)

[位置] 調査区南端部。

[検出状況] 北西コーナー部分(北溝・西溝)を検出。遺構の大半は調査区外であり、全容は不明である。6方に切られる。部分的に攪乱を受けている。

[構造] 平面形：隅丸方形か。規模：不明。長軸方位：不明。

(北溝) 規模：検出長1.28m/上軸0.85m/下幅0.55m/遺構確認面からの深さは25cm。断面形：皿状を呈する。壁：緩やかに立ち上がる。主軸方位：N-79°-W。溝底：平坦である。覆土：4層(セクションA-A'東側断面：2~5層)に分層された。上層(2層)は黒褐色土であり、厚く堆積する。下層(3~5層)は茶褐色土・暗褐色土で、壁付近から底面にかけて薄く堆積している。堆積状況から自然堆積と考えられる。

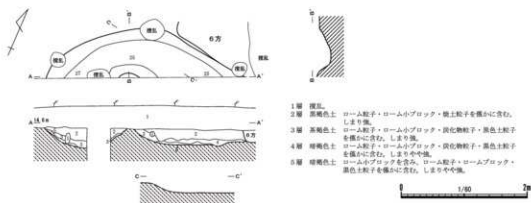
(西溝) 規模：検出長0.90m/上軸0.84m/下幅0.45m/遺構確認面からの深さは27cm程度。断面形：皿状を呈する。壁：緩やかに立ち上がる。主軸方位：N-11°-E。溝底：平坦である。覆土：3層(セクションA-A'西側断面：2・3・5層)に分層された。上層(2層)は黒褐色土であり、厚く堆積する。下層(3・5層)は茶褐色土・暗褐色土で、壁付近から底面にかけて薄く堆積している。堆積状況から自然堆積と考えられる。

[遺物] 覆土中から壺・甕形土器の破片が出土した。

[時期] 弥生時代後期~古墳時代前期。

遺物 (図版4-2、第5表)

1は甕形土器の小破片である。2は壺形土器の小破片である。



第8図 4号方形周溝墓 (1/60)

図版番号	器種	遺存度	法量 (cm)	特徴	胎土	調整	出土位置
図版4-2-1	甕	別部小破片	—	内面は剥離	暗黄褐色/黄褐色粒子・砂粒を含む	内面:剥落により不明/外面:ヘラ磨き調整	覆土中
図版4-2-2	壺	口縁部小破片	厚0.4	口縁部は平坦で、刻み目なし/内外面黒く燻けている/外面は一部剥離	灰褐色/黄褐色粒子を多く含む	内外面:横ナデか	覆土中

第5表 4号方形周溝墓出土土器一覽

5号方形周溝墓

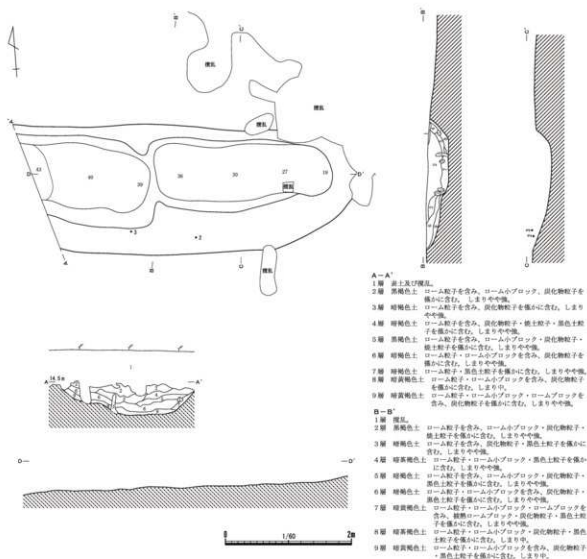
遺 構 (第9図)

[位 置] 調査区北端部。

[検出状況] 周溝の一部を検出。断面を見ると、南側立ち上がりが緩やかな傾斜を示していることから、本周溝は南溝と考えられる。東側を部分的に攪乱されている。北溝、南溝西側、西溝、東溝は調査区外であり、全容は不明である。

[構 造] 平面形：不明。南東隅は切れる。規模：不明。長軸方位：不明。

(南 溝) 規模：検出長5.15 m / 上幅1.90~2.08 m / 下幅0.85~1.04 m / 遺構確認面からの深さ19~43 cm。断面形：逆台形だが、南側の立ち上がりが段差状を呈する。壁：北側は35~40°の角度で、南側は緩やかに立ち上がる。主軸方位：N-85°-W。溝底：セクションD-D'をみると、東から西にかけて深くなっており、中央付近で段差が観察された。覆土：上層は黒褐色土・暗褐色土(セクションA-A'の2~6層、セクションB-B'の2・3・5・6層)といった暗い色調の土層であり、これらの土層が本溝の覆土の大半を占める。下層は暗黄褐色土・暗茶褐色土(セクションA-A'の8~9層、セクションB-B'の7~9層)で、底面に薄く堆積している。堆積状況から自然堆積と考えられる。



第9図 5号方形周溝墓 (1/60)



第10図 5号方形周溝墓出土遺物(1/3)

検出番号 図版番号	器種	遺存度	法量 (cm)	特徴	胎土	調整	出土位置
第10図1 図版4-3-1	甕	口縁部小 破片	厚0.6	単純口縁/口縁部は外反する/内 外面に赤彩	暗黄褐色/黄褐色粒 子・砂粒を含む	内外面:横方向のヘラ磨き調 整	覆土中
第10図2 図版4-3-2	甕	胴部破片	厚0.6	球胴状/外面に赤彩/外面に黒斑	淡黄褐色/黄褐色粒 子・橙色粒子をやや 多く含む	内外面:ヘラ磨き調整	覆土中(溝底 上11cm)
第10図3 図版4-3-3	甕	胴部破片	厚0.8	球胴状/外面に赤彩	暗黄褐色/黄褐色粒 子・砂粒を含む	内面:ヘラナデ/外面:ヘラ磨 き調整	覆土中(溝底 上20cm)

第6表 5号方形周溝墓出土土器一覧

〔遺物〕甕形土器の破片が出土した。

〔時期〕弥生時代後期～古墳時代前期。

〔所見〕検出された溝跡は断面形から南溝と考えられる。3Yは本溝跡の北側に位置し、本方形周溝墓の内側方台部に位置する。そのため、3Yと同時併存していたとは考えにくい。今回の調査では3Yとの重複が確認できず、新旧関係は不明であるが、3Yの覆土の所見から、3Yが人為的な埋め戻しによる埋没後、本方形周溝墓が構築されたと推測する。

〔遺物〕(第10図、図版4-3、第6表)

1～3は甕形土器の破片である。

6号方形周溝墓

〔遺構〕(第11図)

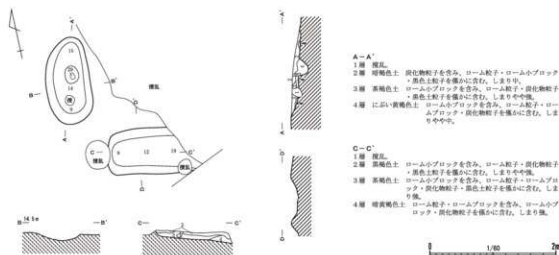
〔位置〕調査区東端部。

〔検出状況〕西溝と南溝の一部を検出した。北溝と東溝については調査区外であり、全容は不明である。南溝が4方を切る。南溝の東側は大きな攪乱を受けている。

〔構造〕平面形:北西・南西四切れの方形か。規模:不明。長軸方位:不明。

(西溝)規模:長さ1.27m/上軸0.70m/下幅0.46m/遺構確認面からの深さは9～15cm。断面形:皿状を呈する。壁:緩やかに立ち上がる。主軸方位:N-8°-E。溝底:概ね平坦である。溝底中央付近にピット状の掘り込みが確認された。深さは遺構検出面から29cm。覆土:3層(2～4層)に分層された。上層は暗褐色土(2層)である。下層は茶褐色土(3層)・にぶい黄褐色土(4層)といった明るい色調の覆土で、底面に薄く堆積している。堆積状況から自然堆積と考えられる。

(南溝)規模:検出長1.50m/上軸0.72m/下幅0.45m/遺構確認面からの深さは9～19cm。断面形:皿状を呈する。壁:緩やかに立ち上がる。主軸方位:N-79°-W。溝底:概ね平坦だが、東側で僅かに傾斜が見られる。覆土:3層(2～4層)に分層された。上層は黒褐色土(2層)であり、



第11図 6号方形周溝墓(1/50)

下層は茶褐色土(3層)・暗黄褐色土(4層)といった明るい色調の覆土である。堆積状況から自然堆積と考えられる。

〔遺物〕 出土しなかった。

〔時期〕 弥生時代後期～古墳時代前期。

(4) 土坑

5号土坑

〔遺構〕 (第12図)

〔位置〕 調査区南端部。

〔検出状況〕 北半を検出。南半は調査区外に延びる。

〔構造〕 平面形：楕円形か。規模：検出長0.36m／幅0.40m／深さ25cm。壁：急角度で直線的に立ち上がる。長軸方位：N-3°-E。

〔覆土〕 2層(2・3層)に分層された。

〔遺物〕 出土しなかった。

〔時期〕 覆土の観察から、縄文時代と思われる。

(5) ピット

1号ピット

〔遺構〕 (第13図)

〔位置〕 調査区西端部。

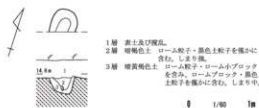
〔検出状況〕 3Yを切る。

〔構造〕 平面形：円形。規模：径22cm／深さ44cm。

〔覆土〕 3層に分層された。

〔遺物〕 出土しなかった。

〔時期〕 不明。



第12図 5号土坑 (1/60)



第13図 1号ピット (1/60)

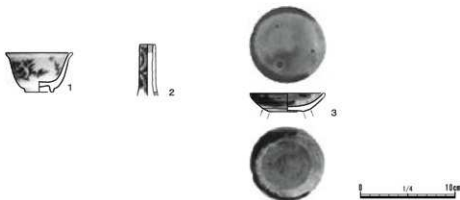
(6) 遺構外出土遺物

ここでは、表土や攪乱から出土した遺物、そして遺構内であるが、明らかに他時代の混入品である遺物を前節までの各時代の出土遺物と区別し、遺構外出土遺物として扱う。

今回、遺構外出土遺物としては、近世以降の陶磁器・土器を掲載する。

①近世以降の陶磁器・土器 (第14図1~3、図版4-4、第7表)

1・2は磁器、3・4は陶器、5・6は土器である。



第14図 遺構外出土遺物 (1/4)

押図番号 図版番号	種別	器種	法量 (cm)	製作の特徴等	推定産地	出土位置	時期
第14図1 図版4-4-1	磁器	碗	高4.2 口7.1 底3.0	端反形/型紙刷り/化学コバルト/外面:草花文/遺存度50%	瀬戸・美濃系	遺構外 (確認調査)	近世 (19c後半)
第14図2 図版4-4-2	磁器	小瓶	高15.4 口1.7	瓶形/袋付/文様は始唐草/口縁部破片	肥前系	遺構外 (掘瓦)	近世 (19c)
第14図3 図版4-4-3	陶器	皿	高2.0 口8.0 底3.5	灯明具/平底/内面に灰釉/内面:ピン留め3か所/外面口縁部に油煙付着/定形品	瀬戸・美濃系	遺構外 (掘瓦)	近世 (19c)
図版4-4-4	陶器	甕	厚0.5	内面に鉄釉、外面に白濁釉/胎土の色調は黒褐色/胎土は精錬されている/体部小破片	不明	遺構外 (確認調査)	近世 (19c)
図版4-4-5	土器	皿	厚0.3	口縁部はやや内湾気味/色調は暗黄褐色/胎土に砂粒を僅かに含む/口縁部~体部小破片	在地系	遺構外 (確認調査)	近世 (19c)
図版4-4-6	土器	焙烙	厚0.4	色調は暗茶褐色/胎土に金雲母・砂粒を含む/底部小破片	在地系	遺構外 (5方掘瓦)	近世 (19c)

第7表 遺構外出土陶磁器・土器一覧

第3章 西原大塚遺跡第199地点の調査

第1節 遺跡の概要

(1) 立地と環境

西原大塚遺跡は、志木市幸町2～4丁目に広がる遺跡で、東武東上線志木駅の西方約1kmに位置している。遺跡の大きさは、北東―南西方向に約700m、北西―南東方向に約150mの範囲をもち、遺跡面積164,960㎡を測る市内最大規模の遺跡である。柳瀬川右岸に面し、河川低地から上がった台地の縁辺に沿って遺跡が広がっている。

この遺跡では、平成5年度以降に西原特定土地区画整理事業に伴う、道路部分の発掘調査が本格的に実施され、平成18年度に完了している。しかし、近年では、その後の道路の完成に伴い、個人住宅・建売住宅建設などを中心とした小・中規模開発が急増している。これにより、本遺跡の調査件数は、令和2年12月28日現在で、233地点にのぼり、市内最多の調査件数になっている（第15図）。

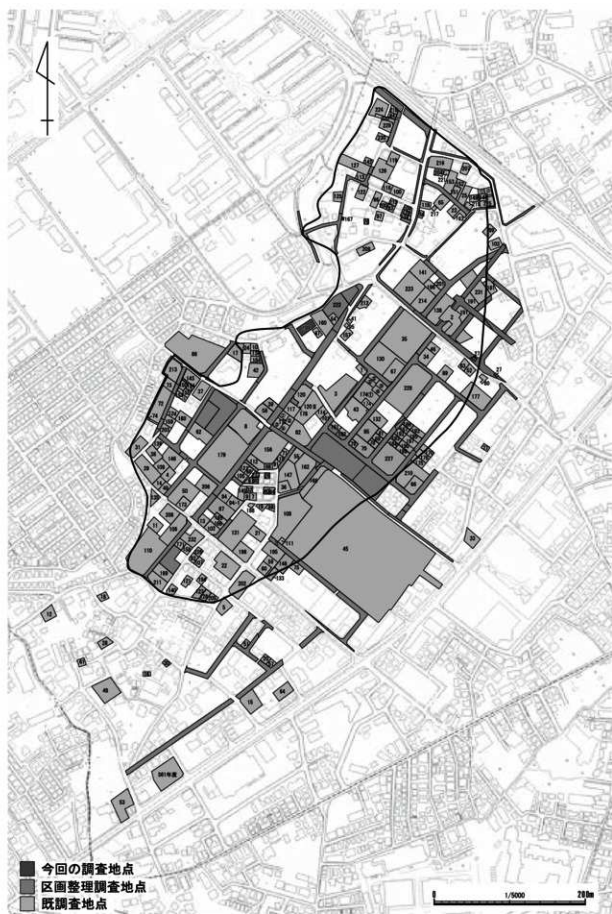
本遺跡は、1983（昭和48）年に第1回目の発掘調査が実施され、以後の調査から、旧石器時代、縄文時代前～晩期、弥生時代後期、古墳時代前・後期、奈良・平安時代、中・近世の複合遺跡であることが判明している。

(2) 発掘調査の経過

確認調査は、平成25年12月2日に実施した。調査区内の東西方向に2本のトレンチを設定し、バックホーを使用し表土を剥ぎ、同時に遺構確認作業を行った。その結果、中世以降の溝跡1本、土坑2基を確認した（第16図）。そのため、ただちに依頼者に調査の結果を報告し、保存対策について検討を依頼したが、保護層30cm以上を確保することは難しく、盛土保存は不可能であるという回答を得た。そのため、平成26年2月3日から、発掘調査を実施することに決定した。

以下、発掘調査の大まかな経過を説明することにし、各遺構の精査経過については、第8表の発掘調査工程表に示した。

- 2月3日 重機による表土剥ぎ作業を開始する。
- 5日 人員導入による発掘作業を開始する。器材を現地に搬入し、調査区の整備と細部の遺構確認作業を行った。本日中に重機による表土剥ぎ作業を終了する。
- 6日 引き続き遺構確認作業を実施し、遺構検出状況の写真撮影を行う。調査区全体に攪乱が著しく、遺構の精査前に攪乱の除去作業を行う。
- 7日 中世以降の土坑（723～725・727・728 D）の精査を開始する。
- 10日 前日の大雪のため、雪かきを行う。中世以降の土坑（720・722・726 D）の精査を開始する。723・724 Dの精査を終了する。
- 12日 中世以降の土坑（721 D）・溝跡（54 M）の精査を開始する。720・722・725・726 Dの精査を終了する。
- 13日 中世以降の土坑（729～732 D）の精査を開始する。721・727・728・730～732 D



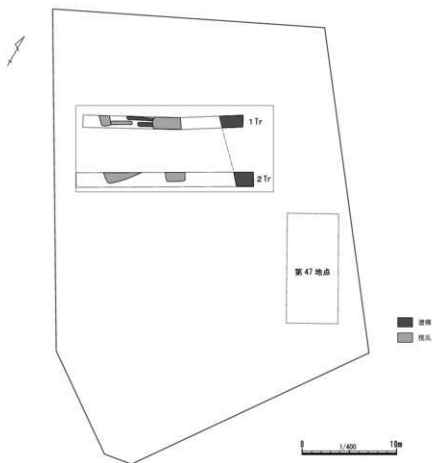
第15図 西原大塚遺跡の調査地点 (1/5,000)

令和2年12月28日現在

の精査を終了する。

17日 中世以降の土坑（733 D）の精査を開始する。729・733 Dの精査を終了する。54 Mのセクション断面の写真撮影を行い、断面図を作成する。

18日 54 Mの炭化材の検出状況の写真撮影を行う。



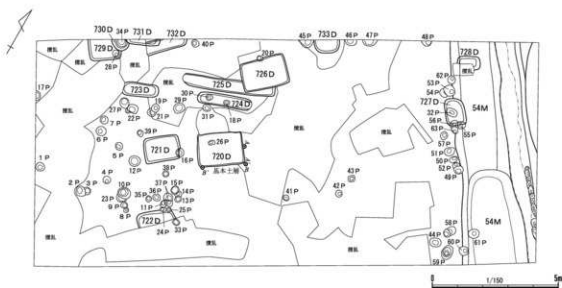
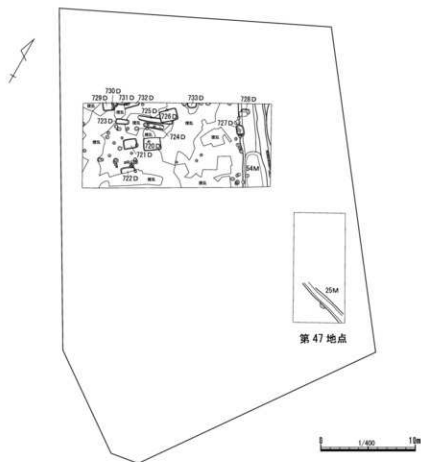
第16図 確認調査時の遺構分布図（1／400）

	平成26年2月			
	5日	10日	15日	20日
表土削ぎ作業	2.3	2.5		
720D		2.10	2.12	
721D			2.12	2.13
722D		2.10	2.12	
723D	2.7	2.10		
724D	2.7	2.10		
725D	2.7		2.12	
726D		2.10	2.12	
727D	2.7		2.12	
728D	2.7		2.12	
729D			2.12	2.17
730D			2.12	
731D			2.12	
732D			2.12	
733D				2.17
54M		2.12		2.19
埋戻し作業				2.20
				2.21

第8表 西原大塚遺跡第199地点の発掘調査工程表

19日 54 Mの完掘全景の写真撮影を行い、平面図を作成する。54 Mの精査を終了する。

20日 埋戻し作業を開始する。21日に埋戻し作業を完了する。

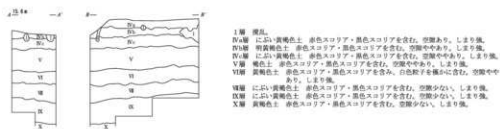


第17図 遺構分布図(1/400・1/150)

(3) 基本層序と地形

本調査区のローム層序を確認するため、調査区中央付近の720 Dの壁面を利用して深掘りトレンチを設定し、土層の記録を行った(第18図)。確認した層位は立川ローム第IV層～第X層である。立川ローム第IV層はハードローム層であり、色調の違いから、IVa、IVb、IVc層の3層に分層できた。第IVa層は第IVb層よりくすんだ色調である。立川ローム第V層は褐色土で、第一黒色帯である。立川ローム第VI層は黄褐色土で白色粒子を僅かに含む。いわゆるAT包含層準である。立川ローム第VII・IX層は第二黒色帯である。にぶい黄褐色土であり、通常の第二黒色帯よりも色調が薄い。立川ローム第X層は上層までの確認であり、層厚については分からない。

なお、各遺構の確認面は標高15.3～15.5m前後で、立川ローム第IVa～b層であった。立川ローム第III層は、調査区内では確認されなかった。このことから、立川ローム第III層が調査区全面にわたって削平された状況であると考えられる。54MのセクションF-F'(第21図)で、54M西側立ち上がりが遺構確認面より上で、45層(極暗褐色土)を切っていることから、54Mは立川ローム第III層が削平され、45層が堆積した後に構築されたと考えられる。よって、削平の時期は、54M(16世紀後半)より古く、中世もしくはそれ以前と考えられ、今回検出された中世以降の遺構は、削平後の構築と推測される。



第18図 基本土層(1/60)

第2節 検出された遺構・遺物

(1) 概要

本地点の調査では、縄文時代のピット7本(4・12・17・18・23・27・34P)、中世以降の土坑14基(720D～733D)・溝跡1本(54M)・ピット56本(1～3・5～11・13～16・19～22・24～26・28～33・35～63P)が検出された。

また、前節(3)「基本層序と地形」で検討した中で、本調査地点では、立川ローム第III層が調査区全体にわたって削平されていることが判明している。そして、54Mの土層の検討の結果、立川ローム第III層削平後、中世以降の遺構が構築されたと考えられる。立川ローム第III層の削平は、54M(16世紀後半)より古いことが分かっており、中世もしくはそれ以前となるが、古墳時代、平安時代の遺構・遺物は確認されていないため、中世に行われた可能性が高い。よって、本調査地点では、中世に土地造成が行われ、いわゆる段切状遺構が広がり、その造成面に遺構の構築があったと推察される。

(2) 土坑

720号土坑

遺構 (第19図、第9表)

位置 調査区中央やや西側。

検出状況 26 Pを切る。北壁及び東壁は一部攪乱により破壊されている。

構造 平面形：長方形。規模：長軸1.85m/短軸1.34m以上/遺構確認面からの深さ60cm。壁：ほぼ垂直に立ち上がる。長軸方位：N-56°-E。

覆土 25層に分層される。

遺物 出土しなかった。

時期 覆土の観察から、中世以降と思われる。

721号土坑

遺構 (第19図、第9表)

位置 調査区中央より西側。

検出状況 16 Pに切られる。

構造 平面形：長方形。規模：長軸1.45m/短軸1.01m/遺構確認面からの深さ51cm。壁：約85°の角度で急斜に立ち上がる。長軸方位：N-50°-E。

覆土 5層に分層される。

遺物 出土しなかった。

時期 覆土の観察から、中世以降と思われる。

722号土坑

遺構 (第19図、第9表)

位置 調査区中央より南側。

検出状況 24・25 Pに切られる。東壁は攪乱により破壊されている。

構造 平面形：長方形。規模：長軸1.51m/短軸0.56m/遺構確認面からの深さ26cm。壁：約70°の角度で立ち上がる。長軸方位：N-46°-E。

覆土 5層に分層される。

遺物 出土しなかった。

時期 覆土の観察から、中世以降と思われる。

723号土坑

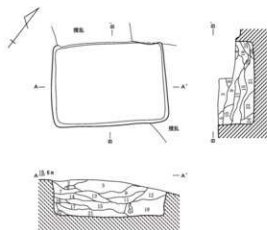
遺構 (第19図、第9表)

位置 調査区中西側。

検出状況 西壁は攪乱に破壊されている。

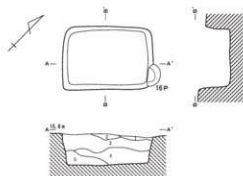
構造 平面形：長方形。規模：長軸1.43m以上/短軸0.55m/遺構確認面からの深さ13cm。壁：約70°の角度で立ち上がる。長軸方位：N-67°-E。

覆土 単層。



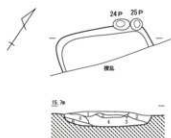
- 1層 雑土
- 2層 暗褐色土 ローム粒子を多く、ローム小ブロックを僅かに含む、しまりや中塊。
- 3層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含む、炭化物粒子・焼土粒子を僅かに含む、しまりや中塊。
- 4層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含む、しまりや中塊。
- 5層 暗褐色土 焼土粒子を含む、ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを僅かに含む、しまりや中塊。
- 6層 暗褐色土 ローム粒子を多く、ローム小ブロックを含む、焼土粒子を僅かに含む、しまり塊。
- 7層 暗褐色土 ローム粒子を含む、ローム小ブロック・焼土粒子を僅かに含む、しまり塊。
- 8層 暗褐色土 ローム粒子を含む、ローム小ブロックを僅かに含む、しまりや中塊。
- 9層 暗褐色土 ローム粒子を多く、ローム粒子・ローム小ブロックを含む、しまりや中塊。
- 10層 暗褐色土 ローム粒子を多く、ローム小ブロックを含む、しまりや中塊。
- 11層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロック・焼土粒子を僅かに含む、しまりや中塊。
- 12層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む、炭化物粒子を僅かに含む、しまりや中塊。
- 13層 暗褐色土 ローム粒子を多く、ローム小ブロックを含む、しまりや中塊。
- 14層 暗褐色土 ローム粒子を含む、ローム小ブロック・炭化物粒子を僅かに含む、しまり塊。
- 15層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを多く、ロームブロックを僅かに含む、しまり塊。
- 16層 暗褐色土 ローム粒子を僅かに含む、しまり塊。
- 17層 暗褐色土 ローム粒子を多く、ローム小ブロック・ロームブロックを含む、しまりや中塊。
- 18層 暗褐色土 ロームブロックを多く、ローム粒子・ローム小ブロック・褐色土ブロックを含む、しまりや中塊。
- 19層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを僅かに含む、しまり塊。
- 20層 暗褐色土 ローム粒子を含む、ローム小ブロックを僅かに含む、しまり塊。
- 21層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・炭化物粒子を含む、しまり塊。
- 22層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを僅かに含む、しまり塊。
- 23層 暗褐色土 ローム粒子を多く、ローム小ブロックを含む、ロームブロックを僅かに含む、しまりや中塊。
- 24層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含む、しまり塊。
- 25層 暗褐色土 ローム粒子を含む、ローム小ブロック・ロームブロックを僅かに含む、しまり塊。
- 26層 暗褐色土 ローム粒子・ロームブロック・焼土粒子を僅かに含む、しまり塊。

720号土坑



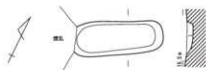
- 1層 暗褐色土 ローム粒子を含む、ローム小ブロック・焼土粒子を僅かに含む、しまりや中塊。
- 2層 暗褐色土 ローム粒子・褐色土ブロック・焼土粒子を含む、ローム小ブロック・ロームブロックを僅かに含む、しまり塊。
- 3層 暗褐色土 ローム粒子を多く、ローム小ブロック・ロームブロック・褐色土ブロックを含む、しまり塊。
- 4層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む、しまり塊。
- 5層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを多く、褐色土ブロックを含む、しまり塊。

721号土坑



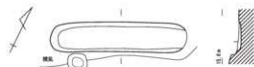
- 1層 雑土
- 2層 暗褐色土 ローム粒子を含む、ローム小ブロックを僅かに含む、しまりや中塊。
- 3層 ローム小ブロック
- 4層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを多く、ロームブロック・褐色土ブロックを含む、しまり塊。
- 5層 暗褐色土 ローム粒子を含む、ローム小ブロックを僅かに含む、しまり塊。
- 6層 暗褐色土 ローム粒子を含む、ローム小ブロックを僅かに含む、しまり塊。

722号土坑



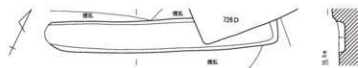
- 1層 暗褐色土 ローム粒子を多く、ローム小ブロックを含む、ローム小ブロックを僅かに含む、しまりや中塊。

723号土坑



- 1層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む、しまりや中塊。

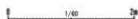
724号土坑



- 1層 暗褐色土 ローム小ブロックを多く、ローム粒子・ローム小ブロックを含む、しまりや中塊。

725号土坑

第19図 土坑1 (1/60)



[遺物] 出土しなかった。

[時期] 覆土の観察から、中世以降と思われる。

724号土坑

遺構 (第19図、第9表)

[位置] 調査区中央よりやや西寄り。

[検出状況] 18・30 Pを切る。

[構造] 平面形：楕円形。規模：長軸2.17m以上／短軸0.50m／遺構確認面からの深さ22cm。壁：約50°の角度で立ち上がる。長軸方位：N-69°-E。

[覆土] 単層。

[遺物] 出土しなかった。

[時期] 覆土の観察から、中世以降と思われる。

725号土坑

遺構 (第19図、第9表)

[位置] 調査区中央よりやや西寄り。

[検出状況] 726 Dに切られる。

[構造] 平面形：楕円形。規模：長軸3.70m以上／短軸0.52m／遺構確認面からの深さ23cm。壁：ほぼ垂直に立ち上がる。長軸方位：N-69°-E。

[覆土] 単層。

[遺物] 出土しなかった。

[時期] 覆土の観察から、中世以降と思われる。

726号土坑

遺構 (第20図、第9表)

[位置] 調査区中央よりやや北西寄り。

[検出状況] 20 Pに切れ、725 Dを切る。

[構造] 平面形：長方形。規模：長軸1.84m／短軸1.24m／遺構確認面からの深さ37cm。壁：ほぼ垂直に立ち上がる。長軸方位：N-46°-E。

[覆土] 4層に分層される。

[遺物] 出土しなかった。

[時期] 覆土の観察から、中世以降と思われる。

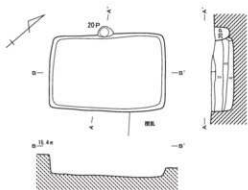
727号土坑

遺構 (第20図、第9表)

[位置] 調査区東側。

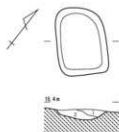
[検出状況] 54 M、32・55・56 Pを切る。

[構造] 平面形：長方形。規模：長軸1.08m／短軸0.80m／遺構確認面からの深さ11cm。壁：緩



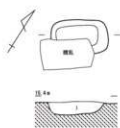
- 1層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含む。ロームブロック・機土粒子を多く含む。しまり層。
- 2層 暗褐色土 ローム粒子を多く、ローム小ブロック・黒色土ブロックを含む。ローム小ブロック・炭化物粒子を多く含む。しまりや中塊。
- 3層 暗黄褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを多く、ロームブロックを含む。機土粒子を多く含む。しまり赤皮に強。
- 4層 暗黄褐色土 ローム小ブロック・ローム小ブロックを多く、ローム粒子・黒色土ブロックを含む。しまり赤皮。

726号土坑



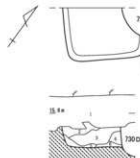
- 1層 暗褐色土 ローム粒子を含む。ローム小ブロック・機土粒子を多く含む。しまり層。
- 2層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを多く含む。しまり層。

727号土坑



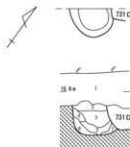
- 1層 暗褐色土 ローム粒子を含む。ローム小ブロックを多く含む。しまり層。

728号土坑



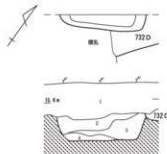
- 1層 赤土及び覆土。
- 2層 暗褐色土 ローム粒子を多く、ローム小ブロックを含む。炭化物粒子・機土粒子を多く含む。しまり中。
- 3層 暗褐色土 ローム粒子を多く、ローム小ブロックを含む。ローム小ブロック・黒色土小ブロック・炭化物粒子を多く含む。しまりや中塊。
- 4層 黄褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・ローム小ブロックを含む。しまり中。
- 5層 暗黄褐色土 ローム小ブロックを含む。ローム粒子・ローム小ブロックを多く含む。しまり中。
- 6層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・ローム小ブロックを多く含む。しまり層。

729号土坑



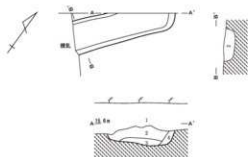
- 1層 赤土及び覆土。
- 2層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・機土粒子を多く含む。しまりや中塊。
- 3層 暗褐色土 ローム粒子を含む。ローム小ブロック・炭化物粒子・機土粒子を多く含む。しまり層。
- 4層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・ローム小ブロックを多く含む。しまり中。
- 5層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・機土粒子を多く含む。しまりや中塊。
- 6層 黄褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを多く含む。しまりや中塊。
- 7層 暗黄褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・ローム小ブロックを多く含む。しまり層。

730号土坑



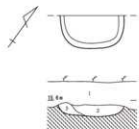
- 1層 赤土及び覆土。
- 2層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含む。機土粒子を多く含む。しまりや中塊。
- 3層 暗黄褐色土 ローム粒子を含む。ローム小ブロックを多く含む。しまり層。
- 4層 黄褐色土 ローム小ブロックを多く、ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり中。

731号土坑



- 1層 赤土及び覆土。
- 2層 暗褐色土 ローム粒子を多く、ローム小ブロックを含む。しまり層。
- 3層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含む。ローム小ブロック・炭化物粒子を多く含む。しまりや中塊。
- 4層 暗黄褐色土 ローム粒子を含む。ローム小ブロックを多く含む。しまり中。

732号土坑



- 1層 赤土及び覆土。
- 2層 暗褐色土 ローム粒子を含む。ローム小ブロックを多く含む。しまり層。
- 3層 黄褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含む。ローム小ブロックを多く含む。しまりや中塊。

733号土坑



第20図 土坑2 (1/60)

やかに立ち上がる。長軸方位：N-37°-W。

[覆 土] 2層に分層される。

[遺 物] 出土しなかった。

[時 期] 覆土の観察から、中世以降と思われる。

728号土坑

遺 構 (第20図、第9表)

[位 置] 調査区北東側。

[検出状況] 北側は攪乱により破壊されている。54 Mを切る。

[構 造] 平面形：長方形。規模：長軸0.91 m/短軸0.55 m/遺構確認面からの深さ20 cm。壁：約70°の角度で立ち上がる。長軸方位：N-62°-E。

[覆 土] 単層。

[遺 物] 出土しなかった。

[時 期] 覆土の観察から、中世以降と思われる。

729号土坑

遺 構 (第20図、第9表)

[位 置] 調査区西端。

[検出状況] 730 D、28・34 Pに切られる。北側は調査区外にあると思われる。

[構 造] 平面形：長方形か。規模：長軸1.33 m以上/短軸0.84 m以上/遺構確認面からの深さ25 cm。壁：55°程の角度で立ち上がる。長軸方位：N-58°-Eか。

[覆 土] 5層に分層される。

[遺 物] 出土しなかった。

[時 期] 覆土の観察から、中世以降と思われる。

730号土坑

遺 構 (第20図、第9表)

[位 置] 調査区西端。

[検出状況] 731 Dに切れ、729 Dを切る。北側は調査区外にあるものと思われる。

[構 造] 平面形：楕円形。規模：長軸0.6 m以上/短軸0.58 m以上/遺構確認面からの深さ36 cm。壁：ほぼ垂直に立ち上がる。長軸方位：N-50°-Wか。

[覆 土] 6層に分層される。

[遺 物] 出土しなかった。

[時 期] 覆土の観察から、中世以降と思われる。

731号土坑

遺 構 (第20図、第9表)

[位 置] 調査区西端。

遺構名	平面形	規模 (m)			長軸方位	覆土及び特徴	主な遺物	時期
		長軸	短軸	深さ				
720D	長方形	1.85	(1.34)	0.60	N-56°-E	25層/26Pを切る/北壁及び東壁は一部覆乱	遺物なし	中世以降
721D	長方形	1.45	1.01	0.51	N-50°-E	5層/16Pに切られる	遺物なし	中世以降
722D	長方形	1.51	0.56	0.26	N-46°-E	5層/24・25Pに切られる/東壁は覆乱	遺物なし	中世以降
723D	長方形 (1.43)	0.55	0.13	N-67°-E	単層/西壁は覆乱	遺物なし	中世以降	
724D	長方形 (2.17)	0.50	0.22	N-69°-E	単層/18P・30Pを切る	遺物なし	中世以降	
725D	溝状 (3.70)	0.52	0.23	N-69°-E	単層/726Dに切られる	遺物なし	中世以降	
726D	長方形	1.84	1.24	0.37	N-46°-E	4層/20Pに切られ、725Dを切る	遺物なし	中世以降
727D	長方形	1.08	0.80	0.11	N-37°-W	2層/54M、32・55・56Pを切る	遺物なし	中世以降
728D	長方形	0.91	0.55	0.20	N-62°-E	単層/54Mを切る/北側は覆乱	遺物なし	中世以降
729D	長方形か (1.33)	(0.84)	0.25	N-58°-Eか	5層/730D、28・34Pに切られる/北側は調査区外	遺物なし	中世以降	
730D	楕円形 (0.60)	(0.58)	0.36	N-50°-Wか	6層/731Dに切られ、729Dを切る/北側は調査区外	遺物なし	中世以降	
731D	長方形か (1.37)	(0.30)	0.32	N-67°-E	3層/730Dを切り、732Dに切られる/北側は調査区外	遺物なし	中世以降	
732D	長方形 (1.68)	(0.55)	0.27	N-45°-E	3層/731Dを切る/北側は調査区外/南側は覆乱	遺物なし	中世以降	
733D	隅丸長方形か	1.02	(0.52)	0.14	N-60°-Eか	2層/45Pを切る/北側は調査区外	遺物なし	中世以降

() 内の数字は現存長

第9表 土坑一覧

〔検出状況〕 730Dを切り、732Dに切られる。北側は調査区外にあるものと思われる。

〔構造〕 平面形：長方形か。規模：長軸1.37m以上/短軸0.30m以上/遺構確認面からの深さ32cm。壁：55°程の角度で立ち上がる。長軸方位：N-67°-E。

〔覆土〕 3層に分層される。

〔遺物〕 出土しなかった。

〔時期〕 覆土の観察から、中世以降と思われる。

732号土坑

〔遺構〕 (第20図、第9表)

〔位置〕 調査区西端。

〔検出状況〕 731Dを切る。北側は調査区外にあると思われる。南側は覆乱により破壊されている。

〔構造〕 平面形：長方形。規模：長軸1.68m以上/短軸0.55m以上/遺構確認面からの深さ27cm。壁：55°程の角度で立ち上がる。長軸方位：N-45°-E。

〔覆土〕 3層に分層される。

〔遺物〕 出土しなかった。

〔時期〕 覆土の観察から、中世以降と思われる。

733号土坑

〔遺構〕 (第20図、第9表)

〔位置〕 調査区中央北端。

[検出状況] 45 Pを切る。北側は調査区外にあると思われる。

[構造] 平面形：隅丸長方形か。規模：長軸1.02m/短軸0.52m以上/遺構確認面からの深さ14cm。壁：約55°の角度で立ち上がる。長軸方位：N-60°-Eか。

[覆土] 2層に分層される。

[遺物] 出土しなかった。

[時期] 覆土の観察から、中世以降と思われる。

(3) 溝跡

54号溝跡

遺構 (第21図)

[位置] 調査区東端。

[検出状況] 北西側、南東側は調査区外に延びる。727・728 D、32・49・53・55・56・60～63 Pに切られる。

[構造] 規模：検出長8.85m/検出最大幅3.26m/下端1.22～1.60m/遺構確認面(東側上端)からの深さ13～53cm。断面形：台形を基本とし、東側に段を有する。壁：緩やかに立ち上がる。長軸方位：N-40°-W。その他：最下面から東側に一段上がった面に硬化面を確認できた。硬化面は長軸方位と同じ方向で27～70cmの幅で広がる。また、南東際で硬化面に沿って連続したピット状の窪みを確認できた。

[覆土] 東側は中層～下層にかけてローム粒子・ロームブロックが目立つ暗褐色～黄褐色土が主体的である(セクションA-A'～D-D'の8・9・14・16・21・23・24層、セクションG-G'、H-H'の28～31・33層)。西側覆土中層では黒褐色・極暗褐色土(セクションA-A'～D-D'の2・3層、セクションG-G'の34・35・38層)が堆積する。この堆積状況は、検出した範囲内では、北側から南側にかけておおむね共通する。

[遺物] 土器2点(皿・甕)が出土した。また、南東側(セクションD-D'からG-G'の間)付近で、覆土中層から炭化材が検出された。

[時期] 中世(16世紀後半)。

遺物 (図版9-1、第10表)

[陶器・土器] (図版9-1、第10表)

1・2ともに土器で、1は皿、2は甕である。

(4) ピット (第22・23図、第11表)

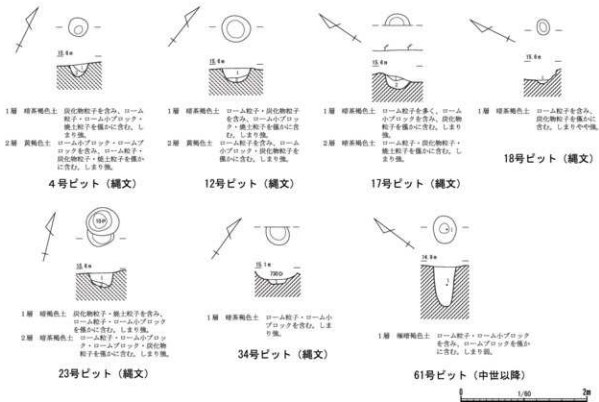
本地点で検出されたピットは合計63本で、そのうち、縄文時代のピットは7本(4・12・17・18・23・27・34 P)、中世以降のピットは56本(1～3・5～11・13～16・19～22・24～26・28～33・35～63P)であった。ここでは、遺物の出土したピットの遺物について記述するに留め、ピットの基本内容は第11表に示した。

[縄文時代]

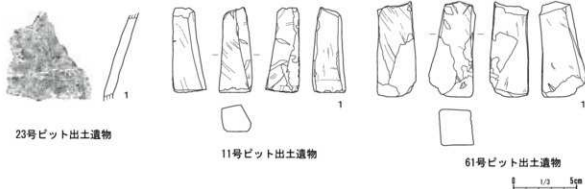
縄文時代の7本のピットのうち、遺物が出土したものは、23 Pの1本のみであった。遺物としては、中期中葉の阿玉台式土器1点が出土した(第23図1、図版9-3-1)。

探検番号 図版番号	種別	器種	法量 (cm)	特徴	推定産地	時期
図版9-1-1	土器	皿	厚0.4	器形は口縁部が僅かに内湾気味に外積する/ロクロ成形/色調は明黄褐色/胎土は茶褐色粒子・砂粒を僅かに含む/口縁部一帯部下半小破片	在地系	中世 (16c後半)
図版9-1-2	土器	甕	厚1.1	胎土の色調は淡茶褐色を基調とするが、内外面は黒色/胎土は白色砂粒を僅かに含む/内面:ロクロナデ/外面:粗い磨き調整/胴部破片	在地系	中世 (16c後半)

第10表 54号溝跡出土土器一覽



第22図 ピット (1/60)



第23図 ピット出土遺物 (1/3)

遺構名	平面形	規模(cm)			層土及び特徴	主な遺物及び備考	時期
		長軸	短軸	深さ			
1 P	隅丸方形	36	34	31	1層:ローム粒子・ローム小ブロックを含み、焼土粒子を僅かに含む暗褐色土/2層:ローム粒子・ローム小ブロックを僅かに含む黒褐色土	遺物なし	中世以降
2 P	隅丸方形	40	38	44	単層/ローム粒子・ローム小ブロックを含み、炭化物粒子・焼土粒子を僅かに含む暗褐色土	3Pを切る/遺物なし	中世以降
3 P	隅丸方形	31	31	58	ローム粒子を含み、ローム小ブロック・炭化物粒子を僅かに含む暗褐色土	2Pに切られる/遺物なし	中世以降
4 P	隅丸方形	30	29	23	2層	遺物なし	縄文
5 P	隅丸方形	30	30	13.5	単層/ローム粒子・ローム小ブロックを含み、炭化物粒子・焼土粒子を僅かに含む暗褐色土	遺物なし	中世以降
6 P	隅丸方形	40	37	39	単層/ローム小ブロックを多く、ローム粒子を含み、ロームブロックを僅かに含む暗褐色土	遺物なし	中世以降
7 P	隅丸方形	32	32	44	単層/ローム粒子・ローム小ブロック・炭化物粒子を含む暗褐色土	遺物なし	中世以降
8 P	隅丸方形	21	19	25	単層/ローム粒子・ローム小ブロックを含み、炭化物粒子・焼土粒子を僅かに含む暗褐色土	9Pを切る/遺物なし	中世以降
9 P	隅丸方形	28	26	38	1層:ローム粒子・ローム小ブロック・炭化物粒子を僅かに含む暗褐色土/2層:ローム粒子を僅かに含む黄褐色土	8Pに切られる/遺物なし	中世以降
10 P	隅丸方形	52	45	81	単層/ローム粒子・ローム小ブロックを含む暗褐色土	23Pを切る/遺物なし	中世以降
11 P	隅丸長方形	34	25	24	1層:ローム粒子を含み、ロームブロックを僅かに含む暗褐色土/2層:ローム粒子・ローム小ブロックを僅かに含む暗褐色土	37Pを切る/石製品1点(砥石)	中世以降
12 P	楕円形	46	42	24	2層	遺物なし	縄文
13 P	隅丸方形	29	25	34	単層/ローム粒子を含み、ローム小ブロック・焼土粒子を僅かに含む暗褐色土	14Pを切る/遺物なし	中世以降
14 P	隅丸方形	28	28	42	1層:ローム粒子を含む暗褐色土/2層:ローム粒子・ローム小ブロックを含む黄褐色土	13・15Pに切られる/遺物なし	中世以降
15 P	隅丸長方形	34	30	27	単層/炭化物粒子を含み、ローム粒子・炭化材・焼土粒子・焼土小ブロックを僅かに含む暗褐色土	14Pを切る/遺物なし	中世以降
16 P	隅丸方形	36	32	42	単層/ローム小ブロックを多く、ローム粒子を含み、焼土粒子を僅かに含む	721Dを切る/遺物なし	中世以降
17 P	円形か	39	(18)	24	2層	西側部分は調査区外/遺物なし	縄文
18 P	楕円形	25	20	11	単層/ローム粒子を含み、炭化物粒子を僅かに含む暗褐色土	遺物なし	縄文
19 P	隅丸方形	34	32	37	1層:ローム粒子を含み、ローム小ブロック・ロームブロックを僅かに含む暗褐色土/2層:ローム粒子・ローム小ブロックを僅かに含む黄褐色土	21Pを切る/遺物なし	中世以降
20 P	隅丸方形	24	21	29	単層/ローム粒子を含み、ローム小ブロックを僅かに含む暗褐色土	726Dを切る/遺物なし	中世以降
21 P	隅丸方形	33	(30)	38	1層:ローム粒子・ローム小ブロックを含み、焼土粒子を僅かに含む暗褐色土/2層:ローム小ブロック・ロームブロックを含み、ローム粒子・炭化物粒子を僅かに含む暗褐色土	19Pに切られる/遺物なし	中世以降
22 P	隅丸長方形	41	34	52	1層:ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロックを僅かに含む暗褐色土/2層:ローム粒子・ローム小ブロックを含む黄褐色土/3層:ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロックを僅かに含む黄褐色土	27Pを切る/一部張り出し/遺物なし	中世以降
23 P	不整形円形	43	(25)	27	2層	10Pに切られる/土器1点(阿玉台式)	縄文
24 P	隅丸長方形	27	18	22	単層/ローム粒子を多く、ローム小ブロックを含む暗褐色土	722Dを切る/遺物なし	中世以降
25 P	隅丸方形	19	19	21	1層:ローム粒子・ローム小ブロックを多く、焼土粒子を含む暗褐色土/2層:ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロックを僅かに含む暗褐色土	722Dを切る/遺物なし	中世以降
26 P	隅丸長方形	27	18	13	単層/ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロック・焼土粒子を僅かに含む暗褐色土	720Dに切られる/遺物なし	中世以降
27 P	楕円形	44	36	76	単層/ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む黄褐色土	22Pに切られる/遺物なし	縄文
28 P	隅丸長方形	32	27	22	単層/ローム粒子を多く、ローム小ブロックを含む暗褐色土	729Dを切る/遺物なし	中世以降
29 P	隅丸長方形	45	38	43	単層/ロームブロックを含み、ローム粒子を僅かに含む黄褐色土	遺物なし	中世以降
30 P	隅丸方形	26	24	41	単層/ローム粒子・ローム小ブロックを含み、炭化物粒子を僅かに含む暗褐色土	724Dに切られる/遺物なし	中世以降
31 P	隅丸方形	31	28	68	単層/ローム粒子を含み、ローム小ブロック・ロームブロックを僅かに含む暗褐色土	遺物なし	中世以降
32 P	隅丸長方形	45	29	47	単層/ローム小ブロックを多く、ローム粒子を含む暗褐色土	727Dに切られる/遺物なし	中世以降
33 P	隅丸方形	26	25	20	単層/ローム粒子を多く、ローム小ブロックを含み、黒色土ブロックを僅かに含む暗褐色土	溝底面から検出/遺物なし	中世以降

第11表 ピット一覧(1)

遺構名	平面形	規模(cm)			覆土及び特徴	主な遺物及び備考	時期
		長軸	短軸	深さ			
34 P	隅丸長方形	(72)	(40)	22	単層/ローム粒子・ローム小ブロックを含む暗茶褐色土	730D 底面から検出/遺物なし	縄文
35 P	隅丸方形	24	23	21	単層/ローム粒子を含み、ローム小ブロックを僅かに含む暗褐色土	遺物なし	中世以降
36 P	隅丸方形	28	27	87	1層:ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロックを僅かに含む暗茶褐色土/2層:ロームブロックを多く、ローム粒子・ローム小ブロックを含む黄褐色土	遺物なし	中世以降
37 P	隅丸長方形	36	24	74	1層:ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロックを僅かに含む黄褐色土/2層:ロームブロックを含み、ローム粒子・ローム小ブロックを僅かに含む黄褐色土	ピット2本の重複か/11Pに切られる/遺物なし	中世以降
38 P	隅丸方形	25	25	16	単層/ローム粒子・ローム小ブロックを含む暗黄褐色土	遺物なし	中世以降
39 P	隅丸方形	26	22	46	単層/焼土粒子を含み、ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを僅かに含む暗褐色土	遺物なし	中世以降
40 P	隅丸方形	32	28	20	単層/ローム粒子を含み、焼土粒子を僅かに含む暗褐色土	遺物なし	中世以降
41 P	隅丸方形	26	23	28	単層/ローム粒子を多く、ローム小ブロックを含む暗褐色土	遺物なし	中世以降
42 P	隅丸方形	27	27	38	1層:ローム粒子を多く、ローム小ブロックを含む暗褐色土/2層:ローム粒子を含み、ローム小ブロックを僅かに含む暗黄褐色土	遺物なし	中世以降
43 P	隅丸方形	28	26	35	単層/ローム粒子・ロームブロックを僅かに含む黄褐色土	遺物なし	中世以降
44 P	隅丸長方形	46	35	97	単層/ロームブロックを多く、ローム粒子・ローム小ブロックを含む黄褐色土	遺物なし	中世以降
45 P	不明	(57)	(32)	34	1層:ローム粒子・ローム小ブロック・炭化材を僅かに含む暗褐色土/2層:ロームブロックを含み、ローム粒子・ローム小ブロックを僅かに含む暗褐色土	北側部分は調査区外/733Dに切られる/遺物なし	中世以降
46 P	不明	(46)	(25)	50	1層:ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを僅かに含む暗褐色土/2層:ローム粒子を含み、ローム小ブロック・ロームブロックを僅かに含む暗黄褐色土/3層:ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む黄褐色土	北側部分は調査区外/遺物なし	中世以降
47 P	不明	(60)	(26)	53	単層/ローム粒子を多く、ローム小ブロック・ロームブロックを含み、焼土粒子を僅かに含む暗褐色土	北側部分は調査区外/遺物なし	中世以降
48 P	不明	(40)	(21)	55	単層/ローム粒子を含み、ローム小ブロック・炭化物粒子を僅かに含む暗褐色土	遺物なし	中世以降
49 P	隅丸方形	37	31	52	単層/ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロックを僅かに含む暗黄褐色土	52P との新旧不明/遺物なし	中世以降
50 P	隅丸長方形	32	23	77	単層/ローム粒子・ローム小ブロックを含み、炭化物粒子を僅かに含む暗褐色土	遺物なし	中世以降
51 P	隅丸長方形	42	32	57	単層/ローム小ブロックを多く、ローム粒子を含み、ロームブロックを僅かに含む暗褐色土	遺物なし	中世以降
52 P	楕円形	29	(21)	39	土層注記なし	49P との新旧不明/遺物なし	中世以降
53 P	隅丸方形	44	40	83	1層:ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロックを僅かに含む暗褐色土/2層:ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む暗褐色土/3層:ローム粒子を含み、ローム小ブロックを僅かに含む暗褐色土	54P を切る/遺物なし	中世以降
54 P	隅丸方形	36	(25)	44	1層:ローム粒子・ローム小ブロックを含む暗黄褐色土/2層:ローム粒子を含み、ローム小ブロック・ロームブロックを僅かに含む暗褐色土	53P に切られる/遺物なし	中世以降
55 P	隅丸方形	30	30	58	単層/ローム小ブロックを含み、ローム粒子・ロームブロック・炭化物粒子を僅かに含む暗褐色土	56P を切り、54M・727D に切られる/遺物なし	中世以降
56 P	隅丸方形	(37)	32	36	1層:ローム粒子・炭化物粒子を僅かに含む暗褐色土/2層:ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロック・炭化物粒子を僅かに含む暗褐色土	63P と新旧不明、55P・54M・727D に切られる/遺物なし	中世以降
57 P	楕円形	33	28	31	1層:ローム粒子を多く、ローム小ブロックを含む暗褐色土/2層:ローム粒子・ローム小ブロックを含む暗黄褐色土	遺物なし	中世以降
58 P	隅丸長方形	26	16	75	1層:ローム粒子を含み、ローム小ブロック・炭化物粒子を僅かに含む暗褐色土/2層:ローム粒子を多く、ローム小ブロックを含む暗褐色土/3層:ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む暗黄褐色土	ピット2本か/遺物なし	中世以降
59 P	隅丸長方形	57	42	97	1層:ローム粒子・ローム小ブロックを含む暗褐色土/2層:ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む暗黄褐色土	遺物なし	中世以降
60 P	隅丸方形	36	35	32	1層:ローム粒子・ロームブロックを含み、ローム小ブロックを僅かに含む暗褐色土/2層:ローム粒子・ローム小ブロックを僅かに含む暗褐色土	遺物なし	中世以降
61 P	隅丸長方形	43	36	71	単層/ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロックを僅かに含む暗褐色土	石製品1点(砥石)	中世以降
62 P	隅丸方形	32	32	58	土層注記なし	遺物なし	中世以降
63 P	隅丸方形	29	26	47	土層注記なし	56P との新旧不明/遺物なし	中世以降

第11表 ピット一覧(2)

1は中期中葉の阿玉台式土器で、深鉢の胴部破片である。厚さは0.8cm。僅かに屈曲し外傾する。色調は黒褐色土を呈する。胎土には金雲母を多く含み、石英を含む。覆土中からの出土。

[中世以降]

中世以降のピットのうち、遺物が出土したものは、11・61Pの2本で、いずれからも石製品の砥石が1点ずつ出土した(第23図、図版9-2・4)。

11P出土の1は凝灰岩製の砥石である(第23図、図版9-2)。長さ6.7cm・幅2.6cm・厚さ2.6cm・重さ54.0g。上端部を欠損。使用面は表裏面、両側面の4面である。覆土中からの出土。

61P出土の1は凝灰岩製の砥石である(第23図、図版9-4)。長さ7.6cm・幅3.5cm・厚さ3.1cm・重さ110.5g。上端部を欠損。使用面は表裏面、両側面の4面である。覆土中層(底面から35cm上)からの出土。

(5) 遺構外出土遺物(第24~27図、図版9-5、図版10・11、第12~16表)

ここでは、表土や攪乱から出土した遺物、そして遺構内であるが、明らかに他時代の混入品である遺物を前節までの各時代の出土遺物と区別し、遺構外出土遺物として扱う。

今回、遺構外出土遺物としては、旧石器時代の石器、縄文時代の遺物、弥生時代後期~古墳時代前期の土器、中世以降の遺物に分類する。

①旧石器時代の石器(第24図1、図版9-5-1、第12表)

1は角錐状石器の先端部である。石材は黒曜石である。

②縄文時代の遺物(第24~27図2~82、図版9-5-2~14、図版10・11-15~82、第12~14表)

[石器](第24・25図2~16、図版9-5-2~14、図版10-15・16、第12表)

2・3は石鏃であり、3は未製品と思われる。4は両極石器、5は二次加工のある剥片、6・7は石核ある。2~7はいずれも黒曜石製である。8は頁岩製の剥片である。9~13は打製石斧である。13の刃部には研磨面が認められる。14は磨製石斧で、全面を敲打整形後、研磨される。弥生時代後期~古墳時代前期の磨製石斧の可能性も考えられる。15はスタンプ形石器、16は石皿である。

[土器](第25~27図17~80、図版10・11-17~80、第13表)

17~74は中期の土器で、17・18は阿玉台式、19~29は勝坂式、30~62は加曾利E式、63~66は曾利式、67~70は連孤文式、73・74は底部片である。75~80は後期の土器で、75は称名寺式、76~80は堀之内式土器である。

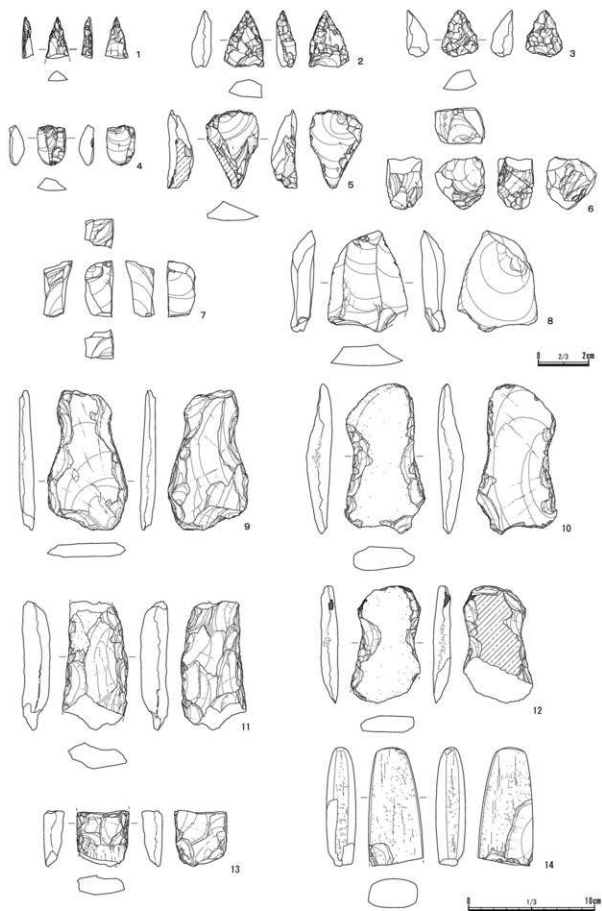
[土製品](第27図81・82、図版11-81・82、第14表)

81・82は土器片錘で、中期の土器片を転用したものである。

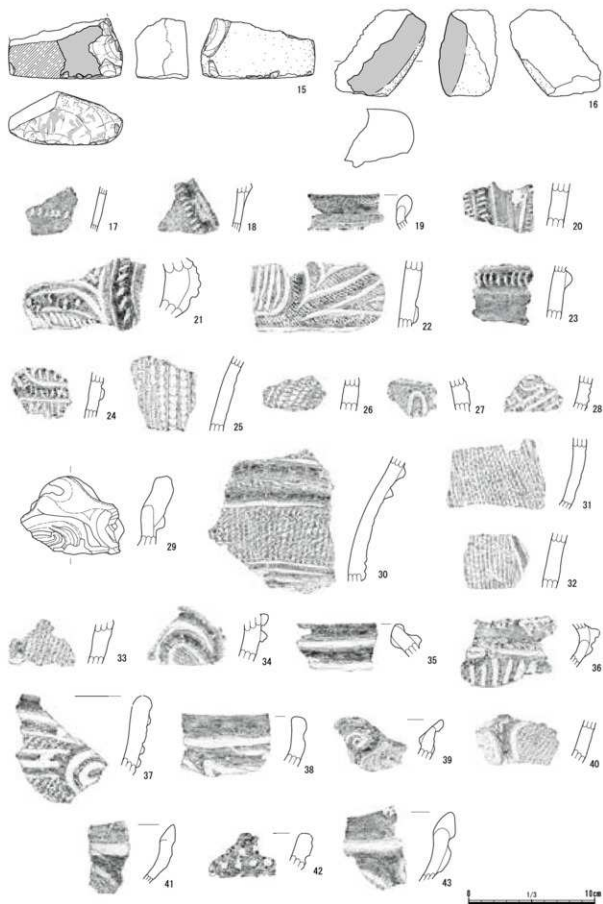
③弥生時代後期~古墳時代前期の土器(第27図83~86、図版11-83~86、第15表)

83~86は壺の破片である。

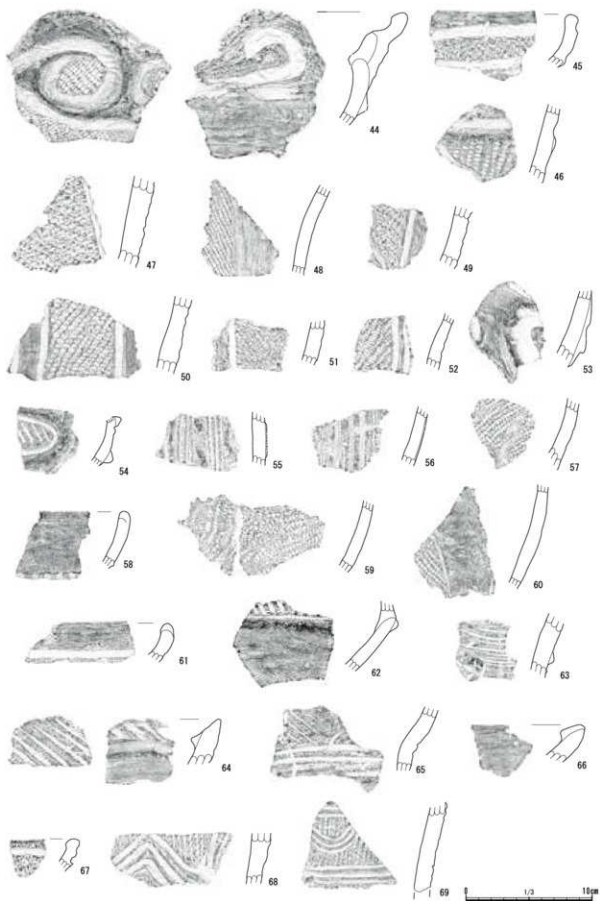
④中世以降の遺物(図版11-87~92、第16表)



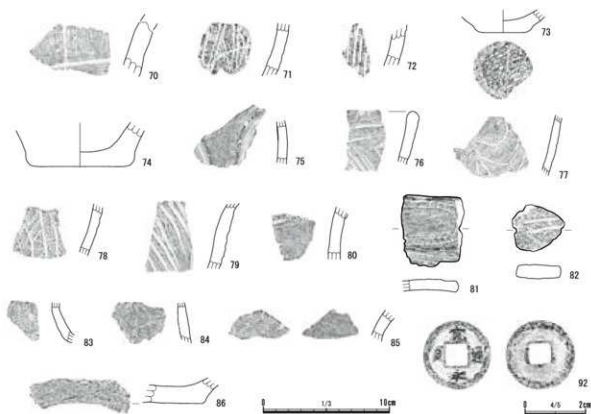
第24図 遺構外出土遺物1 (2/3・1/3)



第25図 遺構外出土遺物2 (1/3)



第26図 遺構外出土遺物3 (1/3)



第27図 遺構外出土遺物4 (1/3・4/5)

[陶磁器・土器] (図版11-87~91、第16表)

87は磁器で皿、88は陶器で香炉、89~91は土器で89・90は焙烙、91は手埴りである。

[銭貨] (第27図92、図版11-92)

92は寛永通寶で、新寛永である。外径2.3cm・方孔一辺0.7cm・厚さ0.1cm・重さ1.9g。完形品。遺構外からの出土である。

神図番号 図版番号	器種	石材	長さ	幅	厚さ	重量	特徴	時期	出土位置
第24図1 図版9-5-1	角錐状石器	黒曜石	16.5	9.2	4.4	0.5	先端部/横断面は三角形/裏面→正面の順で両側縁から平坦な剥離/裏面の一部に素材面を残す	旧石器	54M
第24図2 図版9-5-2	石 鏝	黒曜石	22.6	16.0	8.0	2.3	完形/凹基無茎/裏面に押圧剥離による平坦剥離/右側縁の平坦面にも剥離が施される/両面に素材面を残す	縄文	54M
第24図3 図版9-5-3	石 鏝	黒曜石	18.7	14.7	8.9	1.9	完形/未製品と思われる/裏面に剥離が施される/正面先端付近に素材面を残す/夾雑物を含む	縄文	遺構外
第24図4 図版9-5-4	両楯石器	黒曜石	16.1	11.6	6.1	0.9	完形/上下両端部に溝れ状の剥離面あり/正面、裏面ともに上下からの縦方向の剥離面が認められる	縄文	720D

(単位: mm・g)

第12表 遺構外出土石器一覧(1)

検出番号 図版番号	器種	石材	長さ	幅	厚さ	重量	特徴	時期	出土位置
第24図5 図版9-5-5	二次加工のある 剥片	黒曜石	31.2	21.0	10.4	4.1	完形/周縁に微細な剥離が施される/裏面右 側縁に連続した剥離面あり/正面に原礫面、 節理面あり	縄文	遺構外
第24図6 図版9-5-6	石 核	黒曜石	21.0	20.0	14.5	6.9	完形/サイコロ状を呈する/下端面に潰れ状 の原礫面	縄文	720 D
第24図7 図版9-5-7	石 核	黒曜石	22.3	11.3	11.5	2.8	完形/稜柱状を呈する	縄文	遺構外
第24図8 図版9-5-8	剥 片	頁岩	40.3	31.7	9.8	11.6	末端の一部を欠損/平坦打面/末端形状は ウートラバッセ状	縄文	54M
第24図9 図版9-5-9	打製石斧	緑色凝灰岩	111.0	63.8	12.3	108.0	完形/撥形/刃部形状は裏面の剥離により不 明/刃縁が摩耗し丸みを帯び、刃部の一部に 平滑面あり/両側縁が僅かに挟れる/両側縁 に潰れ状の敲打面	縄文	54M
第24図10 図版9-5-10	打製石斧	砂岩	118.9	64.2	20.4	170.0	刃部を一部欠損/分銅形/刃部は円刃か/正 面に原礫面/両側縁が僅かに挟れる/側縁挟 り部に潰れ状の敲打面	縄文	54M
第24図11 図版9-5-11	打製石斧	チャート	102.3	51.9	22.2	139.4	上下両端部を欠損/短冊形か/正面に原礫面 /両側縁下部が摩耗し丸みを帯びる/表裏面 に部分的に平滑面あり	縄文	54M
第24図12 図版9-5-12	打製石斧	砂岩	93.2	55.4	13.9	90.6	下端部を欠損/分銅形/正面に原礫面/両側 縁が僅かに挟れる/側縁挟り部に潰れ状の敲 打面	縄文	54M
第24図13 図版9-5-13	打製石斧	ホルンフェルス	44.5	41.8	16.3	38.3	刃部のみ/刃縁を欠損/短冊形か/刃部に研 磨面あり/両側縁が摩耗し丸みを帯びる	縄文	726 D
第24図14 図版9-5-14	磨製石斧	緑色岩	94.1	43.6	23.6	187.5	下半部を欠損/定角式磨製石斧/全面を敲打 整形後、研磨/弥生時代後期～古墳時代前期 の石斧の可能性	縄文	54M
第25図15 図版10-5-15	スタンプ形石器	砂岩	48.0	90.7	42.0	230.6	上部を欠損/礫を分割し、下面を使用面/使 用面に敲打面、研磨面/下面縁は摩耗/裏 面に原礫面/右側縁に敲打面あり	縄文	遺構外
第25図16 図版10-5-16	石 皿	花崗岩	69.2	72.4	46.4	210.4	縁辺の一部/正面に研磨面	縄文	720 D

(単位: cm, g)

第12表 遺構外出土石器一覧(2)

検出番号 図版番号	器種 類別	部位 依存状態	法量 (cm)	器形・形態	文様・特徴	取土	時 期 形 式	出土遺構 出土位置
第25図17 図版10-17	深鉢	胴部 破片	厚0.6	僅かに外積	幅広い爪形文が横位に巡る	明赤帯/雲母粒 ・砂粒中量	縄文時代中期中葉 阿玉台日式	726 D
第25図18 図版10-18	深鉢	胴部 破片	厚0.6	僅かに外積/口縁 部上端内面で肥厚	断面三角形の太い陰帯による垂下 文/陰帯脇に幅広い爪形文が沿う	明帯/雲母粒・ 砂粒多量	縄文時代中期中葉 阿玉台日式	遺構外
第25図19 図版10-19	深鉢	口縁部 破片	厚0.7	内湾する口縁部/ 肥厚する口唇部	口縁部・口唇部無文	雲母・砂粒中量	縄文時代中期中葉 勝版式	覆瓦
第25図20 図版10-20	深鉢	胴部 破片	厚1.3	僅かに外積する	幅広い角押文が付された断面台形の 陰帯による区画文/陰帯脇には単 比線と幅広い角文が沿う	明帯/砂粒多量 ・小礫少量	縄文時代中期中葉 勝版3式	遺構外
第25図21 図版10-21	深鉢	口縁部 破片	厚1.4	内湾する口縁	斜目が斜位に付された断面台形の 陰帯による区画文/陰帯脇には並 行沈線が沿う/区画内には沈線 文や交互斜文が充填	暗赤帯/雲母少 量、砂粒多量	縄文時代中期中葉 勝版3式	遺構外
第25図22 図版10-22	深鉢	胴部下位 破片	厚1.2	僅かに穿まる	角押文が付された断面台形の太い 陰帯による区画文/陰帯脇には沈 線や角押文列が沿う/区画内には 集合沈線が充填	橙/雲母少量、 チャート・砂粒 多量	縄文時代中期中葉 勝版3式	54M

第13表 遺構外出土縄文土器一覧(1)

発掘番号 図版番号	器種 類別	部位 依存状態	法量 (cm)	器形・形態	文様・特徴	胎土	時期 型式	出土遺構 出土位置
第25図23 図版10-23	深鉢	胴部 破片	厚1.2	やや外積する	幅広い爪形文が付された断面カマボコ状の太い隆帯による区画	橙/チャート微量・砂粒中量	中期中葉 勝版2〜3式	54M
第25図24 図版10-24	深鉢	胴部 破片	厚0.9	やや外積する	角押文が付された断面台形の太い隆帯による区画文/隆帯脇には単沈線が沿う/区画文内には縦位沈線文列充填	赤褐/砂粒多量	縄文時代中期中葉 勝版3式	遺構外
第25図25 図版10-25	深鉢	胴部 破片	厚1.1	外反して外積	地文はR L斜位/押引を伴う複列の縦位沈線	赤褐/雲母・砂粒を含む	縄文時代中期中葉 勝版式	54M
第25図26 図版10-26	深鉢	胴部 破片	厚1.2	僅かに外積	地文RL縦位	赤褐/砂粒多量	縄文時代中期	721D
第25図27 図版10-27	深鉢	胴部 破片	厚1.1	内積	断面逆台形の深い沈線による逆U字状/一部に先丸状工具による刺突文	にぶい赤褐/砂粒・小礫微量	縄文時代中期中葉 勝版式	遺構外
第25図28 図版10-28	深鉢	胴部 破片	厚0.	外積	沈線による区画文/区画文内に沈線文充填	にぶい橙/砂粒多量	縄文時代中期中葉 勝版式	54M
第25図29 図版10-29	深鉢	口縁部 破片	厚0.9	内湾する口縁/外積する山形突起	口唇部・突起部に太い沈線/口縁部には太い隆帯による区画文/隆帯上には一部沈線/隆帯脇には単沈線が沿う	暗赤褐/砂粒中量	縄文時代中期中葉 勝版3式	54M
第25図30 図版10-30	深鉢	頸部 破片	厚1.4	外反して広がる頸部	地文は懸糸L縦位施文/2本1対の隆帯により口縁部と頸部を横す/一端を重ねた半截竹管状工具の腹面引きによる多段の並行沈線により頸部と胸部を横す	明黄褐/砂粒・小礫中量	縄文時代中期後葉 加曾利E1式	埋丸
第25図31 図版10-31	深鉢	胴部 破片	厚1.1.	内湾する胴部	地文は懸糸L縦位施文	にぶい褐/砂粒微量	縄文時代中期後葉 加曾利E1式	720D
第25図32 図版10-32	深鉢	胴部 破片	厚1.1	外積する	地文は懸糸L縦位施文/波状隆帯が垂下/隆帯脇に単沈線が沿う	橙/砂粒中量、雲母少量	縄文時代中期後葉 加曾利E1式	721D
第25図33 図版10-33	深鉢	胴部 破片	厚1.1	外積する	地文は懸糸L縦位施文/隆帯が垂下/隆帯脇に単沈線が沿う	橙/砂粒中量、礫少量	縄文時代中期後葉 加曾利E1式	54M
第25図34 図版10-34	深鉢	口縁部 破片	厚1.3	僅かに内湾する口縁	地文は懸糸L横位施文/背の高い隆帯によるS字状文	にぶい黄褐/砂粒・礫多量	縄文時代中期後葉 加曾利E1式	54M
第25図35 図版10-35	深鉢	口縁部 破片	厚1.1	内径する口縁/口縁部上端内面で肥厚	口縁部上端に断面カマボコ状の太い隆帯が2本返る	にぶい褐/砂粒少量	縄文時代中期後葉 加曾利E1式	遺構外
第25図36 図版10-36	深鉢	口縁部 破片	厚0.9	外積する口縁部/内折する口唇部	口縁部上端には太く深い沈線による横位沈線がめぐり、直下に縦位の集合沈線文	橙/砂粒・礫少量	縄文時代中期後葉 加曾利E1式	54M
第25図37 図版10-37	深鉢	口縁部 破片	厚1.2	僅かに内湾する口縁/口縁部上端で肥厚	地文はRL縦位施文/口縁部上端に幅広い隆帯/口縁部文体内には2本1対の隆帯によるS字状文	にぶい褐/砂粒・小礫中量	縄文時代中期後葉 加曾利E1〜3式	54M
第25図38 図版10-38	深鉢	口縁部 破片	厚0.8	内湾する口縁	背の低い幅広い隆帯による区画文ないし渦巻文	にぶい褐/砂粒中量	縄文時代中期後葉 加曾利E2〜3式	54M
第25図39 図版10-39	深鉢	口縁部 破片	厚0.8	内湾する口縁/口縁部上端内面で肥厚/突起部外折	口縁部に小突起を付す/小突起縁辺に隆帯が貼付され口縁部に垂下	にぶい黄褐/砂粒中量	縄文時代中期後葉 加曾利E2〜3式	720D
第25図40 図版10-40	深鉢	胴部上位 破片	厚1.0	外積する胴部	地文は単筋RL縦位/断面カマボコ状の隆帯による垂下文	にぶい黄褐/砂粒・礫中量	縄文時代中期後葉 加曾利E2〜3式	54M
第25図41 図版10-41	深鉢	口縁部 破片	厚0.7	内湾する口縁部/口縁部上端で外積	地文はLR縦位施文/太く背の低い隆帯による区画文	黒褐/砂粒中量	縄文時代中期後葉 加曾利E3式	10P
第25図42 図版10-42	深鉢	口縁部 破片	厚1.2	僅かに内湾して広がる	口縁部上端に円形刺突文列が2列	橙/黒色粒子・砂粒少量	縄文時代中期後葉 加曾利E3式	遺構外

第13表 遺構外出土縄文土器一覧(2)

発掘番号 図版番号	部種 種類	部位 依存状態	法量 (cm)	器形・形態	文様・特徴	胎土	型式	出土遺構 出土位置
第25図43 図版10-43	深鉢	口縁部 破片	厚0.8	口縁部は内湾/口 唇部外折/小突起 が付されるか	背の低い幅広い隆帯/楕円区画文 か	灰/褐/砂粒 中量	縄文時代中期後葉 加曾利E3式か	720D
第26図44 図版10-44	深鉢	口縁部 破片	厚0.9	内湾する口縁/突 起部外折	口縁部には突起が付される/突起 内部には太く浅い沈線による渦巻状文 /地文は口縁部はRL縦位、胴部 はRL縦位施文/断面三角形ない しマボコ状の隆帯による楕円区 画文	灰/黄褐/砂粒・ 小礫少量、 白色片状物質少 量	縄文時代中期後葉 加曾利E3c式	54M
第25図45 図版10-45	深鉢	口縁部 破片	厚1.0	内湾する口縁	地文は短節RL縦位施文/太く浅 い沈線による楕円区画文か/内面 は横位ミガキが顕著	暗褐/砂粒少量	縄文時代中期後葉 加曾利E3式	726D
第25図46 図版10-46	深鉢	胴部上位 破片	厚1.1	外積する胴部	断面三角形の隆帯による区画/隆 帯上位には太く浅い沈線が沿う/ 地文は単節RL縦位施文/地文は 隆帯上に乗る	灰/黄褐/砂粒・ 礫少量	縄文時代中期後葉 加曾利E3式	54M
第25図47 図版10-47	深鉢	胴部 破片	厚1.7	僅かに外反して外 積	地文は短節RL縦位施文/一部沈 線による垂下文が確認できる	明黄褐/砂粒・礫 多量	縄文時代中期後葉 加曾利E3式	729D
第25図48 図版10-48	深鉢	胴部中位 破片	厚0.9	外反して外積	地文は単節RL縦位/太く浅い沈 線が垂下/沈線間は磨消	暗褐/砂粒・礫 少量	縄文時代中期後葉 加曾利E3式	729D
第25図49 図版10-49	深鉢	胴部 破片	厚1.4	僅かに内湾して外 積	地文は短節RL縦位施文/沈線に よる垂下文/沈線間は磨消/一部 沈線による曲線文が確認できる	灰黄褐/砂粒・ 礫中量	縄文時代中期後葉 加曾利E3式	遺構外
第25図50 図版10-50	深鉢	胴部中位 破片	厚1.4	僅かに外積	地文は短節RL縦位施文/沈線に よる垂下文2単位確認/沈線間は 磨消	橙/砂粒・礫微 量	縄文時代中期後葉 加曾利E3式	720D
第25図51 図版10-51	深鉢	胴部 破片	厚1.1	僅かに内湾	地文は単節LR縦位施文/沈線に よる垂下文/沈線間は磨消	灰/褐/砂粒中 量、礫少量	縄文時代中期後葉 加曾利E3式か	54M
第26図52 図版10-52	深鉢	胴部中位 破片	厚0.9	外反して外積	地文は単節RL縦位施文/沈線に よる垂下文/幅広い沈線間は磨消	灰黄褐/砂粒中 量、礫少量	縄文時代中期後葉 加曾利E3式	遺構外
第26図53 図版11-53	深鉢	口縁部小 破片	厚1.1	僅かに内湾	突起部か/断面マボコ状の太い 隆帯による渦巻状文か	橙/砂粒微量	縄文時代中期後葉 加曾利E3式か	54M
第26図54 図版11-54	深鉢	口縁部 破片	厚0.7	僅かに内湾	断面マボコ状の隆帯による楕円 区画文/隆帯脇には単沈線/区画 文内には斜行沈線が充填/加曾 利・曾利折表か	灰/黄褐/砂粒・ 小礫少量	縄文時代中期後葉 加曾利E3式	遺構外
第26図55 図版11-55	深鉢	胴部 破片	厚1.1	ほぼ直立する	地文は一端を垂ねない半截竹管状 工具の腹面引きによる条線/直状 隆帯や波状隆帯が垂下	明黄褐/砂粒・ 礫中量、チャート 微量	縄文時代中期後葉 加曾利E3式か	遺構外
第26図56 図版11-56	深鉢	胴部 破片	厚0.9	やや外積	地文は条線縦位/3本1対の沈線 が垂下	黒褐/砂粒多量、 礫少量	縄文時代中期後葉 加曾利E3式か	722D
第26図57 図版11-57	深鉢	胴部上位 破片	厚1.1	僅かに内湾	地文は単節RL縦位施文/地文は 僅かに間歇をもって無文	灰/黄褐/砂粒・ 礫少量	縄文時代中期後葉 加曾利E3式か	726D
第26図58 図版11-58	深鉢	口縁部 破片	厚0.9	やや内湾して外積	口縁部は無文/口縁部下端に横位 沈線/沈線内に1cm間隔で円形刺 突文	暗赤褐/砂粒中 量	縄文時代中期後葉 加曾利E3式	遺構外
第26図59 図版11-59	深鉢	胴部 破片	厚0.8	僅かに内湾して外 積	地文は単節LRで施文方向は不規 則	黄褐/砂粒・礫 中量	縄文時代中期後葉 加曾利E3~4式	720D
第26図60 図版11-60	深鉢	胴部下位 破片	厚1.0	内湾して外積	地文は単節LR縦位施文/沈線に よる垂下文/幅広い磨消文	灰/褐/砂粒・ 礫微量	縄文時代中期後葉 加曾利E3~4式	720D
第26図61 図版11-61	深鉢	口縁部 破片	厚1.0	内湾する口縁	無文の口縁部直下に太く浅い沈線 が横位に施文/横位沈線直下に僅 かに確認できる地文は条線か/内 面は横位のミガキが顕著	灰/黄褐/砂粒 中量	縄文時代中期後葉 加曾利E4式か	54M

第13表 遺構外出土縄文土器一覧(3)

検出番号 図版番号	器種 種別	部位 依存状態	法量 (cm)	器形・形態	文様・特徴	胎土	型式	出土遺構 出土位置
第26図62 図版11-62	浅鉢	胴部 破片	厚1.0	僅かに内湾して広がる体部/内積する口縁	断面カマゴコ状の太い隆帯により口縁部と体部を隔す/口縁部には竹管状工具による縦位沈線文/内面は横位方向のミガキが顕著	黄橙/黄母・橙色粒子・砂粒中量	縄文時代中期後葉 加曾利E式	720D
第26図63 図版11-63	深鉢	口縁部 破片	厚1.4	ほぼ直線的に外積	一端を重ねない半載竹管状工具の腹面引きによる重弧文か/押圧が施された隆帯貼付	にぶい黄橙/砂粒・礫・角閃石中量	縄文時代中期後葉 曾利Ⅲ式か	54M
第26図64 図版11-64	深鉢	胴部上位 破片	厚1.1	ほぼ直線的に外積する口縁部/口唇部内折	口縁部上端から斜行沈線文/口唇部に斜行沈線文	にぶい橙/砂粒・礫少量	縄文時代中期後葉 曾利Ⅲ~Ⅳ式	54M
第26図65 図版11-65	深鉢	口縁部下位 破片	厚1.4	僅かに内湾する胴部/内湾して広がる口縁部	胴部に重比擬3本並るか/口縁部に斜行沈線か	黄橙/砂粒・礫多量	縄文時代中期後葉 曾利Ⅲ~Ⅳ式か	721D
第26図66 図版11-66	深鉢	胴部上位 破片	厚1.1	内湾して外積する口縁部/口唇部内折	無文の口縁部	浅黄橙/砂粒多量・礫微量	縄文時代中期後葉 曾利式か	54M
第26図67 図版11-67	深鉢	口縁部 破片	厚1.0	外積する口縁部/口縁部上端で肥厚	地文は燃系L縦位施文/口縁部上端に横位沈線/竹管状工具の端部による円形刺突文	褐/砂粒中量・小礫少量	縄文時代中期後葉 連弧文	54M
第26図68 図版11-68	深鉢	胴部 破片	厚1.5	やや外積/厚手	地文は燃系L縦位施文/3本1対の沈線による連弧文	黒褐/砂粒多量・礫少量	縄文時代中期後葉 連弧文	54M
第26図69 図版11-69	深鉢	胴部 破片	厚1.3	やや外反して外積	地文は燃系L縦位施文/一端を重ねた半載竹管状工具の腹面引きによる区画文・波状文	灰黄陶/砂粒多量・礫少量・角閃石中量	縄文時代中期後葉 連弧文	54M
第27図70 図版11-70	深鉢	胴部 破片	厚1.4	僅かに外反	地文は条線/横位比擬による区画文/2本1対の沈線が垂下	にぶい黄橙/砂粒多量・礫少量	縄文時代中期後葉 連弧文	54M
第27図71 図版11-71	深鉢	胴部 破片	厚0.9	やや外積する	半載竹管状工具の腹面引きによる集合沈線をやや縦位方向に施文	黄橙/砂粒中量	縄文時代中期後葉	遺構外
第27図72 図版11-72	深鉢	胴部 破片	厚0.9	やや外積する	半載竹管状工具の腹面引きによる集合沈線をやや縦位方向に施文	灰褐/チャート・砂粒中量	縄文時代中期後葉	726D
第27図73 図版11-73	深鉢	底部 破片	厚1.0	平底/僅かに丸みをもつ	底部には網代痕か	褐/砂粒・角閃石中量	縄文時代中期後葉 か	遺構外
第27図74 図版11-74	深鉢	底部 破片	厚1.2	平底	無文	明赤褐/砂粒・礫少量	縄文時代中期	54M
第27図75 図版11-75	深鉢	胴部 破片	厚0.7	やや内湾する	微隆起による区画/微隆起端には太く浅い沈線が沿う	にぶい橙/砂粒・礫微量	縄文時代後期初期 称名寺式か	729D
第27図76 図版11-76	深鉢	口縁部 破片	厚0.8	僅かに外積	口縁部上端に2本1対の隆帯が横走/4本1対の斜行沈線	にぶい黄橙/砂粒中量	縄文時代後期後葉 堀之内1式	遺構外
第27図77 図版11-77	深鉢	胴部 破片	厚0.6	僅かに内湾	沈線による渦巻状文か/沈線表面は光沢を持つ/器面の調整は粗い	にぶい黄橙/砂粒少量	縄文時代後期後葉 堀之内1式	54M
第27図78 図版11-78	深鉢	胴部 破片	厚0.8	やや内湾	沈線による渦巻状文か	にぶい黄橙/砂粒少量	縄文時代後期後葉 堀之内1式	721D
第27図79 図版11-79	深鉢	胴部~胴部上位か 破片	厚0.8	僅かに内湾する胴部・胴部で外反して広がる	複数の斜行沈線文/内面は横位方向のミガキ痕跡が顕著	橙/砂粒多量・礫微量	縄文時代後期後葉 堀之内1式	721D
第27図80 図版11-80	深鉢	胴部 破片	厚0.8	外反する胴部上位	刺突を伴う幅狭の隆帯/隆帯脇には沈線が沿う	にぶい褐/砂粒少量	縄文時代後期前葉 堀之内2式	726D

第13表 遺構外出土縄文土器一覧(4)

検出番号 図版番号	種別	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	特徴	出土位置 出土遺構
第27図81 図版11-81	土器片鏝	5.6	5.0	0.9	12.3	60%程度遺存/抉部1か所確認/寫練部の磨滅が著しい/断面三角形の細い隆帯による区画文/隆帯幅に2列の押引文が沿う/縄文時代中期中葉阿玉台Ⅱ式土器片使用	54M
第27図82 図版11-82	土器片鏝	3.5	3.7	1.1	18.8	70%程度遺存/抉部1か所確認/寫練部の磨滅が著しい/地文は単筋RL, 施文/沈線2本が垂下か/縄文時代中期後葉加曾利E2式附土器片使用か	54M

第14表 遺構外出土土製品一覧

検出番号 図版番号	器種 種別	部位 残存状態	法量 (cm)	器形・形態	文様・特徴	胎土	時期 型式	出土遺構 出土位置
第27図83 図版11-83	甕	頸部~胴部 小破片	厚0.7	頸部は屈曲せず緩やか	内面:指頭による成形痕/外面: ハケ目調整後粗いヘラ磨き調整	暗黄褐色/黄褐色 色粒子・橙色粒 子中量, 砂粒中 量	弥生時代後期~ 古墳時代前期	54M
第27図84 図版11-84	甕	頸部~胴部 破片	厚0.6	頸部は屈曲せず緩やか	内面:ヘラナデ/外面:ハケ目調 整後粗いヘラ磨き調整	暗黄褐色/黄褐色 色粒子やや多量, 砂粒中量	弥生時代後期~ 古墳時代前期	遺構外
第27図85 図版11-85	甕	頸部~胴部 破片	厚0.9	頸部は屈曲せず緩やか	内外面:ハケ目調整後粗いヘラ 磨き調整/内外面に赤彩	暗黄褐色/黄褐色 色粒子中量, 砂 粒中量, 角閃石 少量	弥生時代後期~ 古墳時代前期	遺構外
第27図86 図版11-86	甕	底部 破片	高[2.2]	平底	内面:ヘラナデ/外面:ハケ目調 整後粗いヘラ磨き調整	暗黄褐色/黄褐色 色粒子多量, 砂 粒中量	弥生時代後期~ 古墳時代前期	54M

第15表 遺構外出土弥生~古墳時代土器一覧

図版番号	種別	器種	法量 (cm)	製作の特徴等	推定産地	出土位置	時期
図版11-87	磁器	皿	厚0.6	染付/内面:草花文/口縁部~体部小破片	肥前系	遺構外	近世 (18c後半)
図版11-88	陶器	香炉	高[3.0]	高台あり/外面は底部を除き鉄輪/胎土の色調は灰褐色/体部~底部破片	瀬戸・美濃系	遺構外	近世 (18c後半)
図版11-89	土器	焙烙	高[6.0]	口唇部は平坦に面取りされる/色調は灰色を基調/口縁部~体部下半破片	在地系	遺構外	中世 (16c前半)
図版11-90	土器	焙烙	厚0.8	平底/色調は淡褐色/胎土に砂粒を含む/底部破片	在地系	遺構外	近世 (18c後半)
図版11-91	土器	手焙り	厚2.0	色調は黒色を基調/胎土に砂粒を僅かに含む/口縁部~体部破片/砥石として転用か	在地系	遺構外	近世

第16表 遺構外出土陶磁器・土器一覧

第4章 城山遺跡第79地点の調査

第1節 遺跡の概要

(1) 立地と環境

城山遺跡は、志木市柏町3丁目を中心に広がる遺跡で、東武東上線志木駅の北西約1.2kmに位置している。柳瀬川右岸の台地上に立地しており、標高は約12m、低地との比高差は約5mである。

本遺跡は、これまでに100地点（令和2年12月28日現在）の調査が実施され（第28図）、旧石器時代から近世の複合遺跡であることが判明している。特に、遺跡全体からは、古墳時代中・後期の住居跡260軒を超え、一大集落が検出されている他、中世の城跡である「柏の城」に関連する堀跡や近世の鑄造関連遺構の検出が注目される。

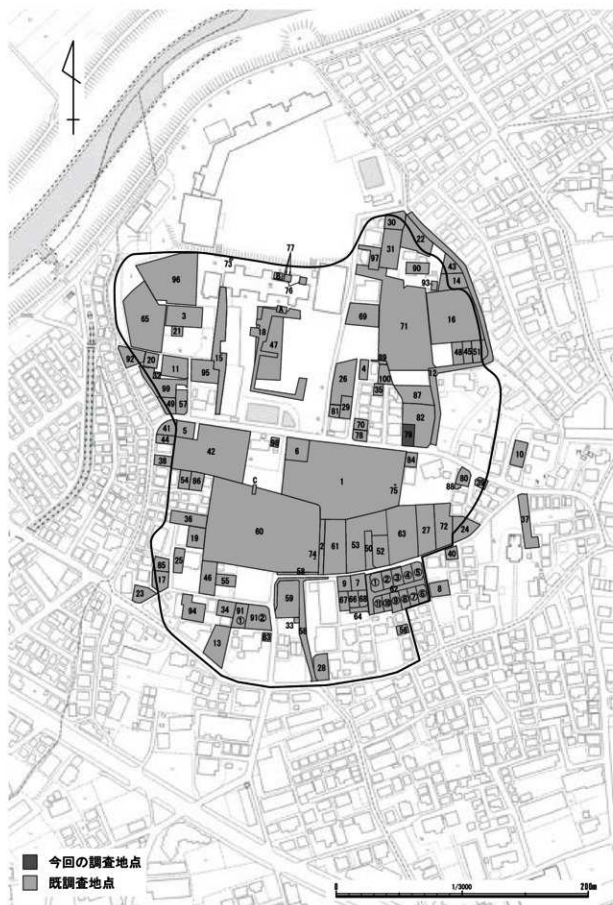
遺跡の周辺を眺めてみると、小学校や神社・墓地などが存在する閑静な住宅地と言えるが、最近では、令和元（2019）年度に実施したに市営墓地拡張工事に伴う第96地点、令和2（2020）年度に実施した分譲住宅建設、道路新設工事および擁壁設置工事に伴う第99地点の発掘調査が実施され、僅かに残る緑地や畑地にまで各種開発の波が押し寄せている状況となっている。

(2) 発掘調査の経過

教育委員会は、平成25年4月23日に確認調査を実施した。第29図に示すように調査区の長軸方向に合わせトレンチを3本（1～3 Tr）設定し、バックホーで表土を剥ぎ、同時に遺構確認作業を行った。その結果、古墳時代後期の住居跡3軒、平安時代の住居跡1軒、中世以降の土坑2基等を確認した。この結果をただちに土木工事主体者に報告し、保存対策について検討を依頼したが、今回の土木工事計画では文化財保護層を確保することは難しく、盛土保存が不可能であるという回答を得た。そのため、5月16日から発掘調査を実施することに決定した。教育委員会は土木工事主体者から埋蔵文化財発掘届を受理し、5月14日付けで埋蔵文化財発掘届及び発掘調査の通知を埼玉県教育委員会に提出した。

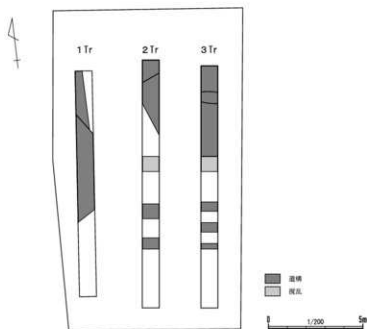
以下、発掘調査の大まかな経過を説明することにし、各遺構の精査経過については、第17表の発掘調査工程表に示した。

- 5月16日 重機（バックホー）による表土剥ぎ及び残土搬出作業を開始する。
- 17日 表土剥ぎ作業の続きを行う。本日で表土剥ぎ作業を終了した。簡易トイレを設置する。
- 20日 人員を導入し、調査器材搬入、調査区整備を行う。遺構確認作業を行う。
- 21～24日 中世以降の土坑（957～963 D）・井戸跡（48・49 W）の精査を開始する。井戸跡については安全性を考慮し、深さ1.5m程度までの掘削とした。957～961 D、48・49 Wの精査を終了する。
- 27～31日 縄文時代の炉穴（14 F P）・土坑（971 D）、平安時代の掘立柱建築遺構（10 T）、中世以降の土坑（964・966～969 D）の精査を開始する。971 Dは縄文時代の陥穴である。14 F P、962～969 Dの精査を終了する。



第28図 城山遺跡の調査地点 (1/3,000)

令和2年12月28日現在



第29図 確認調査時の遺構分布図(1/200)

	平成25年5月				6月					7月					
	15日	20日	25日	30日	5日	10日	15日	20日	25日	30日	5日	10日	15日	20日	
表土剥ぎ作業 (縄文時代)	5.16	5.17													
14FP			5.29	5.31											
971D			5.31		5.7				5.24						
973D												7.16	7.17		
(古墳時代)															
289H					6.2				6.25			7.10			
290H						6.19								7.19	
(平安時代)															
291H						6.11								7.9	
292H											7.2			7.9	
10T					5.31		6.11				7.2			7.4	
(中世以降)															
957D		5.22		5.23											
958D		5.23		5.23											
959D		5.22		5.23											
960D		5.23		5.24											
961D		5.23		5.24											
962D		5.23		5.27											
963D		5.24		5.28											
964D		5.27		5.28											
965D		5.29												6.5	
966D		5.30		5.31											
967D		5.30		5.31											
968D		5.30		5.31											
969D		5.30		5.31											
970D						6.4				6.26			7.10	7.12	
972D												7.8		7.16	
48W		5.21		5.22											
49W		5.21		5.22											
埋戻し														7.18	7.19

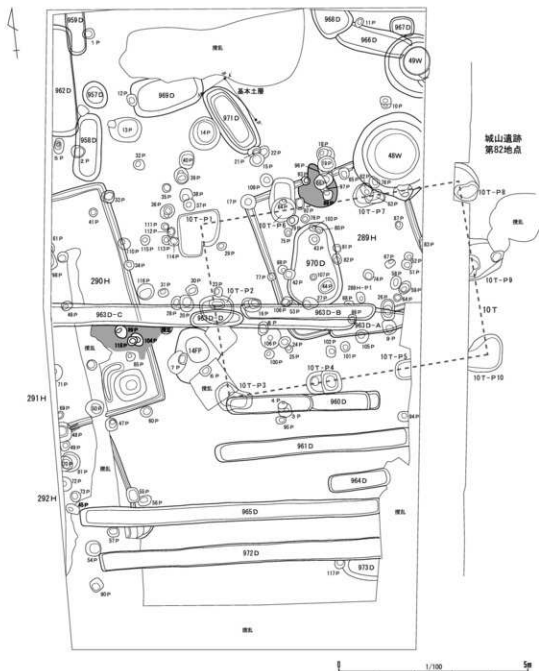
第17表 城山遺跡第79地点の発掘調査工程表

- 6月3～7日 古墳時代後期の住居跡(289H)、中世以降の土坑(970D)の精査を開始する。965Dの精査を終了する。
- 10～14日 古墳時代後期の住居跡(290H)、平安時代の住居跡(291H)の精査を開始する。970Dでは陶磁器、鉄製品などが多量に出土した。10TのP1～4・6の精査を完了する。
- 17～21日 290・291Hの精査。291Hの遺物出土状況の写真撮影を行う。970Dでは遺物出土状況の写真撮影、微細図を作成し、遺物を取り上げる。焼土範囲、炭化材を検出し、断ち割りを行い、断面図に追加した。
- 24～28日 289Hの精査を再開する。289Hの遺物出土状況の写真撮影、遺物の取り上げを行う。970Dから線刻礫が出土した。971Dの精査を終了する。
- 7月1～5日 289Hのカマド精査に入る。291Hの貼床を掘削し完掘する。平安時代の住居跡(292H)の精査を開始する。10TのP5・7の精査を行う。10Tの全景を撮影し精査を終了する。
- 8～12日 中世以降の土坑(972D)の精査を開始する。290Hのカマド精査に入る。289・291・292H、970Dの精査を終了する。
- 16・17日 縄文時代の土坑(973D)の精査を開始する。972・973D精査を終了する。
- 18日 290Hのカマドの精査。カマド袖部粘土を検出し、範囲を記録した。袖部粘土を掘削し、カマド貼床の精査を行う。埋め戻し作業を開始する。
- 19日 290Hのカマド貼床精査。カマド掘り方を記録する。燃焼部を半截し、被熱赤化・硬化範囲を記録する。290Hの精査を終了する。本日に埋め戻し作業を終了し、発掘調査を完了する。

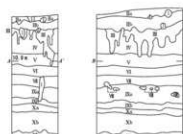
(3) 基本層序

本調査区のローム層序を確認するため、調査区北半部中央の971Dの壁面を利用して深掘りトレンチを設定し、土層の記録を行った(第31図)。確認した層位は第Ⅱ層～第Ⅺ層で、第Ⅱ層～第Ⅹ層は立川ローム、第Ⅺ層は武蔵野ロームに相当すると考えられる。立川ローム第Ⅱ層は漸移層であり、Ⅱa層、Ⅱb層に分けている。Ⅱa層は暗褐色、Ⅱb層はやや薄黒くくすんだ褐色を呈する。立川ローム第Ⅲ層はソフトローム、立川ローム第Ⅳ層はハードロームであり、第Ⅲ層、第Ⅳ層の境は波状となる。立川ローム第Ⅴ層は第一黒色帯で、色調はやや薄い印象である。立川ローム第Ⅵ層は白色粒子を多く含む褐色土層で、いわゆるAT包含層準である。立川ローム第Ⅶ層は第二黒色帯上部である。立川ローム第Ⅷ層は第Ⅶ層から第Ⅸ層内にかけて斑点状に認められた層である。立川ローム第Ⅸ層はⅨa層とⅨb層に分層した。Ⅸb層は立川ローム第Ⅹ層との漸移層である。立川ローム第Ⅹ層は、色調の差でⅩa層とⅩb層に分層した。第Ⅺ層は、しまりが非常に強く、第Ⅹ層よりも硬くしまる。

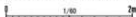
以上、本地点の基本層序は、武蔵野台地で確認される標準的な層序と言える。



第30図 遺構分布図 (1/100)



- I層 雑土
 II層 暗褐色土(7.5)93/0 赤色スコリアを少量含む。空隙中やあり。しまり強。
 III層 褐色土(7.5)94/0 赤色スコリアを少量含む。空隙中やあり。しまり強。
 IV層 暗褐色土(7.5)95/0 赤色スコリア・黒色スコリアを含む。空隙中やあり。しまり強。ゾラトロム。
 V層 褐色土(7.5)96/0 赤色スコリア・黒色スコリアを多量に含む。空隙無し。しまり非常に強。ハードローム。
 VI層 褐色土(7.5)97/0 赤色スコリア・黒色スコリアを多く、白色砂子を含む。空隙無し。しまり非常に強。第一層色砂(色砂入り)。
 VII層 褐色土(7.5)98/0 赤色スコリア・黒色スコリア・白色砂子を多く含む。空隙無し。しまり非常に強。AT層。
 VIII層 褐色土(7.5)99/0 赤色スコリア・黒色スコリアを多く、白色砂子を多く含む。空隙無し。しまり非常に強。粘性中やあり。第二層色砂土面。
 IX層 褐色土(7.5)100/0 赤色スコリア・黒色スコリアを多く含む。空隙無し。しまり非常に強。粘性中やあり。
 X層 暗褐色土(7.5)101/0 赤色スコリア・褐色スコリア・黒色スコリアを含む。空隙無し。しまり非常に強。粘性あり。
 XI層 褐色土(7.5)102/0 赤色スコリアを多く含む。空隙無し。しまり非常に強。X層より硬い。粘性無し。
 XII層 褐色土(7.5)103/0 赤色スコリアを多く含む。空隙無し。しまり非常に強。X層より硬い。粘性無し。



第31図 基本土層 (1/60)

第2節 縄文時代の遺構・遺物

(1) 概要

縄文時代の遺構については、炉跡1基(14F P)・土坑2基(971D・973D)・ピット6本(105・106・108・110・116・117P)が検出された。土坑のうち、971Dは陥穴であるが、時期については、出土遺物から、後期と判断できる。その他、遺物の出土のない遺構については、覆土の観察から縄文時代の所産と判断した。

(2) 炉穴

14号炉穴

遺構 (第32図)

位置 調査区中央部。

検出状況 6P・7Pに切られ、遺構南東側は攪乱により破壊されている。

構造 平面形：楕円形か。断面形：皿状を呈し、坑底は北側が若干低くなる。規模：長軸1.45m／短軸1.20m以上／深さ20cm。長軸方位：N-65°-E。

覆土 2層に分層された。

遺物 出土しなかった。

時期 覆土の観察から縄文時代の所産と考えられる。

所見 本遺構は、覆土が顕著に赤褐色であり、焼土・焼土ブロックや炭化物粒子を含むため、ここでは炉穴として扱った。

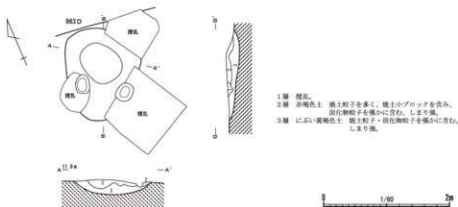
(3) 土坑

971号土坑

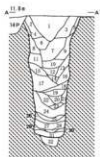
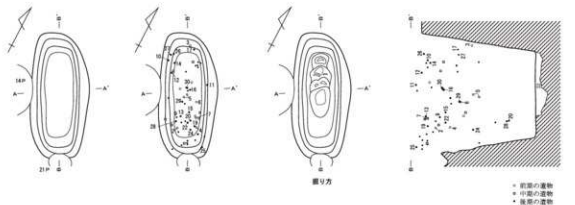
遺構 (第33図)

位置 調査区北半部中央。

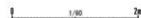
検出状況 14P・21Pに切られる。



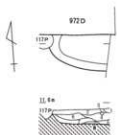
第32図 14号炉穴 (1/60)



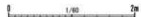
- 1層 暗褐色土 ローム粒子を多く、粘土粒子を含む。しりり中。
- 2層 暗褐色土 ローム粒子を含む。ローム小ブロック・粘土粒子を塊状に含む。しりり塊。
- 3層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・粘土粒子を含む。しりり塊。
- 4層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含む。ローム小ブロックを塊状に含む。しりり中。
- 5層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・粘土粒子を塊状に含む。しりり中。
- 6層 暗褐色土 ローム粒子・粘土粒子を含む。ローム小ブロック・ローム小ブロック・粘土粒子を塊状に含む。しりり中や中塊。
- 7層 暗褐色土 ローム粒子・粘土粒子を含む。ローム小ブロック・炭化物粒子・粘土粒子を塊状に含む。しりり中や中塊。
- 8層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含む。ローム小ブロックを塊状に含む。しりり中。
- 9層 暗褐色土 ローム粒子を含む。ローム小ブロック・ローム小ブロックを塊状に含む。しりり中。
- 10層 暗褐色土 ローム粒子・粘土粒子を含む。ローム小ブロック・炭化物粒子を塊状に含む。しりり中。
- 11層 暗褐色土 ローム粒子を多く、ローム小ブロック・炭化物粒子・粘土粒子を塊状に含む。しりり中や中塊。
- 12層 暗褐色土 ローム小ブロックを含む。暗褐色土ブロックを含む。しりり中。
- 13層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含む。ローム小ブロック・粘土粒子を塊状に含む。しりり中や中塊。
- 14層 暗褐色土 ローム粒子を含む。炭化物粒子を塊状に含む。しりり中や中塊。
- 15層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・暗褐色土ブロックを含む。しりり中や中塊。
- 16層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含む。暗褐色土ブロックを塊状に含む。しりり中や中塊。
- 17層 暗褐色土 ローム粒子を多く、ローム小ブロックを含む。ローム小ブロックを塊状に含む。しりり中。
- 18層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含む。ローム小ブロックを塊状に含む。しりり中。
- 19層 暗褐色土 ローム粒子を含む。ローム小ブロックを塊状に含む。しりり中。
- 20層 暗褐色土 ローム粒子を多く、ローム小ブロックを含む。しりり中や中塊。
- 21層 に灰い暗褐色土 ローム粒子を含む。ローム小ブロック・ローム小ブロックを塊状に含む。しりり中。
- 22層 暗褐色土 ローム小ブロックを含む。ローム小ブロックを含む。しりり中。
- 23層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しりり中。
- 24層 暗褐色土 ローム小ブロックを含む。ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しりり中。
- 25層 暗褐色土 ローム粒子を含む。ローム小ブロックを塊状に含む。しりり中。
- 26層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しりり中。
- 27層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを塊状に含む。しりり中。
- 28層 暗褐色土 ローム粒子・炭褐色土ブロックを含む。ローム小ブロックを塊状に含む。しりり中。
- 29層 に灰い暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しりり中。
- 30層 に灰い暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しりり中。
- 31層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを塊状に含む。しりり中。
- 32層 暗褐色土 ローム小ブロックを多く含む。しりり中や中塊。



971号土坑

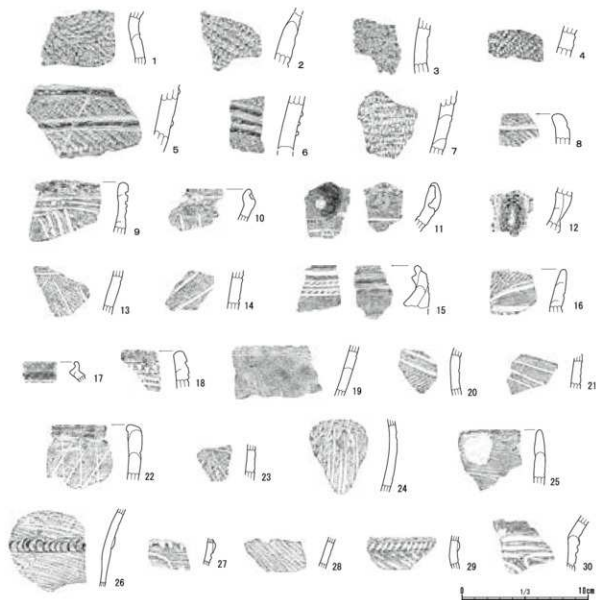


- 1層 黄土。
- 2層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含む。ローム小ブロック・炭化物粒子を塊状に含む。しりり中や中塊。
- 3層 ローム小ブロック。
- 4層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しりり中や中塊。
- 5層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しりり中や中塊。
- 6層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを多く含む。炭化物粒子を塊状に含む。しりり中や中塊。
- 7層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを多く含む。炭化物粒子を塊状に含む。しりり中や中塊。
- 8層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを多く含む。しりり中や中塊。



973号土坑

第33図 971・973号土坑 (1/60)



第34図 971号土坑出土遺物(1/3)

〔構造〕 平面形：隅丸長方形。断面形：長軸方向はバケツ状を呈し、壁面は約80°で立ち上がる。短軸方向は壁面に若干の凹凸があり、垂直に近く約85°で立ち上がる。上部30cm程は約65°で開く。坑底面は平坦である。規模：長軸1.99m／短軸0.94m以上／深さ214cm（掘り方まで230cm）。長軸方位：N-25°-W。

〔覆土〕 掘り方を含め、32層に分層できた。

〔遺物〕 縄文時代前期から晩期の土器片が出土した。

〔時期〕 縄文時代後期中葉か。

〔遺物〕 (第34図、図版21-1、第18表)

1～4・7は前期前葉の羽状縄文系である。いずれも縄文・無文部のみの破片で、型式は判然としな

い。

5・6は前期後葉の諸磯b式の土器である。

第4章 城山遺跡第79地点の調査

検出番号 図版番号	形種 類別	部位 残存状態	法量 (cm)	器形・形態	文様・特徴	胎土	期型	出土位置
第34図1 図版21-1-1	深鉢	胴部 破片	厚0.8	胴部上位で内湾し、 頸部で括れ、口縁で 開く	地文は単節R・L・R横位施文 による羽状縄文	にぶい黄褐色/砂 粒・礫少量、織 維少量	前期前葉 羽状縄文系 黒沢式か	覆土中
第34図2 図版21-1-2	深鉢	胴部 破片	厚1.2	僅かに外反	地文は単節R・L横位施文	にぶい黄褐色/砂 粒・礫少量、織 維少量	前期前葉 羽状縄文系 黒沢式か	覆土上層
第34図3 図版21-1-3	深鉢	胴部 破片	厚1.0	やや外反する	地文は単節R・L横位施文か	明褐色/砂粒・礫 少量、織維少量	前期前葉 羽状縄文系 黒沢式か	覆土中層
第34図4 図版21-1-4	深鉢	胴部 破片	厚1.2	内湾する	地文は単節R・L横位施文	にぶい黄褐色/砂 粒・礫少量、織 維少量	前期前葉 羽状縄文系 黒沢式か	覆土上層
第34図5 図版21-1-5	深鉢	胴部 破片	厚1.1	僅かに外傾	地文は単節R・L横位施文/脇が 僅かに抑えられた横位の浮線文	片苳・砂粒を含む	前期後葉 諸磯B式	覆土中層
第34図6 図版21-1-6	深鉢	胴部 破片	厚1.2	僅かに外反して外傾	地文はR・L横位施文/抑えの甘い 横位の浮線文	にぶい黄褐色/砂 粒中量	前期後葉 諸磯B式	覆土中層
第34図7 図版21-1-7	深鉢	胴部 破片	厚1.0	やや外傾	地文は単節L・R横位施文	暗褐色/砂粒少量、 織維少量	前期前葉 羽状縄文系	覆土上層
第34図8 図版21-1-8	深鉢	口縁部 破片	厚1.1	やや内湾し内傾	口縁部上端に沈線横走/地文は 単節L・R縦位施文か	暗褐色/砂粒少量、 織維少量	中期後葉 加曾利E4式 か	覆土中
第34図9 図版21-1-9	深鉢	口縁部 破片	厚1.7	外傾	口縁部上端に深い沈線が横走/ 円形刺突3か所を起点とし、 2本の沈線が横走り、4本の沈 線が懸垂する	にぶい黄褐色/砂 粒・礫少量	後期前葉 堀之内1式	覆土上層
第34図10 図版21-1-10	深鉢	口縁部 破片	厚0.7	口縁部は外反して外 傾/口唇部で内折	口縁部上端に沈線横走/横走す る沈線内に円形刺突1/浅い単 沈線2本による懸垂文	にぶい黄褐色/砂 粒・礫少量	後期前葉 堀之内1式	覆土上層
第34図11 図版21-1-11	深鉢	口縁部 破片	厚0.9	内湾して外傾	口唇部に逆C字状の小突起と円 形刺突1/細く浅い沈線が横走	暗褐色/砂粒少量、 チャート微量	後期前葉 堀之内1式	覆土上層
第34図12 図版21-1-12	深鉢	胴部 破片	厚0.9	僅かに内湾	隆帯によるO字状の貼付文	にぶい赤褐色/砂 粒・礫少量、石 灰・チャート微 量	後期前葉 堀之内1式	覆土上層
第34図13 図版21-1-13	深鉢	胴部 破片	厚0.7	直線的に外傾	並行沈線による帯状文/沈線間 には単節L・Rが充填施文	褐色/砂粒中量、 礫少量	後期前葉 堀之内2式	覆土上層
第34図14 図版21-1-14	深鉢	胴部 破片	厚0.7		並行沈線による帯状文/沈線間 には単節R・Lが充填施文	褐色/砂粒中量、 石灰・角閃石微 量	後期前葉 堀之内2式	覆土上層
第34図15 図版21-1-15	鉢	口縁部 破片	厚1.0	平縁/外傾する口縁 部/直立する口唇部 /口縁部内面に断面 三角形の隆帯巡る	口縁部上端に沈線が横走/2段 の沈線と斜刺文が横走	明褐色/砂粒少量	後期後葉 加曾利B式	覆土上層
第34図16 図版21-1-16	鉢	口縁部 破片	厚1.0	ほぼ直立するか	地文は単節R・L縦位施文か/2 本の沈線による反折円形区画/ 区画内は磨消	にぶい赤褐色/砂 粒・礫少量、空 隙あり	後期中葉 加曾利B式	覆土上層
第34図17 図版21-1-17	注口土 器か	口縁部 破片	厚0.6	くの字状に屈曲する 口縁部/直立する口 唇部	口縁部上端に斜刺文	灰褐色/砂粒中量、 礫微量	後期中葉 加曾利B式	覆土中層
第34図18 図版21-1-18	深鉢	口縁部 破片	厚1.0	外傾する	口縁部上端に連続刺突文/横走 する数本の深い沈線	褐色/砂粒・礫多 量	後期中葉 加曾利B式	覆土中
第34図19 図版21-1-19	深鉢	胴部 破片	厚0.7	僅かに内湾して外傾	細く浅い沈線が横走	にぶい赤褐色/砂 粒・礫中量	後期中葉 加曾利B式	覆土上層

第18表 971号土坑出土土器一覽(1)

発掘番号 図版番号	器種 類別	部位 残存状態	法量 (cm)	器形・形態	文様・特徴	胎土	期式	出土位置
第34図20 図版21-1-20	深鉢	口縁部破片	厚0.7	外反して内積	地文はLR横文脈文/2本の沈線による帯状文	橙/砂粒・礫中量	後期中葉 加曾利B式	覆土下層
第34図21 図版21-1-21	深鉢	胴部破片	厚0.7	外積する	沈線による斜行文	にぶい橙/砂粒・礫中量	後期中葉 加曾利B式	覆土中
第34図22 図版21-1-22	深鉢	口縁部破片	厚1.0	僅かに内溜して直立/口唇部内面で肥厚	地文は斜格子文/施文順序は右下がり→左下がり	にぶい黄橙/砂粒・礫多量	後期前～中葉 粗製土器	覆土上層
第34図23 図版21-1-23	深鉢	胴部破片	厚0.6	僅かに外積するか	地文は斜格子文/施文順序は左下がり→右下がり	浅黄橙/砂粒中量・石英少量	後期前～中葉 粗製土器	覆土中
第34図24 図版21-1-24	深鉢	胴部破片	厚0.6	平底/胴部は垂直気味に立ち上がる	地文は条線文	明黄/砂粒・礫中量	後期前～中葉 粗製土器	覆土中層
第34図25 図版21-1-25	深鉢	口縁部破片	厚0.8	平縁/ほぼ直立	地文は条線文	灰濁/砂粒多量	後期前～中葉 粗製土器	覆土上層
第34図26 図版21-1-26	深鉢	胴部破片	厚0.5	外反して外積	地文は条線文/ヒダ状の押圧を伴う細線横走	暗濁/砂粒・石英・角閃石中量	後期前～中葉 粗製土器	覆土上層
第34図27 図版21-1-27	深鉢	胴部破片	厚0.5	やや外積	屈線文系/地文は条線文/一部に刻目を待つ	濁灰/砂粒微量	後期前～中葉 粗製土器	覆土中層
第34図28 図版21-1-28	深鉢	胴部破片	厚0.5	外積する	地文は条線文	にぶい黄橙/砂粒・角閃石少量	後期前～中葉 粗製土器	覆土下層
第34図29 図版21-1-29	深鉢	胴部破片	厚0.6	外反する	屈線文系/地文は条線文	にぶい黄濁/砂粒中量	後期前～中葉 粗製土器	覆土中層
第34図30 図版21-1-30	深鉢	胴部破片	厚0.9	くの字状に外折	2本の沈線が横走/単沈線による曲線文	橙色粒子・砂粒を含む	晩期前葉 安行3C式か	覆土上層

第18表 971号土坑出土土器一覽(2)

8は中期の加曾利E式の土器である。

9～29は後期の土器である。9～14は前葉の堀之内式、15～21は中葉の加曾利B式、22～29は粗製土器である。

30は晩期の安行3c式土器である。

973号土坑

遺 構 (第33図)

[位 置] 調査区南東端。

[検出状況] 972D・117Pに切られる。東側は調査区外にあるものと思われる。

[構 造] 平面形：楕円形か。断面形：皿状で坑底は平坦である。壁面は約55°で立ち上がる。規模：不明だが確認できた範囲で、長軸0.95m以上/短軸0.49m以上/深さ30cm。長軸方位：N-75°-W。

[覆 土] 7層に分層できた。

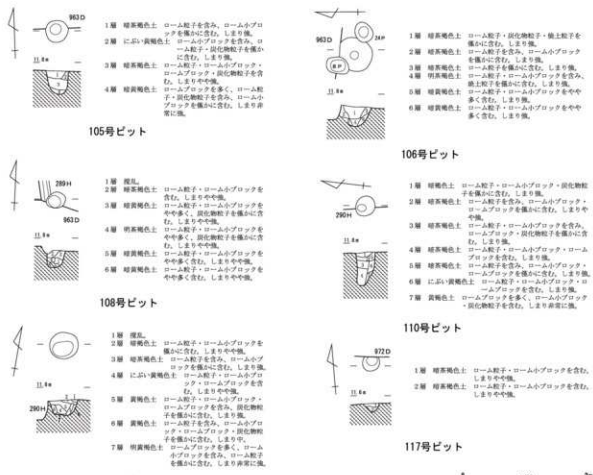
[遺 物] 出土しなかった。

[時 期] 覆土の観察から縄文時代の所産と考えられる。

(4) ピット (第35図、第19表)

調査区域内から検出されたピットは計118本であったが、その内訳は、縄文時代が6本、古墳・平安時代が3本、中世以降が109本であり、中世以降の所産と思われるピットが多かった。

縄文時代の所産と思われるピットは、118本のうち、6本(105・106・108・110・116・117P)が該当するものと考えられる。これらのピットからは、出土遺物がなかったが、覆土の観察から、縄文時代の所産のものと判断した。内容について、記述はしなかったが、ピットの基本内容は第19表を参照のこと。



第35図 ピット (1/60)

遺構名	平面形	限幅 (cm)			覆土及び特徴	主な遺物	時期
		長軸	短軸	深さ			
105 P	隅丸方形	36	35	38	4層/963Dに切られる	遺物なし	縄文
106 P	隅丸方形	58	(49)	38	6層/8P・24Pに切られる	遺物なし	縄文
108 P	隅丸方形か	31	26	30	5層/289H・963D・53Pに切られる	遺物なし	縄文
110 P	隅丸方形	34	30	54	7層/290Hに切られる	遺物なし	縄文
116 P	円形	45	42	32	6層/290Hに切られる	遺物なし	縄文
117 P	円形	28	27	12	2層/北面を972Dに切られ、973Dを切る	遺物なし	縄文

第19表 縄文時代のピット一覧

第3節 古墳時代後期・平安時代の遺構・遺物

(1) 概要

古墳時代後期・平安時代の遺構は、住居跡4軒(289～292H)・掘立柱建築遺構1棟(10T)・ピット3本(33・88・113P)が検出された。そのうち、古墳時代後期の遺構は、住居跡2軒(289・290H)・ピット1本(88P)、平安時代の遺構は、住居跡2軒(291・292H)・掘立柱建築遺構1棟(10T)・ピット2本(33・113P)である。なお、本地点は全体としては、中世以降の遺構が広がっており、それらの遺構により当該期の遺構は大きく影響を受けているものと言える。

(2) 住居跡

289号住居跡

遺 構 (第36・37図)

[位 置] 調査区南中央から東部。

[検出状況] 南東コーナーは調査区外である。10T-P6・7、963D、970D、48W、17・19・26・27・42・51～53・58・59・62・64～68・74・76・77・79・82・83・87～89・91～93・96・97Pに切られる。北東コーナーは48Wに、北西コーナーは17Pに破壊される。88・108Pを切る。

[構 造] 平面形：方形。規模：南北軸4.14m/東西軸4.15m/遺構確認面からの深さ10cm。壁：80°程度の角度で立ち上がる。主軸方位：N-12°-W。壁溝：上幅15cm前後/下幅7cm前後/床面からの深さ7～18cm。床面：硬化面はカマド付前面からP1にかけての住居中央部で確認された。貼床は5cm前後の厚さで施されていた。カマド：北壁の中央に位置する。主軸方位はN-6°-W。長さ116cm、幅92cm、壁への掘り込み31cm。燃焼部は住居上端から56cm程離れた箇所を確認された。袖部はロームを馬蹄形状に掘り残し、その上に粘土を被覆して構築されたと思われる。貯蔵穴：検出されなかった。柱穴：検出されなかった。入口施設：住居中央南壁付近で検出されたP1が入口ピットと考えられる。30×20cmの楕円形で、深さ22cm。その他：住居中央南側で焼土を検出した。

[覆 土] 15層(2～16層)に分層された。堆積状況から自然堆積と考えられる。

[遺 物] 土師器甕形土器、須恵器甕形土器、土製品(支脚)が出土した。出土遺物の多くは住居中央に集中している。第38図7の支脚はカマド燃焼部上からの出土である。その他として、炭化材が出土している。炭化材の樹種同定結果については、125ページを参照。

[時 期] 古墳時代後期(7世紀中葉)。

[所 見] 炭化材や焼土が出土されていることから、焼失住居と考えられる。

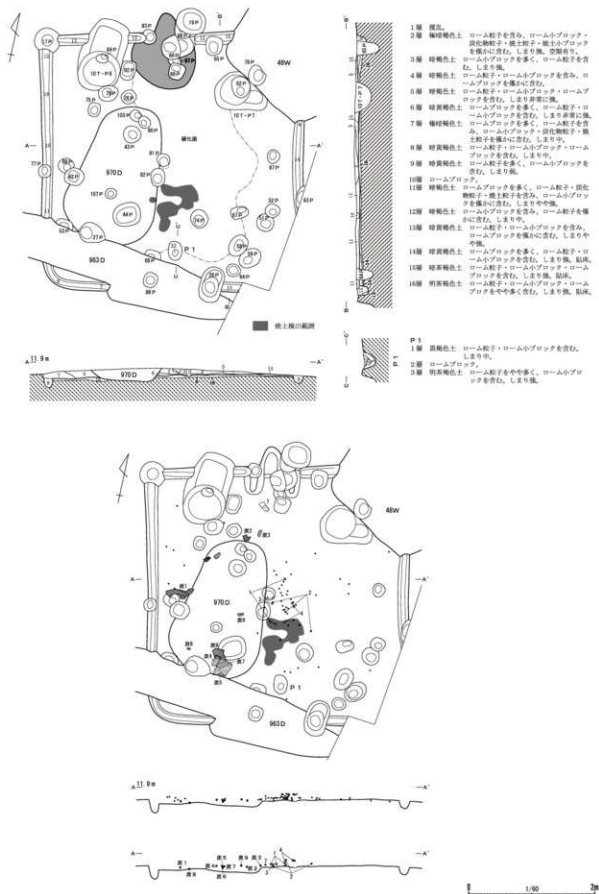
遺 物 (第38図、図版21-2、第20表)

[土 器] (第38図1～6、図版21-2-1～6、第20表)

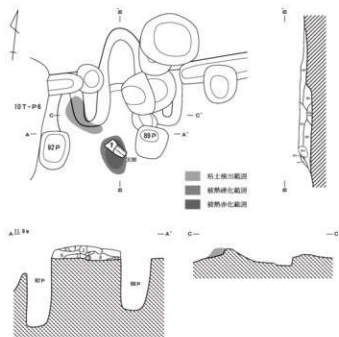
1～4は土師器甕形土器、5・6は須恵器甕形土器である。

[土 製 品] (第38図7、図版21-2-7)

7は支脚である。高さ17.1cm・上端幅8.5cm・下端幅7.5cm・重さ860g。形状は上端から下端にか

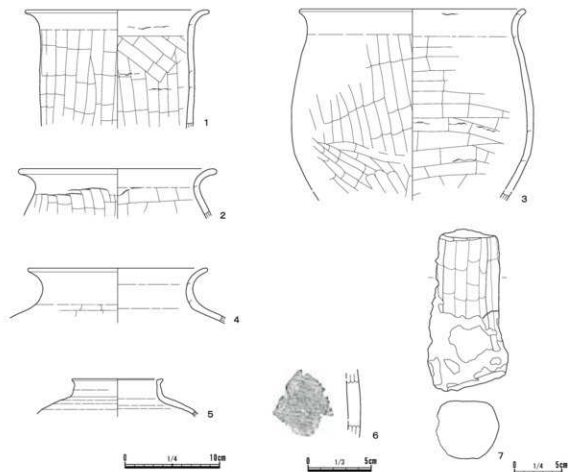


第36図 289号住居跡・遺物出土状態 (1/60)



第37図 289号住居跡カマド (1/30)

- 1層 赤褐色土 焼土粒子・焼土小ブロックを多く、炭化物粒子・焼土ブロック・焼土粒子を含み、ローム粒子・炭化材を僅かに含む。しまり肌。
- 2層 粘熟赤化粘土ブロック。
- 3層 粘褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子・焼土小ブロック・焼土ブロック・焼土粒子を含み、炭化物粒子を僅かに含む。しまり肌。
- 4層 暗赤褐色土 焼土粒子・焼土小ブロックを多く、炭化物粒子・焼土粒子を含み。ローム粒子・炭化材を僅かに含む。しまり肌。
- 5層 暗褐色土 炭化物粒子・焼土粒子・焼土小ブロック・焼土粒子を含み、ローム粒子を僅かに含む。しまりや中肌。
- 6層 粘褐色土 炭化物粒子・焼土粒子・焼土小ブロック・焼土粒子を含み、ローム粒子・焼土粒子を僅かに含む。しまり肌。
- 7層 赤褐色土 焼土粒子・焼土小ブロックを多く、焼土粒子を含み、ローム粒子・炭化物粒子を僅かに含む。しまりや中肌。
- 8層 暗褐色土 ローム粒子・焼土粒子を含み、ローム小ブロック・炭化物粒子・焼土小ブロック・焼土粒子を僅かに含む。しまりや中肌。
- 9層 粘褐色土 焼土粒子を含み、ローム粒子・炭化物粒子・焼土小ブロック・焼土粒子を僅かに含む。しまりや中肌。
- 10層 粘褐色土 ローム粒子・炭化物粒子・焼土粒子・焼土粒子を僅かに含む。しまり肌。
- 11層 にごい・黄褐色土 ローム粒子を含み、炭化物粒子・焼土粒子を僅かに含む。しまり肌。
- 12層 粘褐色土 ローム粒子・炭化物粒子・焼土粒子を僅かに含む。しまり肌。
- 13層 ロームブロック。



第38図 289号住居跡出土遺物 (1/4・1/3)

探検番号 図版番号	器種 種別	部位 残存状態	法量 (cm)	器形・形態	文様・調整等	胎土	出土位置
第38図1 図版21-2-1	土師器 甕	口縁部～ 胴部中位 20%	高112.6 口(19.4)	長甕/口縁部は大きく外反する/ 口縁部と胴部との境はスムーズ/ 最大径は口縁部にもつ/在地系土師器	内面:口縁部は横ナデ、以下はヘラナデ/外面:口縁部は横ナデ、 以下はヘラ削り後ヘラナデ	暗黄褐色を基調/ 砂粒をやや多く、 茶褐色点・金雲母・角閃石を僅かに含む	住居中央付近の覆土中(床上10cm程)から散在的
第38図2 図版21-2-2	土師器 甕	口縁部～ 胴部上半 20%以下	高53.1 口(21.1)	長甕/口縁部は大きく外反する/ 口縁部と胴部との境はスムーズ/ 胴部上半に金雲母のみをもつ/在地系土師器	内面:口縁部は横ナデ、以下はヘラナデ/外面:口縁部は横ナデ、 以下はヘラ削り後ヘラナデ	暗黄褐色を基調/ 砂粒をやや多く、 雲母を僅かに含む	住居中央付近の覆土中(床上10～16cm)から散在的
第38図3 図版21-2-3	土師器 甕	口縁部～ 胴部下半 20%	高20.2 口(24.0)	口縁部は外反する/口縁部と胴部との境はスムーズ/最大径は胴部中位にもつ	内面:口縁部は横ナデ、以下はヘラナデ/外面:口縁部は横ナデ、 以下はヘラ削り後ヘラナデ	暗黄褐色を基調/ 砂粒・小石を多く含む	住居中央付近の覆土上～覆土中(床上5・12cm)
第38図4 図版21-2-4	土師器 甕	口縁部～ 胴部上半 20%以下	高58.1 口(19.2)	丸甕/大型甕/口縁部は大きく外反する/在地系土師器	内面:口縁部は横ナデ、以下はヘラナデ/外面:口縁部は横ナデ、 以下はヘラナデ(スリップか)	暗黄褐色を基調/ 砂粒をやや多く、 雲母・角閃石を僅かに含む	住居中央付近の床面上～覆土中(床上9・10cm)
第38図5 図版21-2-5	須恵器 甕	口縁部～ 胴部上半 破片	高40.1 口(9.6)	短頸甕/口縁部は短く直立する/ 口唇端部に沈線がまわる/外面に自然釉/陶器製品か	口クロ成形	灰色/白色砂粒を含む	覆土中
第38図6 図版21-2-6	須恵器 甕	胴部破片	厚1.0	產地不明	内面:ナデ/外面:平行叩き目	灰色/白色砂粒を含む	覆土中

第20表 289号住居跡出土土器一覧

けて末広がり状を呈し、上端・下端面は平坦である。色調は淡黄色である。表面には縦方向にヘラナデによる調整が施されている。カマド内からの出土で、下端付近を一部欠損するが、ほぼ完形品である。

290号住居跡

遺構 (第39～41図)

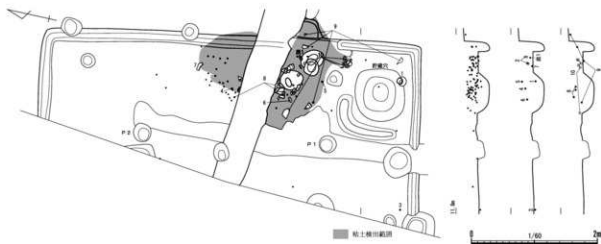
[位置] 調査区中央西端。

[検出状況] 東部のみの検出で、住居の半分は調査区外である。291H、963D、33・34・41・46・48・50・61・69・71・85・98・99・104・118Pに切られる。南中央から北側に細長い掘乱が入る。110・116Pを切る。

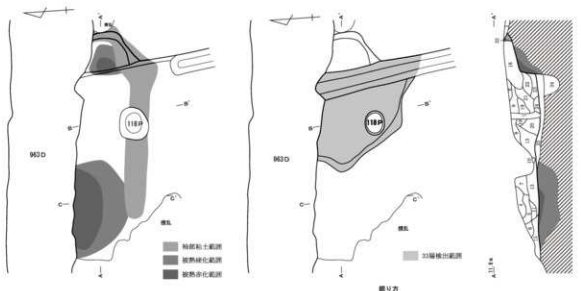
[構造] 平面形: 方形か。規模: 南北軸6.07m/東西軸不明/遺構確認面からの深さ27cm程度。壁: ほぼ垂直に立ち上がる。主軸方位: N-79°-E。壁溝: 上幅14～20cm/下幅5～10cm/床面からの深さ9～17cm。床面: 硬化面は中央付近及び貯蔵穴、凸堤の周辺から確認された。貼床は3～17cmの厚さで施されていた。特に壁際の掘り込みが深い。カマド: 東壁中央やや南寄りに位置する。主軸方位はN-85°-W。検出長172cm、幅不明、壁への掘り込み30cm。燃焼部は住居上端から76cm程離れた箇所を確認された。カマド構築過程は、カマド構築前に壁溝を掘削し、埋め戻した後、掘り方を4cm程の深さで掘削し、灰黄褐色土(第41図33層)で床を貼り、粘土で袖部および天井部を構築したと考えられる。貯蔵穴: 南東コーナーに位置する。84×79cmの隅丸方形で、床面からの深さは89cm。北西側には高さ3cm程、幅24cm程の「L」字状の凸堤が巡っていた。柱穴: P1・2が主柱穴と考えられる。P1は掘乱内からの検出で、径26cmの円形で、確認された面からの深さ67cm。P2は東側一部に掘乱を受けている。径28cmの円形で、床面からの深さ80cm。入口施設: 検出されなかった。

[覆土] 覆土は、セクションA-A'～E-E'の堆積状況から自然堆積と考えられる。

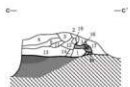
[遺物] 土師器罎・高坏・鉢・壺・甕形土器が出土した。カマド内から炭化材が1点検出された。炭化材の樹種同定結果については、125ページを参照。



第40図 290号住居跡遺物出土状態 (1/60)

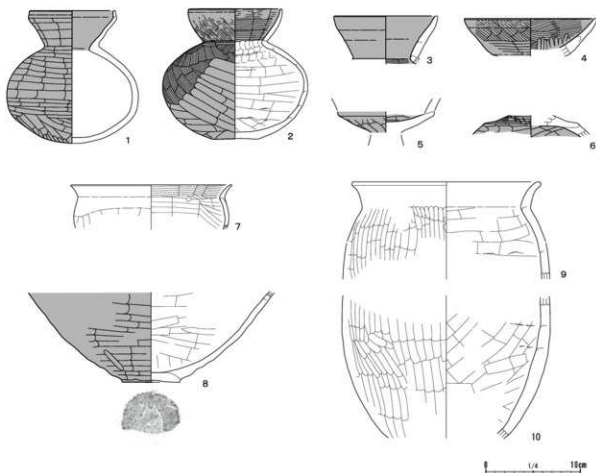


- 1層 覆土
- 2層 砂質褐色土 粘土粒子を多く、焼土小ブロックを含む。粘土粒子を塊状に含む。しまり強。
- 3層 砂質褐色土 粘土粒子・粘土・粘土粒子を含む。焼土小ブロックを塊状に含む。しまり強。
- 4層 灰白色土 粘土を多く、粘土粒子を含む。焼土粒子・焼土小ブロックを塊状に含む。しまり非常に強。カマド上部積層粘土。
- 5層 灰白色土 粘土粒子・焼土小ブロック・粘土を多く、粘土粒子を含む。しまり非常に強。カマド上部積層粘土。
- 6層 濃い黄褐色土 粘土を多く、粘土粒子・焼土粒子・焼土小ブロックを含む。焼土小ブロックを塊状に含む。しまり非常に強。カマド上部積層粘土。



- 7層 砂質褐色土 粘土粒子を含む。焼土小ブロック・粘土を塊状に含む。しまりやや中強。
- 8層 砂質褐色土 焼土粒子を含む。焼土小ブロック・粘土を塊状に含む。しまり強。
- 9層 砂質褐色土 焼土粒子を多く、焼土小ブロック・粘土を含む。粘土粒子を塊状に含む。しまりやや中強。
- 10層 砂質褐色土 焼土小ブロック。
- 11層 灰褐色土 粘土粒子・粘土粒子を含む。焼土小ブロック・粘土を塊状に含む。しまり強。
- 12層 砂質褐色土 粘土粒子を含む。焼土小ブロック・粘土を塊状に含む。しまり強。
- 13層 赤褐色土 粘土粒子・焼土小ブロックを多く、粘土・粘土粒子を含む。しまり強。
- 14層 砂質褐色土 粘土粒子を多く、粘土を含む。焼土粒子を塊状に含む。しまり強。
- 15層 赤褐色土 粘土粒子・粘土粒子を含む。焼土小ブロック・粘土を塊状に含む。しまり強。
- 16層 ローム小ブロック。
- 17層 砂質褐色土 ローム粒子・粘土・粘土粒子を含む。焼土粒子を塊状に含む。しまり強。段層土。
- 18層 灰白色土 粘土粒子・焼土小ブロック・粘土・粘土粒子を多く、砂化粘土を塊状に含む。しまり非常に強。カマド上部積層粘土。
- 19層 灰白色土 粘土。
- 20層 赤褐色土 粘土粒子・焼土小ブロック・粘土を多く、粘土粒子を含む。炭化物粒子を含む。しまり強。
- 21層 砂質褐色土 粘土粒子を多く、焼土小ブロック・粘土・粘土粒子を含む。炭化物粒子・炭化材・粘土粒子を塊状に含む。しまり強。
- 22層 砂質褐色土 粘土粒子・粘土を含む。ローム粒子・焼土小ブロック・粘土粒子を塊状に含む。しまり中強。
- 23層 オリーブ黄褐色土 粘土粒子・焼土小ブロックを含む。粘土・粘土粒子を塊状に含む。しまりやや中強。
- 24層 砂質褐色土 ローム粒子・粘土粒子を含む。炭化物粒子・粘土粒子を塊状に含む。しまりやや中強。
- 25層 砂質褐色土 粘土粒子・焼土小ブロック・粘土・粘土粒子を含む。しまり非常に強。カマド上部積層粘土。
- 26層 赤褐色土 粘土粒子・焼土小ブロックを多く、粘土・粘土粒子を含む。しまり非常に強。
- 27層 灰褐色土 粘土・粘土粒子を多く、粘土粒子を塊状に含む。しまり強。カマド上部積層粘土。
- 28層 砂質褐色土 粘土粒子を多く、粘土を含む。焼土粒子を塊状に含む。しまり強。
- 29層 灰白色粘土 粘土を多く、粘土粒子を塊状に含む。しまり強。カマド積層。
- 30層 灰白色粘土 粘土を多く、粘土粒子を含む。焼土粒子を塊状に含む。しまり強。カマド積層。
- 31層 オリーブ黄褐色土 粘土を含む。ローム粒子・ローム小ブロック・ローム小ブロック・粘土粒子を塊状に含む。しまり強。カマド積層。
- 32層 灰白色粘土 粘土を多く、粘土粒子を塊状に含む。しまり強。
- 33層 灰褐色土 ローム粒子・炭化物粒子・粘土粒子を含む。ローム小ブロック・炭化材・焼土小ブロックを塊状に含む。しまりやや中強。カマド積層。
- 34層 濃い黄褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・ローム小ブロックを含む。しまり強。段層土。
- 35層 段層土。

第41図 290号住居跡カマド (1/30)



第42図 290号住居跡出土遺物(1/4)

拝図番号 図版番号	器種 種別	部位 残存状態	法量 (cm)	器形・形態	文様・調整等	胎土	出土位置
第42図1 図版22-1-1	土師器 埴	80% 口縁部を一部欠損	高14.1 口9.2	口縁部は屈曲し、受口状に短く直立する/胴部は算盤玉状/胴部最大径は下半/底部は丸底/外面及び内面口頸部に赤彩/入間系土師器	内面:口頸部は横ナデ、以下は観察できなかった/外面:全体にナデられるが、胴部半以下はヘラ削り後粗いヘラ磨き調整	暗赤褐色/砂粒をやや多く、茶褐色粒子・小石を僅かに含む	貯蔵六南縁の床面レベル
第42図2 図版22-1-2	土師器 埴	40%	高13.8 口(10.0) 底4.8	口頸部は内湾意味に開く/体部は算盤玉状を呈する/外面及び内面口頸部は赤彩/外面底部に黒珉/入間系土師器か	内面:口頸部はハケ目調整後横ナデ、胴部はヘラナデ、上半部には指頭押捺による成形痕が見られる/外面:口頸部はハケ目調整後横ナデ、胴部はハケ目調整後中位以下がヘラ削り、部分的にヘラ磨き調整	暗赤褐色/砂粒をやや多く、石・茶褐色粒子を含む	カマド右脇の覆土中(床面上10-15cm)
第42図3 図版22-1-3	土師器 埴	口頸部 40%	高[5.1] 口(10.8)	口頸部はやや受口状に外積する/内外面に赤彩	内外面:口頸部は横ナデ	暗黄褐色を基調/砂粒を含む	南壁近くの床面上
第42図4 図版22-1-4	土師器 高环	环部20%	高[4.0] 口(14.0)	口縁部は内湾意味に開く/环部下半に弱い輪をもつ/内外面赤彩/No.6の土器と同一個体と思われる	内面:ハケ目調整後下半部は粗いヘラ磨き調整/外面:ハケ目調整後口縁部は粗い横ナデ、下半部は粗いヘラ磨き調整	暗赤褐色/角閃石・砂粒・白色針状物質を含む	カマド左前面の覆土中(床面上14cm)
第42図5 図版22-1-5	土師器 高环	环部下半 60%	高[2.2]	有段高环/内外面赤彩	内面:ヘラ磨き調整/外面:ヘラ削り	暗黄褐色を基調/砂粒を含み、角閃石・金雲母を僅かに含む	カマド右脇の覆土中(床面上20cm)
第42図6 図版22-1-6	土師器 高环	脚台部 30%	高[3.3]	有段高环の脚台部/裾部は外積する/外面は赤彩/No.4の土器と同一個体と思われる	内面:ヘラナデ(横ナデか)、一部ハケ目磨き調整/外面:裾部はナデ(横ナデか)、上部は粗いヘラ磨き調整	暗赤褐色/角閃石・砂粒・白色針状物質を含む	カマド前面の覆土中(床面上11cm)

第21表 290号住居跡出土土器一覧(1)

調査番号 図版番号	器種 類別	部位 残存状態	法量 (cm)	器形・形態	文様・調整等	胎土	出土位置
第42図7 図版22-1-7	土師器 鉢	口縁部～ 胴部中位 20%	高14.8 口(17.0)	小型鉢か/口縁部は「く」字状/器厚は薄く、シャープな作り/内外面に赤彩/内面は黒斑	内面:ハケ目調整/外面:口縁部は横ナデ、以下はヘラ削り	暗茶色を基調/砂粒をやや多く、角閃石を僅かに含む	カマド左側の覆土中(床土4cm)
第42図8 図版22-1-8	土師器 壺	胴部下半 ～底部 20%	高9.5 底6.0	大型赤彩壺/底部は輪台状/外面は赤彩/内面は黒斑	内面:ヘラナデ/外面:粗いヘラ書き調整か	暗赤褐色を基調/砂粒・小石を多く含む	カマド上部
第42図9 図版22-1-9	土師器 甕	口縁部～ 胴部中位 30%	高10.3 口(20.0)	口縁部は「く」字状/最大径は胴部中位/10と同一個体と思われるが接合できなかった	内面:口縁部は横ナデ、胴部はヘラナデ/外面:口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り後粗いヘラ書き調整	暗黄褐色/金重母・砂粒をやや多く含む	カマド・貯蔵穴付近の覆土中(床土1～20cm)から散在的
第42図10 図版22-1-10	土師器 甕	胴部中位 ～下半 40%	高15.4	最大径は胴部中位/外面胴部下半に黒斑/9と同一個体と思われるが接合できなかった	内面:ヘラナデ/外面:口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り後粗いヘラ書き調整か	暗黄褐色/金重母・砂粒をやや多く含む	カマド及びその付近の覆土中(床土10cm)から散在的

第21表 290号住居跡出土土器一覧(2)

[時期] 古墳時代後期(5世紀後葉)。

[遺物] (第42図、図版22-1、第21表)

1～3は土師器埴形土器、4～6は土師器高環形土器、7は土師器鉢形土器、8は土師器壺形土器、9・10は土師器甕形土器である。

291号住居跡

[遺構] (第43図)

[位置] 調査区中央西側。

[検出状況] 掘乱や後世の遺構に多くを破壊されており、遺存状況が非常に悪かったため、壁面や壁溝を確認できず、床面の一部を検出できたのみであった。また本住居跡の大半は調査区外であると思われる。965D、45・48～50・69～73Pに切られる。292H、81Pを切る。

[構造] 平面形:不明。規模:長短軸不明/遺構確認面からの深さ10cm程度。壁:確認できなかった。長軸方位:不明。壁溝:確認できなかった。床面:一部硬化した面を確認できた。貼床は5～12cmの厚さで施されていた。カマド:確認できなかった。貯蔵穴:検出されなかった。柱穴:検出されなかった。入口施設:検出されなかった。

[覆土] 7層(2～8層)に分層された。

[遺物] 須恵器環・蓋・甕形土器、土師器甕形土器が出土した。

[時期] 平安時代(9世紀後葉)。

[遺物] (第44図、図版22-2、第22表)

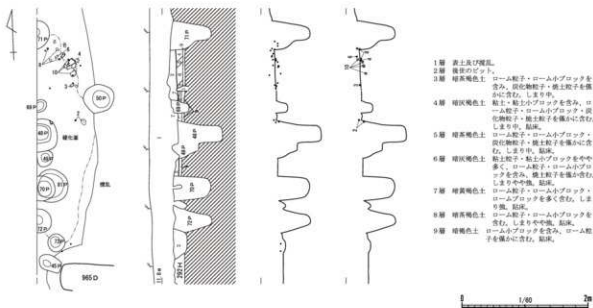
1～6は須恵器環・埴形土器、7は須恵器蓋形土器、8・9は土師器甕形土器、10は須恵器甕形土器である。6は須恵器埴形土器で、内黒土器である。

292号住居跡

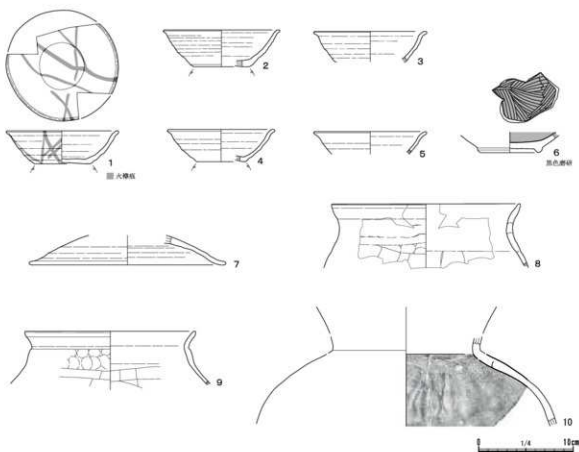
[遺構] (第45図)

[位置] 調査区南西側。

[検出状況] 掘乱や後世の遺構に多くを破壊されており、遺存状況は悪く、壁溝、床面、カマドの各一



第43図 291号住居跡・遺物出土状態 (1/60)



第44図 291号住居跡出土遺物 (1/4)

調査番号 図版番号	器種 類別	部位 残存状態	法量 (cm)	器形・形態	文様・調整等	胎土	出土位置
第44図1 図版22-2-1	須恵器 環	80% / 口縁部～体部一部欠損	高 3.5 口 11.9 底 6.0	口縁部は僅かに外反する / 平底 / 東金子製品	ロクロ成形 / ロクロ回転は右回転 / 底部に回転糸切り痕 / 内外面に灰白色の火押直	灰色 / 白色砂粒を含む	覆土中
第44図2 図版22-2	須恵器 環	23%	高 3.9 口 (12.4) 底 (5.8)	口縁部は外反する / 平底 / 東金子製品	ロクロ成形 / ロクロ回転は右回転 / 底部に回転糸切り痕	灰褐色 / 白色砂粒・小石を含む	ほぼ床面上
第44図3 図版22-2-3	須恵器 環	口縁部～体部下 30%	高 13.3 口 (12.0)	口縁部は屈曲気味に外反する / 平底 / 東金子製品	ロクロ成形 / ロクロ回転は右回転	灰色 / 白色砂粒を含む	覆土中 (床土 11cm)
第44図4 図版22-2-4	須恵器 環	20%	高 3.4 口 (11.4) 底 (5.2)	口縁部は僅かに外反する / 平底 / 東金子製品	ロクロ成形 / ロクロ回転は右回転 / 底部に回転糸切り痕	灰色 / 白色砂粒を含む	覆土中 (床土 6cm)
第44図5 図版22-2-5	須恵器 環	口縁部～体部 30%	高 12.4 口 (12.0)	口縁部は屈曲気味に外反する / 平底 / 東金子製品	ロクロ成形 / ロクロ回転は右回転	灰色 / 白色砂粒・小石を含む	覆土中
第44図6 図版22-2-6	須恵器 壺	体部下 20%	高 12.2 底 (6.0)	内黒土器 / 高台あり	ロクロ成形 / 内面: 黒色処理後ヘラ磨き調整	淡黄褐色 / 赤褐色 粒子を含む	覆土中 (床土 10cm)
第44図7 図版22-2-7	須恵器 蓋	天井部～口縁部 20%	高 13.1 口 (20.8)	非口縁蓋 / 口縁部は外反する / 東金子製品	ロクロ成形 / ロクロ回転は右回転	灰色 / 白色砂粒を含む	覆土中
第44図8 図版22-2-8	土師器 甕	口縁部から胴部上 半20%	高 16.8 口 (20.0)	「コ」の字口縁 / 頸部に輪積み痕	内面: 口頸部は横ナデ、以下はヘラナデ / 外面: 口頸部は横ナデ、以下はヘラ磨り	明赤褐色 / 砂粒を多く含む	覆土中 (床土 3～7cm)
第44図9 図版22-2-9	土師器 甕	口縁部から胴部上 半20%	高 15.6 口 (18.0)	いわゆる武蔵型甕 / 「コ」の字口縁 / 口唇部外面はやや平用に面取りされる / 頸部に輪積み痕が顕著に残る	内面: 口頸部は横ナデ、以下はヘラナデ / 外面: 口頸部は横ナデ、以下はヘラ磨り	明赤褐色 / 砂粒を多く含む	覆土中
第44図10 図版22-2-10	須恵器 甕	頸部～胴部上 40%	高 19.5	頸部で屈曲し口頸部は外傾する / 緑銅 / 産地不明	内外面: ナデ / 内面に僅かに当て道具痕が観察できる	灰白色を基調 / 白色砂粒を含む	床面上から散在的

第22表 291号住居跡出土土器一覽

部を検出できたのみであった。本住居跡の大半は調査区外である。291H、965 D、45・47～50・55・72・73 Pに切られる。

〔構造〕平面形：方形か。規模：長短軸不明 / 遺構確認面からの深さ15cm程度。壁：不明。主軸方位：N-76°-E。壁溝：北、西側の壁溝の一部を確認できた。上幅11～15cm・下幅5cm・深さ6～10cm / 床面：住居中央～北東付近で硬化した面が確認された。カマド：東壁に位置する。主軸方位はN-76°-W。検出長80cm、幅不明、壁への掘り込み28cm。燃焼部は確認されなかった。カマドの下に壁溝が確認されなかったことから、袖部はロームを掘り残し、その上に粘土を被覆して構築されたものと思われる。貯蔵穴：検出されなかった。柱穴：検出されなかった。入口施設：検出されなかった。

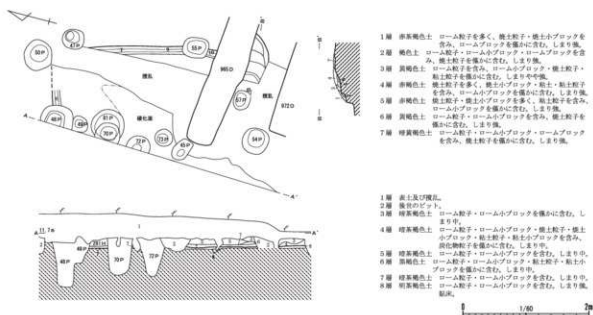
〔覆土〕6層（3～8層）に分層された。

〔遺物〕須恵器環・甕形土器の破片が僅か出土した。

〔時期〕平安時代（9世紀後半）。

〔遺物〕（図版22-3、第23表）

1は須恵器環形土器、2は土師器甕形土器である。



第45図 292号住居跡 (1/60)

図版番号	器種 種別	部位 残存状態	法量 (cm)	器形・形態	文様・調整等	胎土	出土位置
図版 22-3-1	須恵器 杯	口縁部～ 体部破片	高 [3.2]	口縁部は外反する/東金子製品	ロクロ成形/ロクロ回転は右回転	灰色/砂粒を含む	覆土中
図版 22-3-2	土師器 甕	口縁部～ 胴部上半 破片	高 [6.6]	いわゆる武蔵型甕/「コ」の口 縁/口縁部は内湾気味	内面:口縁部は横ナデ、胴部はヘ ラナデ/外面:口縁部は横ナデ、 胴部はヘラ削り	砂粒を含む	覆土中

第23表 292号住居跡出土土器一覧

(3) 掘立柱建築遺構

10号掘立柱建築遺構

遺 構 (第46図、第24表)

[位 置] 調査区中央～東部でP1～7が検出された。P8～10は東に隣接する第82地点(尾形・大久保・宮下 2014)で確認されている。

[検出状況] 289Hを切る。960・963D、48W、23・62・63・79・84・114Pに切られる。

[構 造] 平面形: 10本柱で、南北2間、東西3間。規模: 南北6.00m/東西8.10m。柱穴間距離(柱穴中心間)は概ね2.35mで、P2～P9間は7.05m。各柱穴の規模については第24表を参照。主軸方位: N-4°-W。その他: P1・6・7で柱根の痕跡を確認した。

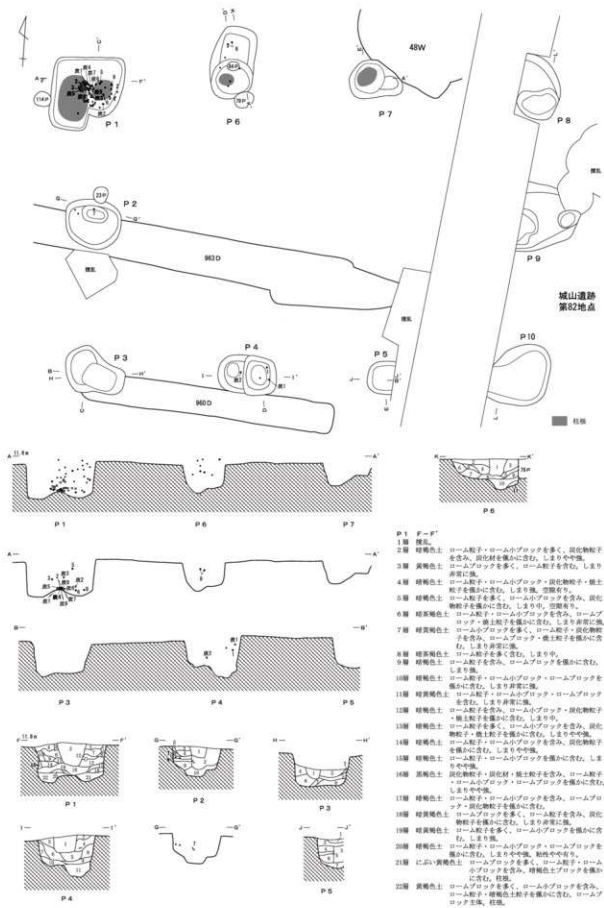
[覆 土] 各柱穴の覆土は第46図を参照。

[遺 物] P1・2・4・6から須恵器蓋・甕形土器、灰釉陶器長頸壺が出土した。特にP1からの出土が多かった。また、P1・4から炭化材、P5から炭化種実、炭化材が出土した。炭化種実の自然科学分析は123ページ、炭化材の自然科学分析は125ページを参照。

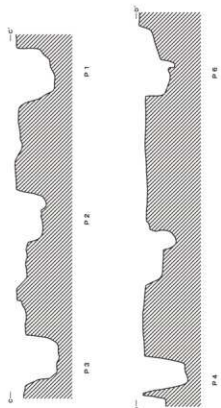
[時 期] 平安時代(9世紀後葉)。

遺 物 (第47図、図版23-1、第25表)

1～3は須恵器蓋形土器、4は灰釉陶器長頸壺、5～10は須恵器甕形土器である。



第46図 10号掘立柱建築遺構 (1/60)

P2 G-0¹

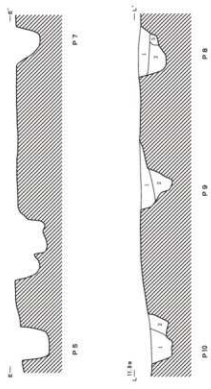
- 1層 原状土
- 2層 輝褐色土 ローム小ブロックを多く、ローム粒子を含む、ロームブロック・炭化植物子・炭化材、焼土粒を層状に含む。しまりや中塊。
- 3層 輝褐色土 ローム小ブロックを多く、ローム粒子を含む。しまりや中塊。
- 4層 輝褐色土 ローム粒子を含む、ロームブロックを層状に含む。しまりや中塊。
- 5層 輝褐色土 ローム粒子を層状に含む。しまりや中塊。
- 6層 土に包み黄褐色土 ローム粒子を層状に含む。しまりや中塊。
- 7層 輝褐色土 ローム粒子、ローム小ブロックを含む。しまりや中塊。
- 8層 輝褐色土 ローム粒子を含む、ローム小ブロックを層状に含む。しまりや中塊。
- 9層 輝褐色土 ローム粒子を含む、ローム小ブロック・ロームブロックを層状に含む。しまりや中塊。
- 10層 輝褐色土 ローム小ブロックを多く、ローム粒子、ローム小ブロックを含む。しまりや中塊。

P3 H-4¹

- 1層 原状土
- 2層 輝褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・炭化植物子を含む、ロームブロック・炭化材、焼土粒を層状に含む。しまりや中塊。
- 3層 輝褐色土 ローム粒子・炭化植物子を含む、ローム小ブロック・ロームブロック・炭化材、焼土粒を層状に含む。しまりや中塊。
- 4層 輝褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む。しまりや中塊。
- 5層 輝褐色土 ローム粒子を含む、ローム小ブロック・ロームブロックを層状に含む。しまりや中塊。
- 6層 輝褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む。しまりや中塊。
- 7層 輝褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含む、ローム小ブロックを層状に含む。しまりや中塊。
- 8層 輝褐色土 ローム小ブロックを多く、ローム粒子、ローム小ブロックを含む。しまりや中塊。

P4 I-1¹

- 1層 輝褐色土 ローム粒子を多く、ローム小ブロック・炭化材を含む、炭化植物子・焼土粒を層状に含む。しまりや中塊。
- 2層 輝褐色土 ローム粒子・炭化植物子を層状に含む。しまりや中塊。
- 3層 輝褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまりや中塊。
- 4層 輝褐色土 ローム粒子を多く、ローム小ブロック・炭化植物子・炭化材、焼土粒を層状に含む。しまりや中塊。
- 5層 輝褐色土 ローム粒子を含む、ローム小ブロック・炭化植物子を層状に含む。しまりや中塊。
- 6層 輝褐色土 ローム小ブロックを多く、ローム粒子・ローム小ブロック・炭化植物子を含む。炭化材を層状に含む。しまりや中塊。
- 7層 輝褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含む、ローム小ブロックを層状に含む。しまりや中塊。
- 8層 輝褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・ローム小ブロック・炭化植物子・炭化材、焼土粒を層状に含む。しまりや中塊。
- 9層 輝褐色土 ローム粒子を多く、ローム小ブロックを含む、ローム小ブロックを層状に含む。しまりや中塊。
- 10層 原状土 ローム小ブロックを含む、ローム粒子・ローム小ブロックを層状に含む。しまりや中塊。
- 11層 黄褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・ローム小ブロックを含む。しまりや中塊。

P5 J-0¹

- 1層 輝褐色土 ローム粒子・炭化植物子・焼土粒を層状に含む。しまりや中塊。
- 2層 輝褐色土 ローム粒子を多く、ローム小ブロックを含む、ローム小ブロックを層状に含む。しまりや中塊。
- 3層 輝褐色土 ローム粒子を含む、ローム小ブロックを層状に含む。しまりや中塊。
- 4層 輝褐色土 ローム粒子を含む、ローム小ブロックを含む。しまりや中塊。
- 5層 輝褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・ローム小ブロックを含む。しまりや中塊。
- 6層 輝褐色土 ローム小ブロックを多く、ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまりや中塊。
- 7層 黄褐色土 ローム小ブロックを多く、ローム粒子・ローム小ブロック・原状土ブロックを含む。しまりや中塊。

P6 K-4¹

- 1層 輝褐色土 ローム粒子・炭化植物子を含む、ローム小ブロック・焼土粒を層状に含む。しまりや中塊。
- 2層 輝褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・炭化植物子を層状に含む。しまりや中塊。
- 3層 輝褐色土 ローム粒子を多く、ローム小ブロック・炭化植物子・焼土粒を含む。しまりや中塊。
- 4層 輝褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒を層状に含む。しまりや中塊。
- 5層 輝褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含む、焼土粒を層状に含む。しまりや中塊。
- 6層 輝褐色土 焼土粒・焼土小ブロックを含む、ローム粒子を層状に含む。しまりや中塊。
- 7層 輝褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・ローム小ブロックを含む、炭化植物子を層状に含む。しまりや中塊。
- 8層 輝褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・炭化植物子を層状に含む。しまりや中塊。
- 9層 輝褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまりや中塊。
- 10層 輝褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含む、ローム小ブロックを層状に含む。しまりや中塊。
- 11層 輝褐色土 ローム粒子を含む、ローム小ブロックを層状に含む。しまりや中塊。

層別地点

L-1¹

P8

- 1層 黄褐色土 ローム粒 (径1~2mm) を多数含む。粘性・しまりや中塊。
- 2層 輝褐色土 ローム粒 (径1~2mm) を少量、炭化粒 (径1~2mm) を多数含む。粘性・しまりや中塊。
- 3層 輝褐色土 ローム粒 (径1~2mm) を少量、焼土粒 (径1~2mm) を多数含む。粘性・しまりや中塊。

P9

- 1層 黄褐色土 ローム粒・炭化粒 (径1~2mm) を多数含む。粘性・しまりや中塊。
- 2層 輝褐色土 ローム粒 (径1~2mm) を少量、炭化粒 (径1~2mm) を多数含む。粘性・しまりや中塊。

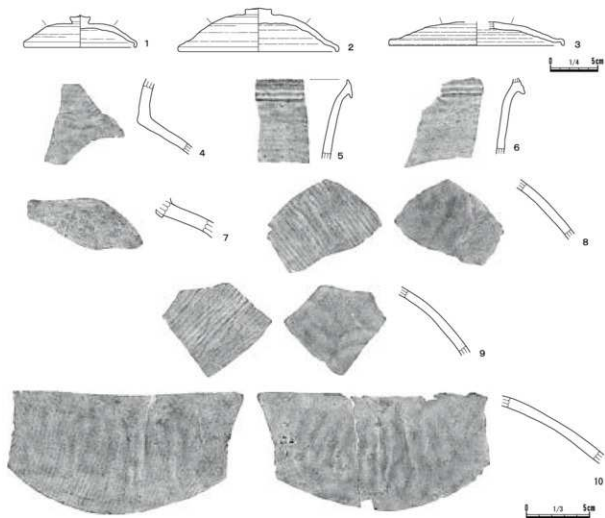
P10

- 1層 輝褐色土 ローム粒 (径1~2mm) を多数、焼土粒 (径1~2mm) を多数含む。粘性・しまりや中塊。
- 2層 輝褐色土 ローム粒 (径1~2mm) を少量、焼土粒 (径1~2mm) を多数含む。粘性・しまりや中塊。



ピット 番号	平面形	規模(cm)			覆土及び特徴	主な遺物
		長軸	短軸	深さ		
P1	不整形 (L字状)	115	112	57	21層(2~22層) / 柱根は2か所確認された / 遺物・炭化材は東側に集中する / 底面に凹凸あり / 114Pに切られる	須恵器6点(蓋2点、甕4点)、灰釉陶器1点(長頸甕)、炭化材
P2	隅丸方形	88	78	45	9層(2~10層) / 底面の一部にピット状の段差あり / 963D、23Pに切られる	須恵器1点(甕)
P3	不整形 (L字状)	91	74	54	8層 / 底面に僅かに段差あり / 960Dに切られる	図示できるものはなかった
P4	隅丸長方形	93	64	68	11層 / 底面に段差あり / 960D、81Pに切られる	須恵器1点(蓋)、炭化材
P5	隅丸方形か	53	41以上	50	7層 / 底面はほぼ平坦 / 最下層(7層)はしまりが非常に強く、柱根の可能性 / 東側を覆乱される	炭化材
P6	長方形	116	70	50	11層 / 柱根あり / 底面にテラス状の段差あり / 遺物は覆土中～上層で出土 / 79・84Pに切られる	須恵器1点(甕)
P7	不整形長方形か	85	60	37	ローム粒子・ロームブロックを多く、ローム粒子を含み、焼土粒子を僅かに含む暗黄褐色土 / 柱根あり / 底面にテラス状の段差あり / 48W、62・63Pに切られる	なし
P8	不整形長方形か	102	66以上	35	2層 / 底面に段差あり / 第82地点で検出	図示できるものはなかった
P9	不整形長方形か	110	88以上	50	2層 / 底面にピット状の段差あり / 第82地点で検出	なし
P10	不整形 (L字状か)	96	92以上	40	2層 / 底面に段差あり / 第82地点で検出	図示できるものはなかった

第24表 10号掘立柱建築遺構ピット一覽



第47図 10号掘立柱建築遺構出土遺物(1/4・1/3)

発掘番号 図版番号	器種 種別	部位 残存状態	法量 (cm)	器形・形態	文様・調整等	胎土	出土位置
第47図1 図版23-2-1	須恵器 蓋	40%	高3.4 口(12.0)	有鋸蓋/鋸は擬宝珠形(径2.2cm)/口縁部は有口縁/東金子製品	ロクロ成形/ロクロ回転は右回転/天井頂部に回転器削り痕	灰色/白色砂粒を含む	P4 覆土中 (底面上42cm)
第47図2 図版23-2-2	須恵器 蓋	20%以下	高4.6 口(17.0)	有鋸蓋/鋸は擬宝珠形(径2.8cm)/口縁部は屈曲が強いが有口縁/東金子製品	ロクロ成形/ロクロ回転は右回転/天井頂部に回転器削り痕	灰色/白色砂粒を含む	P1 底面上
第47図3 図版23-2-3	須恵器 蓋	天井部～ 口縁部 20%	高[2.5] 口(16.6)	口縁部は有口縁/東金子製品	ロクロ成形/ロクロ回転は右回転/天井頂部に回転器削り痕	灰色/白色砂粒を含む	P1 覆土中 (底面上22cm)
第47図4 図版23-2-4	灰輪陶器 長頸瓶	胴部～胴 部上半破 片	高[6.0]	胴部は外補する/胴部上半から頸部にかけて屈曲する/外面に灰輪	ロクロ成形/ロクロ回転は右回転	灰白色/砂粒を僅かに含むが、精練されている	P1 覆土中
第47図5 図版23-2-5	須恵器 甕	口頸部破 片	高[5.2]	複合口縁/複合部外面に沈線がまわる/口縁部は外反する/東金子製品か	ロクロ成形	灰色/白色砂粒を含む	P1 覆土中 (底面上42cm)
第47図6 図版23-2-6	須恵器 甕	口頸部破 片	高[5.5]	複合口縁/複合部外面に沈線がまわる/口縁部は外反する/東金子製品か	ロクロ成形	灰色/白色砂粒を含む	P1 覆土中 (底面上10cm)
第47図1 図版23-2-7	須恵器 甕	胴部～胴 部上半破 片	厚0.8	胴部上半から胴部にかけて屈曲する/外面に自然輪	ロクロ成形	灰色/黒色粒子・白色砂粒を含む	P2 覆土中 (底面上24cm)
第47図1 図版23-2-8	須恵器 甕	胴部破片	厚0.7	曲線状の胴部/外面に黒く保けた部分あり	内面:当て道具痕/外面:平行叩き目痕	灰色/黒色粒子・白色砂粒を含む	P6 覆土中 (底面上30・33cm)
第47図1 図版23-2-9	須恵器 甕	胴部破片	厚0.8	曲線状の胴部	内面:当て道具痕/外面:平行叩き目痕	青灰色/白色砂粒を含む	P1 覆土中 (底面上8cm)
第47図1 図版23-2-10	須恵器 甕	胴部上半 破片	厚0.7	曲線状の胴部/外面に自然輪	内面:当て道具痕/外面:平行叩き目痕	灰色/白色砂粒・小石を含む	P1 覆土中

第25表 10号掘立柱建築遺構出土土器・陶器一覧

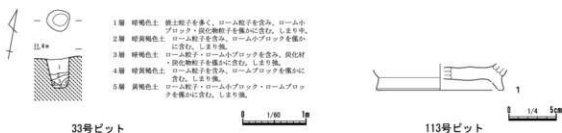
(4) ピット (第48図、図版23-2、第26・27表)

今回の調査では、古墳時代後期から平安時代のピットが3本(33・88・113P)検出されているが、時期を特定することが困難であった。88Pは289Hの貼床下から検出されたものである。113Pの覆土中からは、土器1点が出土した。ここでは、113P出土土器について記述するに留めることとする。なお、各ピットの基本内容については第26表に示した。

113Pからは、須恵器長頸瓶の底部破片が出土した。9世紀代か(第48図、図版23-2、第27表)。

遺構名	平面形	縦横(cm)			覆土及び特徴	主な遺物及び備考	時期
		長軸	短軸	深さ			
33 P	隅丸方形	35	33	49	5層	290Hを切る/遺物なし	平安
88 P	隅丸方形	26	24	37	ローム粒子・ローム小ブロックを含む暗茶褐色土を基調	289H貼床下/遺物なし	古墳時代
113 P	隅丸方形	26	23	12	1層:ローム粒子・ローム小ブロックを僅かに含む黒褐色土/ 2層:ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロックを僅かに含む暗黄褐色土	114Pに切られる/ 須恵器1点(長頸瓶)	平安 (9c代か)

第26表 古墳・平安時代のピット一覽



第48図 33号ピット・113号ピット出土遺物(1/60・1/4)

探検番号 図版番号	器種 種別	部位 残存状態	法量 (cm)	器形・形態	文様・調整等	胎土	出土位置
第48図1 図版23-2-1	須恵器 長頸瓶	底部20%	高12.1 底(10.0)	高台あり/東金子製品か	ロクロ成形/ロクロ回転は右回転/ 内面底部に指痕による成形痕 (指紋)が観察される	淡灰褐色/白色砂 粒を含む	覆土中

第27表 113号ピット出土土器一覽

第4節 中世以降の遺構・遺物

(1) 概要

中世以降の遺構については、土坑15基(958~970・972D)・井戸跡2基(48・49W)・ピット109本(1~32・34~87・89~104・107・109・111・112・114・115・118P)が検出された。これらの遺構については、城山遺跡の特色として、「柏の城跡」関連遺構と共に周辺で多く検出されるものである。

なお、各遺構の時代設定は、遺物が出土した場合は陶磁器・土器などの年代を中心に詳細年代を明示したが、それ以外は中世以降と表記した。

(2) 土坑

ここでは、平面形及び細部の形態的な特徴を本報告第2章第4節と同様に城山遺跡第42地点で報告された分類基準に当てはめて説明することにする(尾形・深井・青木 2005)。さらにF群については、中野遺跡第95地点(徳留・尾形・青木 2017)の分類を使用し、G群は、その他の分類不明群とした。検出された土坑の総数は15基で、基本構造については、第28表を参照。

A群 方形の土坑 0基

- 1類 袋状の構造を呈する
- 2類 袋状の構造ではなく、単純構造を呈する

B群 長方形の土坑 13基

- 1類 溝状土坑 6基 (960～963・965・972 D)
- 2類 幅狭の長方形土坑 4基 (958・959・964・966 D)
- 3類 幅広の長方形土坑 3基 (967～969 D)
- 4類 火床部を有する土坑 0基

C群 円形・楕円形の土坑 1基 (957 D)**D群 不整形の土坑 1基 (970 D)****E群 地下室・地下坑 0基**

- 1類 1 豎坑 1 主体部タイプ
- 2類 特殊タイプ

F群 T字形の土坑 0基**G群 その他 0基****A群 方形の土坑**

今回の調査では、1類・2類ともに該当するものはなかった。

B群 長方形の土坑 (第49・50図、第28・30・31表)

13基検出された。今回の調査では、4類は検出されなかった。

1類 溝状土坑

960～963・965・972 Dの6基が該当する。

960号土坑

遺 構 (第49図、第28表)

[位 置] 調査区中央やや南寄り。

[検出状況] 10 T-P 3・3・4 Pを切る。

[構 造] 平面形：溝状の長方形。坑底までの深さの差が3段あるため、掘り返さないし3基の土坑の新旧の差によるものであろう。規模：長軸4.06m／短軸0.54m／深さ18～42cm。壁：ほぼ垂直に立ち上がる。長軸方位：N-85°-W。

[覆 土] 4層に分層された。

[遺 物] 出土しなかった。

[時 期] 覆土の観察から、中世以降と思われる。

961号土坑

遺 構 (第49図、第28表)

[位 置] 調査区中央やや南寄り。

[検出状況] 東端の上端は攪乱により破壊されている。

[構 造] 平面形：溝状の長方形。規模：長軸5.16m／短軸0.62m／深さ41cm。壁：壁はほぼ垂直に立ち上がる。長軸方位：E-W。

[覆 土] 6層に分層された。

[遺 物] 磁器1点(皿)が出土した。

[時 期] 中世(15世紀後半)。

[遺 物] (図版23-3-1、第30表)

[磁 器] (図版23-3-1、第30表)

1は中国製の白磁皿である。

962号土坑

[遺 構] (第49図、第28表)

[位 置] 調査区北西端。

[検出状況] 958・959Dに切られる。西側は調査区外にあると思われる。

[構 造] 平面形：溝状の長方形。規模：長軸2.97m／短軸0.70m以上／深さ41cm。壁：80°の角度で急斜に立ち上がる。長軸方位：ほぼN-3°-E。

[覆 土] 6層に分層された。

[遺 物] 陶器1点(甕)が出土した。

[時 期] 中世(16世紀後半)。

[遺 物] (図版23-3-1、第30表)

[陶 器] (図版23-3-1、第30表)

1は陶器で、常滑甕である。

963号土坑

[遺 構] (第49図、第28表)

[位 置] 調査区中央にほぼ東西方向に延びる。

[検出状況] 東側は調査区にあるものと思われる。289H、10T(P2)、970D、8・9・16・20・26~28・46・53・68・86・105・108Pを切る。

[構 造] 平面形：溝状の長方形。溝状に東西方向に長く伸びているが、坑底までの深さにより、便宜的にA~Dとした。これらは、掘り返さないし4基の土坑の新旧の差によるものであろう。

(963D-A) 規模：長軸3.57m／短軸0.45m／深さ30cm。壁：ほぼ垂直に立ち上がる。

(963D-B) 規模：長軸1.93m以上／短軸0.79m以上／深さ42cm。壁：ほぼ垂直に立ち上がる。

(963D-C) 規模：長軸8.05m以上／短軸0.68m／深さ47cm。壁：ほぼ垂直に立ち上がる。

(963D-D) 規模：長軸1.41m／短軸0.46m／深さ53cm。壁：ほぼ垂直に立ち上がる。

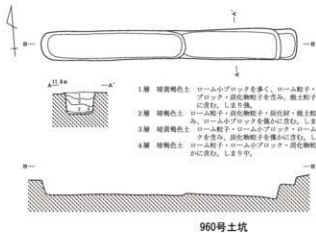
(全 体) 規模：長軸9.24m。長軸方位：ほぼN-84°-W。

[覆 土] 基本的に2層ないし3層に分層される。

[遺 物] 陶器1点(徳利)・石製品1点(砥石)が出土した。

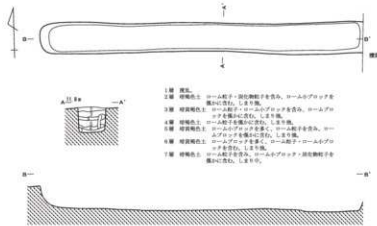
[時 期] 近世(19世紀)。

[遺 物] (第52図2、図版23-3-1・2、第30・31表)



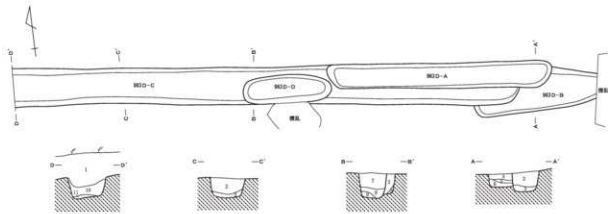
- 1層 緑黄褐色土 ローム小ブロックを多く、ローム粒子・ロームブロック・炭化物粒子を含み、粘土粒子を僅かに含む。しまり地。
- 2層 暗褐色土 ローム粒子・炭化物粒子、炭化材、粘土粒子を含み、ローム小ブロックを僅かに含む。しまり地。
- 3層 緑黄褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含み、炭化物粒子を僅かに含む。しまり地。
- 4層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・炭化物粒子を僅かに含む。しまり地。

960号土坑



- 1層 黄土
- 2層 暗褐色土 ローム粒子・炭化物粒子を含み、ローム小ブロックを僅かに含む。しまり地。
- 3層 暗黄褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロックを僅かに含む。しまり地。
- 4層 暗褐色土 ローム粒子を僅かに含む。しまり地。
- 5層 暗黄褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロックを僅かに含む。しまり地。
- 6層 暗黄褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含み、しまり地。
- 7層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・炭化物粒子を僅かに含む。しまり地。

961号土坑

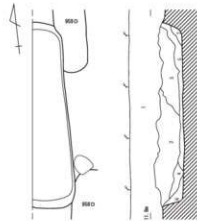


- 1層 黄土
- 2層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロック・炭化物粒子を僅かに含む。しまり地。空堀あり。
- 3層 暗褐色土 ローム粒子・ロームブロックを僅かに含む。しまり地。
- 4層 暗褐色土 ローム粒子を含み、ロームブロック・炭化物粒子を僅かに含む。しまり地。
- 5層 暗黄褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり地。
- 6層 暗褐色土 ローム粒子・粘土粒子を僅かに含む。しまり地。
- 7層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含み、炭化物粒子・粘土粒子を僅かに含む。しまり地。
- 8層 暗褐色土 ローム粒子を含む。しまり地や中地。
- 9層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを僅かに含む。しまり地。
- 10層 暗褐色土 ローム粒子を多く含む。しまり地。空堀あり。
- 11層 暗黄褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり地。

963号土坑

B群1類

第49図 土坑1 (1/60)



- 1層 黄土
- 2層 暗褐色土 ローム小ブロックを多く、ローム粒子を含み、ロームブロックを僅かに含む。しまり地。
- 3層 暗褐色土 ローム粒子を含み、ローム小ブロックを僅かに含む。しまり地や中地。
- 4層 暗褐色土 ローム粒子を含む。ローム小ブロックを僅かに含む。しまり地。
- 5層 暗褐色土 ローム粒子を多く、ローム小ブロック・ロームブロックを含む。しまり地。
- 6層 暗黄褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを多く、ロームブロックを僅かに含む。しまり地や中地。
- 7層 暗黄褐色土 ローム粒子を多く、ローム小ブロックを含む。しまり地や中地。

962号土坑



[陶器] (図版19-2-1、第30表)

1は陶器で、徳利である。

[石製品] (第52図2、図版23-3-2、第31表)

2は砥石である。

965号土坑

遺構 (第50図、第28表)

[位置] 調査区南半部にほぼ東西方向に延びる。

[検出状況] 290・291Hを切る。東端の上端は攪乱により破壊されている。

[構造] 平面形：溝状の長方形。規模：長軸7.92m以上／短軸0.73m／深さ59cm。壁：ほぼ垂直に立ち上がる。長軸方位：N-84°-W。

[覆土] 5層に分層された。

[遺物] 出土しなかった。

[時期] 覆土の観察から、中世以降と思われる。

972号土坑

遺構 (第50図、第28表)

[位置] 調査区南端にほぼ東西方向に延びる。

[検出状況] 973D、111Pを切る。

[構造] 平面形：溝状の長方形。規模：長軸7.43m／短軸0.64m／深さ76cm。壁：ほぼ垂直に立ち上がる。長軸方位：N-84°-W。

[覆土] 11層に分層された。

[遺物] 出土しなかった。

[時期] 覆土の観察から、中世以降と思われる。

2類 幅狭の長方形土坑 (第50図、図版23-3、第28・30表)

958・959・964・966Dの4基が該当する。

958号土坑

遺構 (第50図、第28表)

[位置] 調査区北西端。

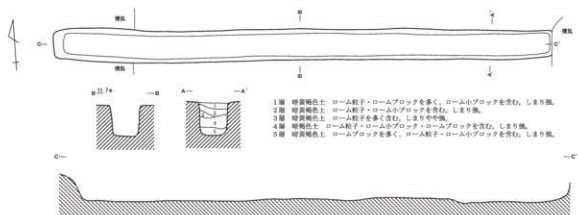
[検出状況] 962D、2Pを切る。

[構造] 平面形：長方形。規模：長軸1.79m／短軸0.76m／深さ21cm。壁：約65°の角度で立ち上がる。長軸方位：N-10°-E。

[覆土] 3層に分層された。

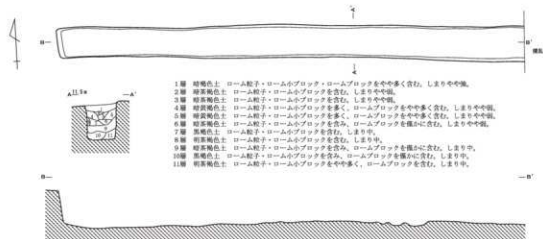
[遺物] スラッグ1点が出土したが、掲載なし。

[時期] 覆土の観察から中世以降と思われる。



- 1層 暗褐色土 rome粒子・romeブロックを多く、rome小ブロックを含む、しまり強。
- 2層 暗褐色土 rome粒子・rome小ブロックを含む、しまり強。
- 3層 暗褐色土 rome粒子を多く含む、しまり中強。
- 4層 暗褐色土 rome粒子・rome小ブロック・romeブロックを含む、しまり強。
- 5層 暗褐色土 romeブロックを多く、rome粒子・rome小ブロックを含む、しまり強。

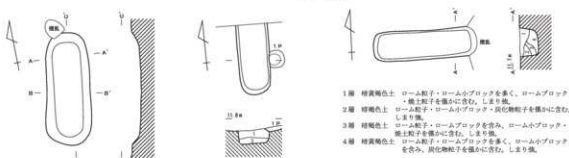
965号土坑



- 1層 暗褐色土 rome粒子・rome小ブロック・romeブロックを多く含む、しまり中強。
- 2層 暗褐色土 rome粒子・rome小ブロックを含む、しまり中強。
- 3層 暗褐色土 rome粒子・rome小ブロックを含む、しまり中強。
- 4層 暗褐色土 rome粒子・rome小ブロックを多く、romeブロックを多く含む、しまり中強。
- 5層 暗褐色土 rome粒子・rome小ブロックを多く、romeブロックを多く含む、しまり中強。
- 6層 暗褐色土 rome粒子・rome小ブロックを含む、しまり中。
- 7層 暗褐色土 rome粒子・rome小ブロックを含む、しまり中。
- 8層 暗褐色土 rome粒子・rome小ブロックを含む、しまり中。
- 9層 暗褐色土 rome粒子・rome小ブロックを含む、romeブロックを多く含む、しまり中。
- 10層 暗褐色土 rome粒子・rome小ブロックを含む、romeブロックを多く含む、しまり中。
- 11層 暗褐色土 rome粒子・rome小ブロックを多く含む、romeブロックを含む、しまり中。

972号土坑

Ⅱ群 1類



- 1層 暗褐色土 rome粒子・rome小ブロックを多く、romeブロック・焼土粒子を多く含む、しまり強。
- 2層 暗褐色土 rome粒子・rome小ブロック・炭化物粒子を多く含む、しまり強。
- 3層 暗褐色土 rome粒子・rome小ブロック・焼土粒子を多く含む、しまり強。
- 4層 暗褐色土 rome粒子・rome小ブロックを多く、炭化物粒子を多く含む、しまり強。

964号土坑

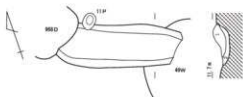


- 1層 暗褐色土 rome小ブロック・炭化物粒子を多く、rome粒子を含む、romeブロック・炭化材を多く含む、しまり強。
- 2層 暗褐色土 rome粒子・rome小ブロックを含む、炭化物粒子・焼土粒子を多く含む、しまり強。

959号土坑

- 1層 暗褐色土 rome粒子・rome小ブロック・炭化物粒子・焼土粒子を多く含む、しまり中。
- 2層 暗褐色土 rome粒子を含む、rome小ブロック・炭化物粒子・焼土粒子を多く含む、しまり中。
- 3層 暗褐色土 rome粒子・rome小ブロック・romeブロックを含む、しまり中。

958号土坑



- 1層 暗褐色土 rome粒子・rome小ブロックを多く含む、しまり強。2層より弱。
- 2層 暗褐色土 rome粒子・rome小ブロック・焼土粒子を多く含む、しまり強。

966号土坑

Ⅱ群 2類

第50図 土坑2 (1/60)

959号土坑

遺構 (第50図、第28表)

位置 調査区北西端。

検出状況 1Pに切れ、962Dを切る。

構造 平面形：長方形。規模：長軸1.12m以上／短軸0.51m／深さ30cm。壁：ほぼ垂直に立ち上がる。長軸方位：N-S。

覆土 2層に分層された。

遺物 磁器1点(碗)・陶器3点(皿・播鉢・甕)土器1点(皿)が出土した。

時期 近世(17世紀前半～18世紀)。

遺物 (図版23-3-1～5、第30表)

陶磁器・土器 (図版23-3-1～5、第30表)

1は磁器碗、2～4は陶器で、2は皿、3は播鉢、4は甕である。5は土器皿である。

964号土坑

遺構 (第50図、第28表)

位置 調査区南半部にほぼ東西方向に延びる。

検出状況 東端の上端は攪乱により破壊されている。

構造 平面形：長方形。規模：長軸1.51m以上／短軸0.49m／深さ32cm。壁：ほぼ垂直に立ち上がる。長軸方位：N-88°-E。

覆土 4層に分層された。

遺物 出土しなかった。

時期 覆土の観察から、中世以降と思われる。

966号土坑

遺構 (第50図、第28表)

位置 調査区北東端。

検出状況 11Pに切れ、967・968Dを切り、49Wと重複する。

構造 平面形：長方形。規模：長軸1.98m以上／短軸0.72m／深さ23cm。壁：約70°の角度で立ち上がる。長軸方位：N-70°-W。

覆土 2層に分層された。

遺物 土器1点(皿)が出土した。

時期 中世(16世紀後半)。

遺物 (図版23-3-1、第30表)

土器 (図版23-3-1、第30表)

1は土器皿である。

3類 幅広の長方形土坑 (第51図、図版23-3、第28・30表)

967～969Dの3基が該当する。

967号土坑

遺 構 (第51図、第28表)

[位 置] 調査区北東端。

[検出状況] 966Dに切られる。49Wと重複する。

[構 造] 平面形：長方形。規模：長軸0.65m／短軸0.62m／深さ10cm。壁：約50°の角度で立ち上がる。長軸方位：N-84°-W。

[覆 土] 単層。

[遺 物] 陶器1点(碗)が出土した。

[時 期] 中世(16世紀後半)。

遺 物 (図版23-3-1、第30表)

[陶 器] (図版23-3-1、第30表)

1は陶器で、天目茶碗である。

968号土坑

遺 構 (第51図、第28表)

[位 置] 調査区北東端。

[検出状況] 966Dに切られる。北側は調査区外にあるものと思われる。

[構 造] 平面形：長方形。規模：長軸0.96m以上／短軸0.94m／深さ25cm。壁：約70°の角度で立ち上がる。長軸方位：N-20°-W。

[覆 土] 3層に分層された。

[遺 物] 陶器1点(皿)・土器1点(皿)が出土した。

[時 期] 中世(15世紀後半)。

遺 物 (図版23-3-1・2、第30表)

[陶器・土器] (図版23-3-1・2、第30表)

1は陶器皿、2土器皿である。

969号土坑

遺 構 (第51図、第28表)

[位 置] 調査区北端部。

[検出状況] 12Pに切られる。北東コーナー部を攪乱により破壊されている。

[構 造] 平面形：長方形。規模：長軸1.91m／短軸1.03m／深さ23cm。壁：緩やかに立ち上がる。長軸方位：N-80°-E。

[覆 土] 3層に分層された。

[遺 物] 土器1点(皿)が出土した。

[時 期] 中世(15世紀)。

遺 物 (図版23-3-1、第30表)

[土 器] (図版23-3-1、第30表)

1は土器皿である。

C群 円形・楕円形の土坑 (第51図、図版23-3、第28・30表)

957 Dの1基が該当する。

957号土坑

遺構 (第51図、第28表)

[位置] 調査区北西端。

[検出状況] 切り合いはなく、単独で検出された。

[構造] 平面形：楕円形。規模：長軸0.74m/短軸0.64m/深さ14cm。壁：緩やかに立ち上がる。

長軸方位：N-22°-W。

[覆土] 2層に分層された。

[遺物] 陶器1点が出土した。

[時期] 中世(15世紀初頭)。

遺物 (図版23-3-1、第30表)

[陶器] (図版23-3-1、第30表)

1は陶器皿である。

D群 不整形の土坑 (第51図、図版23-3、第28・30・31表)

970 Dの1基が該当する。

970号土坑

遺構 (第51図、第28表)

[位置] 調査区中央やや東側。

[検出状況] 963D、27・42・43 Pに切られ、289H、82・91 Pを切る。80・103・107 Pとの新旧不明。

[構造] 平面形：不整形。規模：長軸2.19m以上/短軸1.45m/深さ20cm。壁：緩やかに立ち上がる。南北方向に立ち上がりの確認は難しかった。長軸方位：N-8°-E。

[覆土] 14層に分層された。

[遺物] 比較的遺物が多く、陶器3点(碗・蓋物・瓶)磁器2点(碗)、土器3点(皿)、鉄製品12点(釘9点・不明品3点)、石製品4点(砥石2点・線刻石1点・板碑1点)、石器4点(磨製石斧1点・敲石2点・石皿1点)が出土した。石器は縄文時代の所産と考えられるが、礫や石製品と混在し、まとめて出土している。出土状況を考慮し、これらの石器4点を本土坑で報告する。

[時期] 近世(18世紀前半～後半)。

[所見] 本遺構は、当初遺構として掘り進めたが、覆土と思われていた部分が、広範囲にグライ化していることが判明したため、溜池状の窪みであった可能性がある。ここでは土坑として取り扱った。

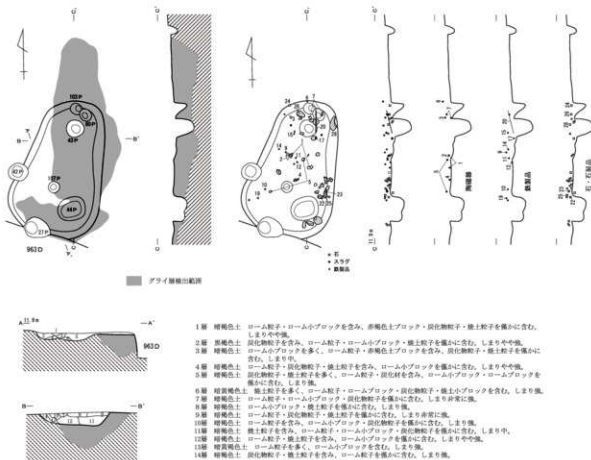
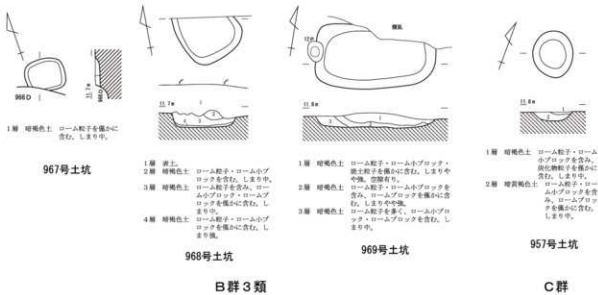
遺物 (第53・54図、図版24、図版25-1、第30・31表)

[陶磁器・土器] (第53図1・3・6・7、図版24-1~8、第30表)

1・2は磁器、3~5は陶器、6~8は土器である。8の土器皿は墨書土器である。墨書は文字と思われるが不明である(梵字か)。

[鉄製品] (第53図9~20、図版24-9~20、第31表)

9~17は釘、18~20は不明品である。



970号土坑

D群

第51図 土坑3 (1/60)



遺構名	平面形	分類	規模 (m)			長軸方位	覆土及び特徴	主な遺物	時期
			長軸	短軸	深さ				
957D	楕円形	C群	0.74	0.64	0.14	N-22°-W	2層	陶器1点(皿)	中世 (15c初)
958D	長方形	B群2類	1.79	0.76	0.21	N-10°-E	3層/962D、2Pを切る	スラッグ1点(搭載なし)	中世以降
959D	長方形	B群2類	(1.12)	0.51	0.30	N-S	2層/1Pに切られ、962Dを切る	磁器1点(碗)・陶器3点(皿・楕鉢・甕)・土器1点(皿)	近世 (17c前半~18c)
960D	溝状	B群1類	4.06	0.54	0.18~0.42	N-85°-W	4層/坑底は3段/10T-P3・3・4Pを切る	遺物なし	中世以降
961D	溝状	B群1類	5.16	0.62	0.41	E-W	6層/東端の上端は覆瓦	磁器1点(中国製白磁皿)	中世 (15c後半)
962D	溝状	B群1類	2.97	(0.70)	0.41	N-3°-E	6層/958・959Dに切られる/西端は調査区外	陶器1点(甕)	中世 (16c後半)
963D-A	溝状	B群1類	3.57	0.45	0.30	N-84°-W	2層/289H、970D、16・27・53・68・86・108Pを切る	陶器1点(徳利)・石器製品1点(砥石)	近世 (19c)
963D-B			(1.93)	(0.79)	0.42		3層/9・26・105Pを切る/東端は覆瓦		
963D-C			(8.05)	0.68	0.47		4層/10T-P2、8・16・20・28・46・86Pを切る/西端は調査区外		
963D-D			1.41	0.46	0.53		3層/10T-P2を切る		
964D	長方形	B群2類	(1.51)	0.49	0.32	N-88°-E	4層/東端の上端は覆瓦	遺物なし	中世以降
965D	溝状	B群1類	(7.92)	0.73	0.59	N-84°-W	5層/291・292Hを切る/東端の上端は覆瓦	遺物なし	中世以降
966D	長方形	B群2類	(1.98)	0.72	0.23	N-70°-W	2層/11Pに切られ、967・968Dを切り、49Wと重複する	土器1点(皿)	中世 (16c後半)
967D	長方形	B群3類	0.65	0.62	0.10	N-84°-W	単層/966Dに切られ、49Wと重複する	陶器1点(碗)	中世 (16c後半)
968D	長方形	B群3類	(0.96)	0.94	0.25	N-20°-W	3層/966Dに切られる/北側は調査区外	陶器1点(皿)・土器1点(皿)	中世 (15c後半)
969D	長方形	B群3類	1.91	1.03	0.23	N-80°-E	3層/12Pに切られる/北東コーナー部を覆瓦	土器1点(皿)	中世 (15c)
970D	不整形	D群	(2.19)	1.45	0.20	N-8°-E	14層/963D、27・42・43Pに切られ、289H、82・91Pを切る/80・103・107Pとの新旧不明	陶器3点(徳・蓋物・甕)・磁器2点(碗)・土器3点(皿)・鉄製品12点(釘9点・不明品3点)・石器製品4点(砥石2点・線刻石1点・板碑1点)・石器4点(磨製石斧1点・砥石2点・石皿1点)	近世 (18c前半~後半)
972D	溝状	B群1類	7.43	0.64	0.76	N-84°-W	11層/973D、111Pを切る/東端は覆瓦	遺物なし	中世以降

⑨ 971・973Dは縄文

第28表 中世以降の土坑一覧

[石製品] (第53図21~23、図版24-21~24、第31表)

21・22は砥石、23は線刻石である。そのうち、線刻石には、表裏面に人物(裏面:力士か)などの絵画が線刻されている。

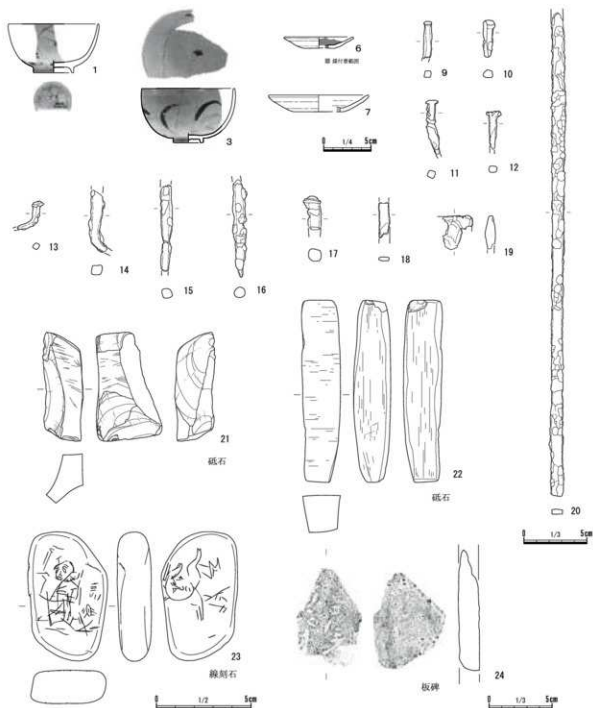
24は板碑の破片である。表面には紀年銘の一部が確認できる。紀年銘は「广永 □ 月」とある。応永年間は1394~1427年である。

[石器] (第54図25~28、図版24-25・26、図版25-1-1-27・28、第31表)

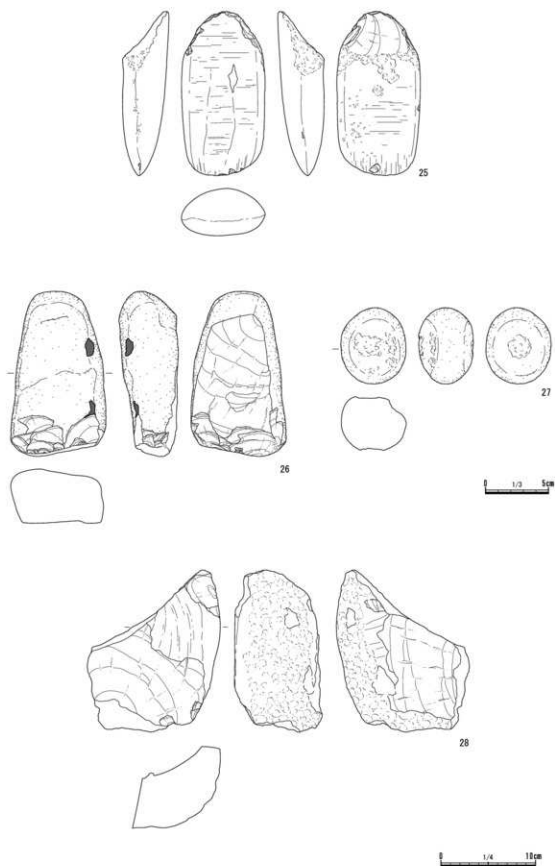
25~28は石器で、25磨製石斧、26・27は敲石、28は石皿である。いずれも縄文時代の所産のものと考えられる。



第52図 963号土坑出土遺物(1/3)



第53図 970号土坑出土遺物1(1/4・1/3・1/2)



第54図 970号土坑出土遺物2 (1/3・1/4)

E群 地下室・地下坑

今回の調査では、該当するものはなかった。

F群 T字形の土坑

今回の調査では、該当するものはなかった。

G群 その他

今回の調査では、該当するものはなかった。

(3) 井戸跡

48号井戸跡

遺 構 (第55図)

[位 置] 調査区北東端。

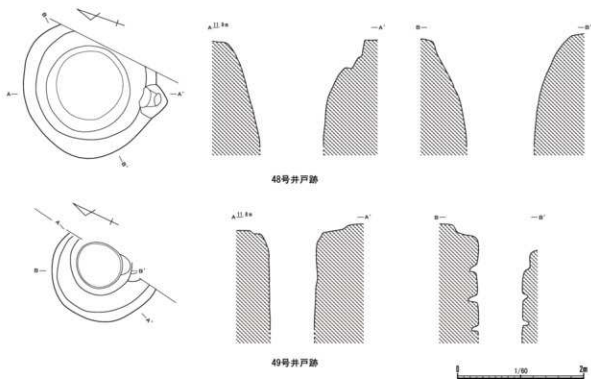
[検出状況] 東側一部は調査区外。289H、10T-P7を切る。62・63・78Pと重複する。

[構 造] 平面形：不整形の円形。規模：長軸2.33m／短軸不明／深さ170cm程度まで精査を行ったが、危険を伴うため途中で精査を断念した。壁：開口部は漏斗状に大きく広がり、 $65^{\circ}\sim 75^{\circ}$ の角度で立ち上がる。深さ約140cmより下はほぼ垂直である。その他：足掛穴は確認されなかった。南端の立ち上がりに段差を有する。

[遺 物] 土器1点(皿)が出土した。

[時 期] 中世(16世紀後半)。

遺 物 (図版25-2-1、第30表)



第55図 井戸跡 (1/60)

〔土器〕(図版25-2-1、第30表)

1は土器で皿である。

49号井戸跡

遺構 (第55図)

〔位置〕 調査区北東端。

〔検出状況〕 西半分を検出。東半分は調査区外。966・967 Dと重複する。

〔構造〕 平面形：円形。開口部に井戸跡本体よりも一回り大きな円形の平坦面を有する。規模：径1.62m。井戸跡本体は径0.75m/深さ175cm程度まで精査を行ったが、危険を伴うため途中で精査を断念した。平坦面の幅は20～43cmである。壁：井戸跡本体はほぼ垂直に立ち上がる。平坦面の立ち上がりは30°～40°である。その他：壁の途中に足掛穴を三段分確認できた。

〔遺物〕 陶器1点(鉢)、土器3点(皿2点・焙烙1点)が出土した。

〔時期〕 中世(15世紀後半)。

遺物 (図版25-2-1～4、第30表)

〔陶器・土器〕(図版25-2-1～4、第30表)

1は陶器鉢、2～4は土器で、2・3は皿、4は焙烙である。

(4) ピット (第56～60図、図版25-3、第29～31表)

調査区域内から検出されたピットは、全部で118本と数多くのピットが存在するが、その内訳は、縄文時代が6本、古墳時代～平安時代が3本、中世以降が109本と中世以降の所産と思われるピットが多かった。

中世以降のピットは109本(1～32・34～87・89～104・107・109・111・112・114・115・118P)であった。

ここでは、遺物の出土した13・14・16・21・22・44・51・66・73Pの9本から出土した遺物の記述に留めた。ピット基本内容は第29表に示した。

13・14・16Pからは、磁器が1点ずつ出土した(図版25-3-1、第30表)。

21Pからは、鉄製品1点(不明品)が出土した(第60図1、図版25-3-1、第31表)。

22Pからは、陶器1点(碗)・鉄製品3点(釘)が出土した(第60図1～4、図版25-3-1～4、第30・31表)。

44Pからは、磁器1点(皿)・鉄製品2点(釘)が出土した(第60図2・3、図版25-3-1～3、第30・31表)。

51Pからは、土器1点(皿)が出土した(第60図1、図版25-3-1、第30表)。

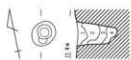
66Pからは、陶器1点(鉢)が出土した(図版25-3-1、第30表)。

73Pからは、土器1点(焙烙)が出土した(図版25-3-1、第30表)。



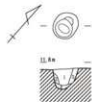
- 1層 暗褐色土 ローム粒子を含みロームブロックを塊状に含む。しまりや中塊。
- 2層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを塊状に含む。しまりや中塊。
- 3層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまりや中塊。

31号ピット



- 1層 暗褐色土 ローム粒子・ロームブロックを含む。ローム小ブロック・粘土粒子を塊状に含む。しまりや中塊。
- 2層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまりや中。
- 3層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを塊状に含む。しまりや中塊。
- 4層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含む。ロームブロックを塊状に含む。しまりや中塊。

36号ピット



- 1層 暗褐色土 ローム粒子を多く、ローム小ブロックを含む。しまりや中塊。
- 2層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまりや中塊。
- 3層 暗褐色土 ローム小ブロックを多く、ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまりや中塊。
- 4層 暗褐色土 ローム小ブロックを多く、ローム小ブロックを含む。ローム粒子を塊状に含む。しまりや非常に塊。粒塊。

39号ピット



- 1層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含む。ローム小ブロックを塊状に含む。しまりや中。
- 2層 暗褐色土 ローム粒子を多く、ローム小ブロックを含む。しまりや非常に塊。
- 3層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを多く含む。しまり非常に塊。

■ 粒塊

41号ピット



- 1層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・炭化物粒子・粘土粒子を含む。しまりや中。
- 2層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロック・炭化物粒子・粘土粒子を含む。しまりや中。
- 3層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを多く、炭化物粒子を含む。しまりや中。

43号ピット



- 1層 暗褐色土 ローム粒子を多く、ローム小ブロックを含む。しまりや中。
- 2層 暗褐色土 ローム粒子を多く、ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまりや中塊。
- 3層 暗褐色土 ローム粒子を多く、ローム小ブロックを含む。ローム小ブロックを塊状に含む。しまりや中。

47号ピット



- 1層 暗褐色土 ローム粒子・ロームブロックを含む。ローム小ブロックを塊状に含む。しまりや中。
- 2層 暗褐色土 ローム粒子を多く、ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまりや中。
- 3層 暗褐色土 ローム粒子を含む。ローム小ブロックを塊状に含む。しまりや中。
- 4層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまりや中塊。

51・52号ピット



- 1層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む。しまりや中。
- 2層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・ローム小ブロックを含む。しまりや中。

34号ピット



- 37の暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまり非常に塊。
- 38の暗褐色土 ローム粒子を多く、ローム小ブロック・ローム小ブロックを含む。しまりや中。
- 39の暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含む。塊状粒子を塊状に含む。しまりや中。

37・38号ピット



- 1層 暗褐色土 ローム小ブロックを多く、ローム粒子・ローム小ブロックを塊状に含む。しまりや中。
- 2層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・粘土粒子を塊状に含む。しまりや中塊。
- 3層 暗褐色土 ローム粒子を多く、ローム小ブロックを含む。しまりや中。
- 4層 暗褐色土 ローム小ブロック・ローム小ブロックを含む。ローム小ブロックを塊状に含む。しまり非常に塊。

40号ピット



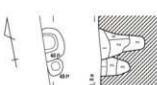
- 1層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含む。粘土粒子を塊状に含む。しまりや中。
- 2層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを多く含む。しまりや中。
- 3層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを多く、ローム小ブロックを塊状に含む。しまり非常に塊。
- 4層 暗褐色土 ローム小ブロック・ローム小ブロックを含む。しまり非常に塊。

42号ピット



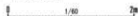
- 1層 暗褐色土 粘土粒子を多く、ローム粒子・ローム小ブロック・炭化物粒子を含む。炭化物を塊状に含む。しまりや中。
- 2層 暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロック・炭化物粒子・粘土粒子を含む。しまりや中。
- 3層 暗褐色土 粘土粒子・粘土小ブロック・粘土粒子を含む。しまりや中。
- 4層 暗褐色土 ローム粒子・炭化物粒子・粘土粒子・粘土を含む。しまりや中。

44号ピット



- 44の暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまりや中。
- 45の暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまりや中。
- 46の暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを多く含む。しまりや中。
- 47の暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを多く含む。しまりや中。
- 48の暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまりや中。
- 49の暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまりや中。
- 50の暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまりや中。
- 51の暗褐色土 ローム粒子・ローム小ブロックを含む。しまりや中。

48・49号ピット



第57図 ピット2 (1/60)

遺構名	平面形	規模(cm)			覆土及び特徴	主な遺物及び備考	時期
		長軸	短軸	深さ			
1 P	隅丸方形	32	27	11	ローム粒子を含み、炭化物粒子を僅かに含む暗褐色土を基調	959Dを切る/遺物なし	中世以降
2 P	隅丸方形	37	33	30	2層	958Dに切られる/遺物なし	中世以降
3 P	隅丸方形	(38)	(36)	29	3層	960Dに切られる/4P・95Pを切る/遺物なし	中世以降
4 P	隅丸方形	25	20	38	土層注記なし	960D・3Pに切られる/遺物なし	中世以降
5 P	隅丸長方形	41	26	47	4層	遺物なし	中世以降
6 P	隅丸長方形	30	25	30	ローム粒子・ロームブロックを多く、ローム小ブロックを含む暗褐色土を基調	14FPを切る/遺物なし	中世以降
7 P	隅丸長方形	30	23	32	ローム粒子を含み、ローム小ブロック・ロームブロックを僅かに含む暗褐色土を基調	14FPを切る/遺物なし	中世以降
8 P	隅丸長方形	(37)	(27)	51	ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む暗褐色土を基調	963Dに切られ、106Pを切る/遺物なし	中世以降
9 P	隅丸長方形	39	36	47	ローム粒子を含み、ローム小ブロック・ロームブロックを僅かに含む暗褐色土を基調	963Dに切られる/遺物なし	中世以降
10 P	隅丸方形	32	29	30	3層	遺物なし	中世以降
11 P	隅丸長方形	27	20	22	ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロックを僅かに含む暗褐色土を基調。僅かに含む暗褐色土	966Dを切る/遺物なし	中世以降
12 P	隅丸長方形	32	25	19	ローム小ブロック・ロームブロックを僅かにローム粒子を含む黒褐色土を基調	969Dを切る/遺物なし	中世以降
13 P	隅丸長方形	86	65	51	8層	磁器1点(碗)	近世(18c)
14 P	隅丸方形	88	81	28.5	4層	971Dを切る/磁器1点(碗)	近世(18c)
15 P	隅丸方形	40	35	47	ローム粒子・ローム小ブロックを含む暗褐色土を基調	21・22Pを切る/遺物なし	中世以降
16 P	隅丸長方形	50	38	51	8層	963Dに切られる/磁器1点(碗)	近世(18c)
17 P	隅丸方形	40	40	34	ロームブロックを含み、ローム粒子・ローム小ブロックを僅かに含む暗褐色土を基調	289Hを切る/遺物なし	中世以降
18 P	隅丸方形	47	(37)	52	3層	19Pに切られ、289Hを切る/遺物なし	中世以降
19 P	隅丸方形	47	41	46	3層	289H・18P・96Pを切る/遺物なし	中世以降
20 P	隅丸長方形	45	36	66	ロームブロックをやや多く、ローム粒子・ローム小ブロックを含む暗褐色土を基調	963Dに切られ、28Pを切る/遺物なし	中世以降
21 P	隅丸方形	36	23	53	ロームブロック・ローム小ブロックを僅かにローム粒子含む暗褐色土を基調	971Dを切る/15Pに切られ、22Pを切る/鉄製品1点(不明品)	中世以降
22 P	隅丸方形	(32)	(28)	44	ローム粒子・ローム小ブロックを含む暗褐色土を基調	15P・21Pに切られる/陶器1点(碗)・鉄製品3点(釘)	中世(16c後半)
23 P	隅丸長方形	26	24	20	土層注記なし	10T・P2を切る/遺物なし	中世以降
24 P	隅丸方形	33	27	12	1層:ローム粒子・ローム小ブロックを僅かに含む暗褐色土/2層:ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む黄褐色土	25・106Pを切る/遺物なし	中世以降
25 P	隅丸長方形	21	21	26.5	1層:ローム粒子を含み、ローム小ブロックを僅かに含む暗褐色土/2層:ローム粒子を多く、ローム小ブロックを含み、ロームブロックを僅かに含む暗黄褐色土	24Pに切られる/遺物なし	中世以降
26 P	隅丸長方形	57	36	51	4層	963Dに切られ、289Hを切る/遺物なし	中世以降
27 P	隅丸長方形	44	(33)	59	5層	963Dに切られ、89H・970Dを切る/遺物なし	中世以降
28 P	隅丸長方形	36	(25)	54	ロームブロックをやや多く、ローム粒子・ローム小ブロックを含む暗褐色土を基調	963D・20Pに切られる/遺物なし	中世以降
29 P	隅丸長方形	26	20	16	ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロックを僅かに含む暗褐色土を基調	遺物なし	中世以降
30 P	隅丸方形	31	28	18	1層:ローム粒子・ローム小ブロック・炭土粒子・炭化物粒子を含む暗褐色土/2層:ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む暗黄褐色土	遺物なし	中世以降
31 P	隅丸長方形	28	23	52	3層	遺物なし	中世以降
32 P	隅丸方形	32	28	41	ローム粒子を含み、ローム小ブロック・ロームブロック炭化物粒子を僅かに含む暗褐色土	遺物なし	中世以降
34 P	隅丸方形	26	26	50	2層	遺物なし	中世以降
35 P	隅丸方形	23	23	16	ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む暗黄褐色土を基調	遺物なし	中世以降
36 P	隅丸長方形	42	35	56 65	4層	遺物なし	中世以降
37 P	隅丸長方形	32	31	28	2層	遺物なし	中世以降

第29表 中世以降のピット一覧(1)

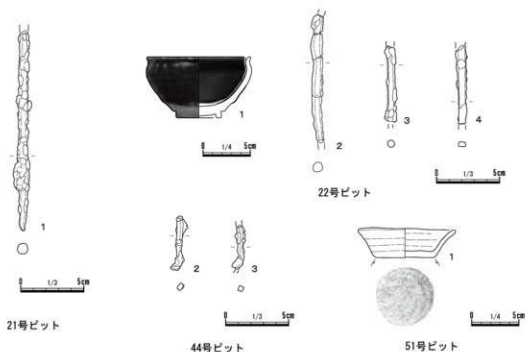
第4章 城山遺跡第79地点の調査

遺構名	平面形	規模(cm)			層数	覆土及び特徴	主な遺物及び備考	時期
		長軸	短軸	深さ				
38 P	隅丸長方形	(35)	34	31	1層	37Pに切られる/遺物なし	中世以降	
39 P	隅丸長方形	44	39	27	4層	遺物なし	中世以降	
40 P	隅丸長方形	47	39	43	4層	遺物なし	中世以降	
41 P	隅丸方形	24	23	23	3層	290Hを切る/遺物なし	中世以降	
42 P	隅丸方形	32	28	37	4層	289H・970D・88Pを切る/遺物なし	中世以降	
43 P	隅丸方形	28	28	28	3層	289H・970Dを切る/遺物なし	中世以降	
44 P	隅丸長方形	45	37	21	3層	970Dに切られ、289Hを切る/磁器1点(皿)・鉄製品2点(釘)	近世(18c)	
45 P	隅丸長方形	37	24	30	ロームブロックを多く、ローム粒子・ローム小ブロックを含む暗黄褐色土を基調	291H・292Hを切る/遺物なし	中世以降	
46 P	隅丸方形	29	24	25	ローム粒子・ローム小ブロックを含む暗赤褐色土を基調	963Dに切られ、290Hを切る/遺物なし	中世以降	
47 P	隅丸方形	35	31	58	3層	遺物なし	中世以降	
48 P	隅丸方形か	(63)	(34)	71	4層	290H・291H・49Pを切る/遺物なし	中世以降	
49 P	隅丸方形	27	24	46	3層	291Hを切り、48Pに切られる/遺物なし	中世以降	
50 P	隅丸方形	48	46	30	ローム粒子・ローム小ブロックを含む暗茶褐色土を基調	遺物なし	中世以降	
51 P	隅丸方形	28	29	35	4層	52Pに切られ、289Hを切る/土器1点(皿)	中世(16c後半)	
52 P	隅丸方形	24	22	14	ローム粒子・ローム小ブロックを含み、焼土粒子を僅かに含む暗褐色土を基調	289H・51Pを切る/遺物なし	中世以降	
53 P	隅丸方形か	30	(14)	23	1層:ローム粒子を多く、ローム小ブロック・焼土粒子・赤褐色土ブロックを含む暗褐色土/2層:ローム粒子を多く、ローム小ブロック・焼土粒子を僅かに含む暗黄褐色土/3層:ローム粒子・ローム小ブロック・赤褐色土ブロックを含み、炭化物粒子を僅かに含む暗褐色土/4層:ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含み、焼土粒子を僅かに含む暗黄褐色土	963Dに切られる/遺物なし	中世以降	
54 P	隅丸方形	41	41	69	5層	972Dに切られ、292Hを切る/遺物なし	中世以降	
55 P	隅丸長方形	41	33	29	3層	292H・56Pを切る/遺物なし	中世以降	
56 P	隅丸長方形	36	26	47	3層	55Pに切られる/遺物なし	中世以降	
57 P	隅丸長方形	32	26	17	3層	292Hを切る/遺物なし	中世以降	
58 P	隅丸長方形	36	27	48	ローム粒子・ロームブロックを含み、ローム小ブロックを僅かに含む暗褐色土を基調	289H・59Pを切る/遺物なし	中世以降	
59 P	隅丸長方形	38	27	43	ローム小ブロックを多く、ローム粒子を含み、ロームブロックを僅かに含む暗褐色土を基調	58Pに切られ、289Hを切る/遺物なし	中世以降	
60 P	隅丸方形	31	28	35	3層	遺物なし	中世以降	
61 P	隅丸方形か	36	(22)	18	2層	98Pに切られ、290Hを切る/遺物なし	中世以降	
62 P	隅丸方形	34	30	32	3層	10T-P7・63Pを切る/遺物なし	中世以降	
63 P	隅丸長方形	50	34	17	礫を僅かにローム粒子・ローム小ブロックを含む黒褐色土を基調	62Pに切られ、10T-P7を切る/遺物なし	中世以降	
64 P	隅丸方形	23	20	19	3層	289Hを切る/遺物なし	中世以降	
65 P	隅丸方形	30	27	67	ローム粒子・ローム小ブロック・礫を含み、炭化物粒子を僅かに含む暗褐色土を基調	289Hを切る/遺物なし	中世以降	
66 P	隅丸方形	51	38	45	5層	289Hを切る/陶器1点(鉢)	中世(15c後半)	
67 P	隅丸長方形	28	19	27	3層	289Hを切る/遺物なし	中世以降	
68 P	隅丸方形か	26	(11)	23	1層:ローム小ブロックをやや多く、ローム粒子を含み、炭化物粒子・焼土粒子を僅かに含む暗褐色土/2層:ローム粒子を多く、ローム小ブロックを含む暗褐色土/3層:ローム粒子・ローム小ブロックを含む黄褐色土	963Dに切られ、289Hを切る/遺物なし	中世以降	
69 P	隅丸方形か	(22)	(18)	11	1層:ローム粒子を含み、ローム小ブロック・焼土粒子を僅かに含む暗褐色土/2層:ローム粒子・ローム小ブロックを含み、炭化物粒子を僅かに含む暗褐色土	290H・291Hを切る/遺物なし	中世以降	
70 P	隅丸方形	40	27	49	1層:ローム小ブロック・焼土粒子を僅かに、ローム粒子を含む暗褐色土/2層:ローム小ブロックを僅かに、ローム粒子・ロームブロックを含む黄褐色土	81Pを切る/遺物なし	中世以降	
71 P	隅丸方形か	(45)	(20)	49	7層	290Hを切る/遺物なし	中世以降	
72 P	隅丸方形か	37	(24)	46	4層	291H・292Hを切る/遺物なし	中世以降	
73 P	隅丸方形	29	28	26	3層	291H・292Hを切る/土器1点(磁器)	中世(16c後半)	
74 P	隅丸方形	30	28	29	6層	289Hを切る/遺物なし	中世以降	

第29表 中世以降のピット一覧(2)

遺構名	平面形	規模(cm)			覆土及び特徴	主な遺物及び備考	時期
		長軸	短軸	深さ			
75 P	隅丸長方形	22	20	15	1層:ローム粒子・焼土粒子を含み、ローム小ブロック・ロームブロック・炭化物粒子・焼土小ブロックを僅かに含む暗褐色土 / 2層:ローム粒子・ローム小ブロックを含み、焼土粒子を僅かに含む灰褐色土	289Hを切る / 遺物なし	中世以降
76 P	隅丸方形	23	21	27	2層	289Hを切る / 遺物なし	中世以降
77 P	隅丸方形	20	20	17.5	ローム粒子・ローム小ブロックを多く焼土粒子を僅かに含む暗黄褐色土を基調	289Hを切る / 遺物なし	中世以降
78 P	隅丸長方形	33	28	40	3層	48Wに切られ、289Hを切る / 遺物なし	中世以降
79 P	隅丸長方形	32	26	22.5	4層	10T・P6・289Hを切る / 遺物なし	中世以降
80 P	隅丸方形	20	18	21	ローム粒子・炭化物粒子・焼土粒子を含み、ローム小ブロック・ロームブロックを僅かに含む暗褐色土を基調	289Hを切る / 970Dとの新旧不明 / 遺物なし	中世以降
81 P	隅丸方形	52	(50)	52	1層:ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む暗褐色土 / 2層:ローム粒子・ローム小ブロックを多く、ローム小ブロックを含む暗黄褐色土 / 3層:ローム小ブロック・ロームブロックを僅かに含む暗黄褐色土 / 4層:ローム粒子・ローム小ブロック・ロームブロックを含む黄褐色土	70Pに切られる / 遺物なし	中世以降
82 P	隅丸長方形	29	22	14	焼土粒子・焼土小ブロック・粘土粒子を含み、ローム粒子・粘土粒子を僅かに含む暗褐色土を基調	970Dに切られる / 遺物なし	中世以降
83 P	隅丸方形	(38)	(9)	50	6層	289Hを切る / 遺物なし	中世以降
84 P	隅丸方形	19	14	32	土層注記なし	289H・10T・P6を切る / 遺物なし	中世以降
85 P	隅丸方形	24	24	15	ローム粒子を多く、ローム小ブロックを含み、ロームブロック・炭化物粒子を僅かに含む暗褐色土を基調	290Hを切る / 遺物なし	中世以降
86 P	隅丸方形	24	22	21	ローム粒子・ローム小ブロック・炭化物粒子を含み、焼土粒子を僅かに含む黒褐色土を基調	963Dに切られる / 遺物なし	中世以降
87 P	隅丸方形	22	20	23	ローム粒子・ローム小ブロックを含む暗褐色土を基調	289Hを切る / 遺物なし	中世以降
89 P	隅丸方形	26	25	47	5層	289Hを切る / 遺物なし	中世以降
90 P	隅丸方形	33	33	68	3層	遺物なし	中世以降
91 P	隅丸方形	21	20	46	6層	970Dに切られ、289Hを切る / 遺物なし	中世以降
92 P	隅丸長方形	31	24	51	6層	289H・10T・P6を切る / 遺物なし	中世以降
93 P	隅丸方形	23	21	7	ローム粒子・ロームブロック・焼土粒子・焼土小ブロック・粘土粒子を含む暗茶褐色土を基調	289Hを切る / 遺物なし	中世以降
94 P	隅丸方形	(28)	27	65	4層	遺物なし	中世以降
95 P	隅丸長方形	27	20	30	ローム粒子・ロームブロックを多く、ローム小ブロックを含む暗黄褐色土を基調	3Pに切られる / 遺物なし	中世以降
96 P	隅丸方形	(29)	(27)	32	ローム粒子を含み、ローム小ブロック・焼土粒子を僅かに含む暗褐色土を基調	19・66Pに切られ、289Hを切る / 遺物なし	中世以降
97 P	隅丸方形	(20)	(16)	7	ロームブロックを多く、ローム粒子・ローム小ブロックを含む暗黄褐色土を基調	66P・89Pに切られ、289Hを切る / 遺物なし	中世以降
98 P	隅丸方形	(54)	(16)	20	3層	290Hを切る / 遺物なし	中世以降
99 P	隅丸方形	37	30	18	ローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子・粘土粒子・粘土小ブロックを僅かに含む暗茶褐色土を基調	963Dに切られ、290Hを切る / 遺物なし	中世以降
100 P	隅丸方形	25	26	30	2層	遺物なし	中世以降
101 P	隅丸方形	28	26	36	4層	遺物なし	中世以降
102 P	隅丸方形	31	26	46	4層	遺物なし	中世以降
103 P	隅丸方形	(19)	17	34	ローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子・焼土小ブロックを含み、粘土・粘土粒子を僅かに含む黒褐色土を基調	80Pに切られ、289Hを切る / 970Dとの新旧不明 / 遺物なし	中世以降
104 P	隅丸長方形	39	31	20	粘土粒子を多く、焼土粒子・焼土小ブロックを含み、ローム粒子を僅かに含む黒褐色土を基調	290Hを切る / 118Pを切る / 遺物なし	中世以降
107 P	隅丸方形	19	17	30	ローム粒子・ローム小ブロック・炭化物粒子・焼土粒子・粘土粒子・粘土小ブロックを含む暗茶褐色土を基調	289Hを切る / 970Dとの新旧不明 / 遺物なし	中世以降
109 P	隅丸方形	35	34	27	礫をやや多く、ローム粒子・ローム小ブロックを含む暗茶褐色土を基調	遺物なし	中世以降
111 P	隅丸方形	20	19	5	ローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子を僅かに含む暗褐色土を基調	遺物なし	中世以降
112 P	隅丸方形	25	20	16	ロームブロックを多く、ローム粒子を僅かに含む暗褐色土を基調	遺物なし	中世以降
114 P	隅丸方形	27	24	15	1層:ローム粒子・ローム小ブロックを含む暗褐色土 / 2層:ローム粒子を多く、ローム小ブロック・ロームブロックを含む	10T・P1、113Pを切る / 遺物なし	中世以降
115 P	隅丸方形	26	25	16	ローム粒子・ローム小ブロックを含み、ロームブロックを僅かに含む暗褐色土を基調。僅かに含む暗茶褐色土を基調	遺物なし	中世以降
118 P	隅丸方形	28	24	23	土層注記なし	290Hを切る / 104Pに切られる / 遺物なし	中世以降

第29表 中世以降のピット一覧(3)



第60図 ピット出土遺物 (1/4・1/3)

図版番号	遺構名	種別	器種	法量 (cm)	製作の特徴等	推定産地	時期
図版23-3-1	957D	陶器	皿	高 [2.2]	内外面に鉄軸/胎土:色調は黄白色を基調、精練されている/口縁部~体部小破片	瀬戸・美濃系	中世 (15c前半)
図版23-3-1	959D	磁器	碗	厚 0.3	白磁/口縁部は外反する/色調は黄白色/口縁部~体部小破片	肥前系	近世 (17c前半)
図版23-3-2	959D	陶器	皿	厚 0.6	内外面に鉄軸/胎土:色調は黄白色、精練されている/口縁部~底部小破片	瀬戸・美濃系	近世 (17c中)
図版23-3-3	959D	陶器	鉢鉢	厚 1.8	内外面に鉄軸/胎土10本一単位/胎土:色調は黄白色、砂粒を僅かに含む/胴部下半破片	瀬戸・美濃系	近世 (19c)
図版23-3-4	959D	陶器	甕	厚 1.5	外面に鉄軸/胎土:色調は黒褐色、白色砂粒を多く含む/胴部小破片	常滑	不明
図版23-3-5	959D	土器	皿	厚 0.3	色調は淡褐色/胎土に砂粒を僅かに含む/口縁部~体部小破片	在地系	近世 (18c)
図版23-3-1	961D	磁器	皿	高 [2.3]	白磁/高台あり/体部下半~底部小破片	中国製	中世 (15c後半)
図版23-3-1	962D	陶器	甕	厚 0.9	外面に鉄軸/外面に沈線か/胎土:色調は灰色、白色砂粒を含む/胴部小破片	常滑	中世 (16c後半)
図版23-3-1	963D	陶器	徳利	厚 0.6	外面に鉄軸/胎土:色調は黄白色、白色砂粒を僅かに含む/胴部小破片	瀬戸・美濃系	近世 (19c)
図版23-3-1	966D	土器	皿	高 [3.1]	口縁部は僅かに外反/色調は淡茶褐色/胎土に茶褐色粒子・石英・砂粒を含む/口縁部~体部破片	在地系	中世 (16c後半)
図版23-3-1	967D	陶器	碗	厚 0.6	天目茶碗/内外面に鉄軸/胎土:色調は黄白色、黒色粒子・白色砂粒を含む/体部破片	瀬戸・美濃系	中世 (16c後半)
図版23-3-1	968D	陶器	皿	高 1.5	口縁部は外反/平底/外面底部を除き鉄軸/胎土:色調は灰白色、黒色粒子・白色砂粒を僅かに含む/遺存度10%	瀬戸・美濃系	中世 (15c後半)
図版23-3-2	968D	土器	皿	高 [3.0]	口縁部は僅かに外傾/口縁部は肥厚する/色調は暗黄褐色/胎土に茶褐色粒子・砂粒を含む/口縁部~体部破片	在地系	中世 (15c後半)

第30表 中世以降の遺構出土陶磁器・土器一覧(1)

図版番号	遺構名	種別	器種	法量 (cm)	製作の特徴等	推定産地	時期
図版 23-3-1	969D	土器	皿	高 11.3] 底 6.0]	平底/底部に回転糸切痕/色調は淡茶褐色/胎土に白色針状物質を僅かに砂粒を含む/体部下半~底部破片	在地系	中世 (15c後半)
第53図1 図版 24-1	970D	磁器	碗	高 5.2 口 6.6] 底 4.2]	染付/高台あり/外面:菊花文、見込みに渦線/胎土は精練されている/被熱/遺存度は30%	肥前系	近世 (18c後半)
図版 24-2	970D	陶器	碗	厚 0.2	口縁部は内湾気味/口縁部小破片	瀬戸・美濃系	近世 (18c)
第53図3 図版 24-3	970D	陶器	碗	高 5.8 口 6.8] 底 3.2]	丸碗/色絵/高台あり/外面底部を除き灰軸/外面:草文、内面:花卉文が星形文?/胎土:色調は淡黄色、精練されている/被熱/遺存度は70%	京焼系	近世 (18c後半)
図版 24-4	970D	陶器	香炉	厚 0.5	口唇部は肥厚し平坦/器形は直立/内外面に灰軸/胎土:色調は黄白色、精練されている/口縁部小破片	瀬戸・美濃系	近世 (18c)
図版 24-5	970D	陶器	徳利	厚 0.5	長胴/外面に鉄軸/胎土:色調は明褐色、精練されている/体部破片	瀬戸・美濃系	近世 (18c)
第53図6 図版 24-6	970D	土器	皿	高 1.2 口 7.4] 底 3.2]	打明具/口縁部は僅かに内湾/口唇部は平坦/平底/内面は黒く覆っている/色調は暗茶褐色/胎土に金雲母・砂粒を含む/遺存度は40%	在地系	中世 (16c後半)
第53図7 図版 24-7	970D	土器	皿	高 1.8 口 10.6] 底 5.2]	口縁部は僅かに内湾/平底/底部外面が黒く覆っている/色調は暗黄褐色/胎土に金雲母・角閃石・砂粒を含む/遺存度は40%	在地系	近世 (18c前半)
図版 24-8	970D	土器	皿	厚 0.3	墨書土器/墨書は文字と思われるが不明(梵字か)/口縁部は僅かに内湾/口唇部は平坦/色調は暗茶褐色/胎土に角閃石・砂粒を含む/口縁部~底部小破片	在地系	近世 (18c)
図版 25-2-1	48W	土器	皿	高 11.2]	平底/底部に回転へら削り痕/色調は暗褐色/胎土に砂粒を僅かに含む/体部下半~底部小破片	在地系	中世 (16c後半)
図版 25-2-1	49W	陶器	鉢	高 12.8]	体部で前曲し、口縁部は内湾気味に大きく開く/外面及び口縁部に灰軸/胎土:色調は灰白色、砂粒を僅かに含む/口縁部~体部下半破片	瀬戸・美濃系	中世 (15c)
図版 25-2-2	49W	土器	皿	高 12.1]	口縁部は内湾気味に開く/胎土:淡褐色、茶褐色粒子・砂粒を含む/口縁部~体部小破片	在地系	中世 (15c後半)
図版 25-2-3	49W	土器	皿	高 12.5]	口縁部は内湾気味に開く/胎土:淡褐色、茶褐色粒子・砂粒を含む/口縁部~体部小破片	在地系	中世 (15c後半)
図版 25-2-4	49W	土器	焙烙	高 14.0]	体部から口縁部にかけて外縁する/口唇部は平坦/胎土:色調は淡茶褐色、茶褐色粒子・砂粒を含む/内外面は黒く覆っている/口縁部~体部破片	在地系	近世 (18c)
図版 25-3-1	13P	磁器	碗	厚 0.4	染付/外面に草文文/体部小破片	肥前系	近世 (18c)
図版 25-3-1	14P	磁器	碗	厚 0.3	染付/外面に風景文か/口縁部~体部小破片	肥前系	近世 (18c)
図版 25-3-1	16P	磁器	碗	厚 0.3	染付/外面に草文文/口縁部小破片	肥前系	近世 (18c)
第60図1 図版 25-3-1	22P	陶器	碗	高 6.5 口 11.0] 底 4.8]	天目茶碗/口縁部は短く外反/高台あり/外面底部を除き灰軸/胎土:色調は黄白色、白色砂粒・砂粒を含む/遺存度は60%/甕土中からの出土(底面上34cm)/口唇部外面に使用痕か、打ち付けた痕跡があり	瀬戸・美濃系	中世 (16c後半)
図版 25-3-1	44P	磁器	皿	厚 0.5	染付/内面に草文文か/体部下半小破片	肥前系	近世 (18c)
第60図1 図版 25-3-1	51P	土器	皿	高 3.1 口 10.8] 底 6.3]	釜みが大い/底部から全体に外反する器形/平底/底部に回転糸切り痕あり/外面は僅かに覆っている/色調は暗黄褐色/胎土に茶褐色粒子・角閃石・砂粒・小石を含む/完形品/甕土中からの出土(底面上29cm)	在地系	中世 (16c後半)
図版 25-3-1	66P	陶器	鉢	高 3.0]	口縁部は外反/内面及び外面口縁部の一部に鉄軸/胎土:色調は黄白色、精練されている/口縁部~体部小破片	瀬戸・美濃系	中世 (15c後半)
図版 25-3-1	73P	土器	焙烙	厚 1.1	外面は黒く覆っている/色調は灰色を基調/胎土に砂粒を僅かに含む/外面:口縁部付近は硝子、体部は指押部による成形/内面:硝子、体部小破片	在地系	中世 (16c後半)

第30表 中世以降の遺構出土陶磁器・土器一覧(2)

第4章 城山遺跡第79地点の調査

発掘番号 図版番号	出土遺構	種別	種類	長さ	幅	厚さ	重さ	特徴	時期
第52図2 図版23-3-2	963 D	石製品	砥石	5.4	2.4	1.5	26.2	下端部を欠損/使用面は表裏面、両側面の4面/凝灰岩製	中世以降
第53図9 図版24-9	970 D	鉄製品	釘	3.0	0.6	0.5	2.0	頭部は平坦/断面は方形/先端部を欠損	中世以降
第53図10 図版24-10	970 D	鉄製品	釘	2.9	0.9	0.6	3.0	頭部は方形で、1か所外側に折れる/断面は長方形/先端部は欠損の痕跡が不明	中世以降
第53図11 図版24-11	970 D	鉄製品	釘	4.3	1.0	0.6	2.7	頭部は平坦で2方に折れる/断面は方形/先端部を欠損	中世以降
第53図12 図版24-12	970 D	鉄製品	釘	3.1	1.2	0.5	1.6	頭部は平坦、で2方に折れる/断面は方形/先端部を欠損	中世以降
第53図13 図版24-13	970 D	鉄製品	釘	3.0	0.9	0.5	1.2	頭部は平坦/断面は方形/先端部を欠損	中世以降
第53図14 図版24-14	970 D	鉄製品	釘	4.9	1.0	0.7	6.2	断面は方形/両端部を欠損	中世以降
第53図15 図版24-15	970 D	鉄製品	釘	6.9	0.9	0.7	7.4	断面は方形/両端部を欠損	中世以降
第53図16 図版24-16	970 D	鉄製品	釘	7.8	1.1	1.0	8.8	断面は方形を基本/頭部を欠損	中世以降
第53図17 図版24-17	970 D	鉄製品	釘	2.7	1.4	1.0	3.5	頭部は丸く傘状/断面は長方形/下端部を欠損	中世以降
第53図18 図版24-18	970 D	鉄製品	不明品	2.8	0.8	0.3	1.2	断面は長方形で平べったい/両端部を欠損	中世以降
第53図19 図版24-19	970 D	鉄製品	不明品	2.7	2.4	0.8	4.1	遺存状態が悪く詳細不明/板状になるものか?	中世以降
第53図20 図版24-20	970 D	鉄製品	不明品	38.2	0.9	0.4	56.3	細長い製品で不明品である/断面は長方形で平べったい/先端部は一部欠損	中世以降
第53図21 図版24-21	970 D	石製品	砥石	8.6	3.2	5.2	132.6	完形/大きな割離によって整形/使用面は正面、右側面の2面/凝灰岩製	中世以降
第53図22 図版24-22	970 D	石製品	砥石	14.4	3.1	2.9	209.0	完形/使用面は表裏面、両側面、下面の5面/両側面、裏面、上面には成形時の加工痕が僅かに残る/凝灰岩製	中世以降
第53図23 図版24-23	970 D	石製品	線刻石	6.6	4.2	1.8	91.8	完形/表裏面に線刻あり/線刻は詳細不明であるが、裏面に力士の絵柄も見られる/砂岩製	中世以降
第53図24 図版24-24	970 D	石製品	板碑	10.3	6.8	1.6	150.0	表面には紀年銘の一部が確認できる。紀年銘は「广永 □ 月」とある/緑色片岩製	中世(14c末~15前)
第53図25 図版24-25	970 D	石器	磨製石斧	13.0	6.6	3.6	470.0	上部欠損/刃部は給刃状で、刃縁は眉刃/全面に磨製/上部欠損後、縁辺部を敲打/磨製石斧から敲石に転用/緑色岩製か	縄文
第53図26 図版24-26	970 D	石器	敲石	13.1	7.5	4.7	685.5	完形/未端部に割離面、敲打痕あり/ホルンフェルス製	縄文
第53図27 図版25-1-27	970 D	石器	敲石	6.0	5.1	4.3	194.0	完形/表裏面の中央に敲打痕/花崗岩製	縄文
第53図28 図版25-1-28	970 D	石器	石皿	17.1	14.0	9.3	1709.6	縁辺の一部/使用面は傾斜し、中央付近で段差あり/正面縁辺部は平坦に面取り/側面、裏面を敲打によって整形/砂岩製	縄文
第60図1 図版25-3-1	21P	鉄製品	不明品	15.8	1.3	0.8	26.5	基部と腰を確認できることから釘ではないと思われる/断面は方形を基本/先端部(上端)を欠損	中世以降
第60図2 図版25-3-2	22P	鉄製品	釘	10.2	0.9	0.7	9.3	断面は方形/両端部を欠損	中世以降
第60図3 図版25-3-3	22P	鉄製品	釘	6.1	0.9	0.5	4.0	断面は方形/両端部を欠損	中世以降
第60図4 図版25-3-4	22P	鉄製品	釘	6.3	0.8	0.3	3.9	断面は長方形/両端部を欠損	中世以降
第60図2 図版25-3-2	44P	鉄製品	釘	4.4	0.5	0.3	2.3	断面は長方形	中世以降
第60図3 図版25-3-3	44P	鉄製品	釘	3.6	0.4	0.4	2.0	断面は方形/頭部を欠損	中世以降

(単位: cm, g)

第31表 中世以降の遺構出土鉄製品・石製品・石器一覧

第5節 遺構外出土遺物

ここでは、表土や攪乱から出土した遺物、そして遺構内であるが、明らかに他時代の混入品である遺物を前節までの各時代の出土遺物と区別し、遺構外出土遺物として扱う。

今回、遺構外出土遺物としては、縄文時代の遺物、平安時代の遺物、中世以降の遺物に分類する。

(1) 縄文時代の遺物 (第61～63図1～91、図版26・27-1～91、第32・33表)

[石器] (第61図1～3、図版26-1～3、第32表)

1は石鏃の未製品と思われる。2は打製石斧、3は磨石である。

[土器] (第61～63図4～90、図版26・27-4～90、第33表)

本調査地点からは、早期・前期・中期・後期・晩期の土器が出土しているが、そのうち、後期のものが最も多く出土している。

4は早期後葉の条痕文系土器である。

5～23は前期の土器で、5～12は前期前葉の黒浜式土器、13～20は前期後葉の諸磯式土器、21・22は前期後葉の浮島式と思われる。

24～36は中期の土器で、24は中期初頭の五領ヶ台式土器、25・26は中期中葉の阿玉台式土器、27～36は中期後葉の加曾利E式土器である。

37～90は後期の土器で、そのうち、37～61は後期前葉の堀之内式土器、62～78は後期中葉の加曾利B式土器。79～87は粗製土器、88・89は安行式である。

[土製品] (第63図91、図版27-91)

91は土器片鏃である。長さ4.1cm・幅3.6cm・厚さ0.8cm・重量17.2g。基部は2か所で、周縁部は丸く成形されている。文様は粗い撫系文Rが施文されている。縄文時代後期の粗製土器である。111P出土である。

(2) 平安時代の遺物 (第63図92～100、図版27-92～100、第33表)

[土器] (第63図92～99、図版27-92～99、第33表)

92～99はすべて須恵器で、92～97は坏形土器、98・99は甕形土器である。

[瓦] (第63図100、図版27-100)

100は布目瓦の小破片である。長さ5.1cm・幅3.7cm・厚さ1.8cm・重さ49.6g。色調は暗橙色を呈し、胎土に砂粒を含む。92P出土である。

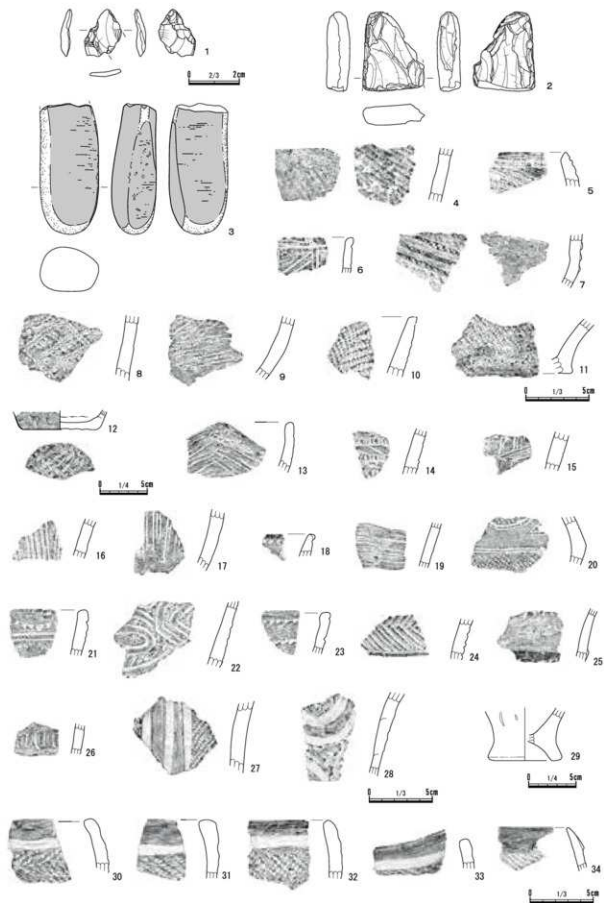
(3) 中世以降の遺物 (第63図103・107、図版27-101～107、第34表)

[陶磁器・土器] (第63図103、図版27-101～106、第34表)

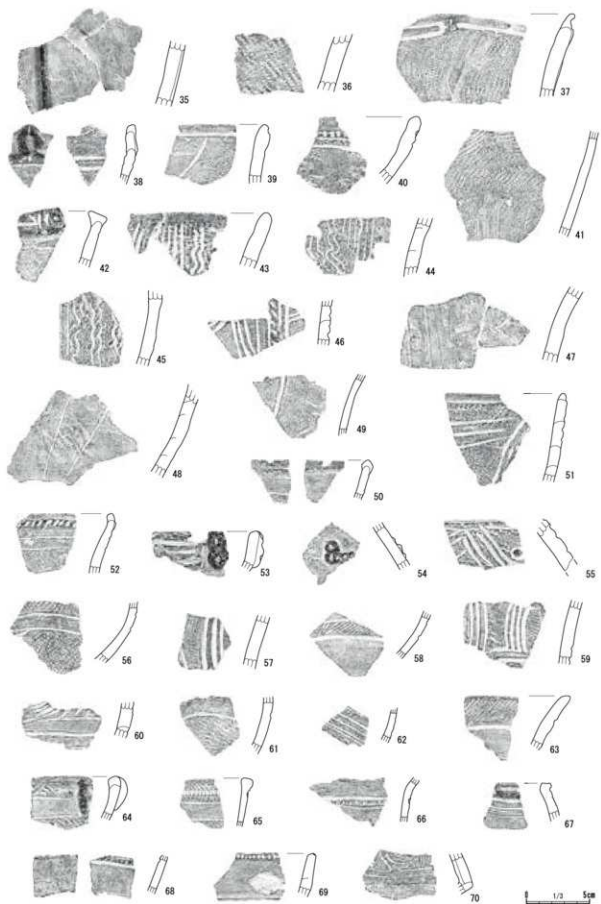
101は磁器で碗、102～105は陶器で102・103は志野皿、104・105は播鉢、106は土器で焙烙である。

[銭貨] (第63図107、図版27-107)

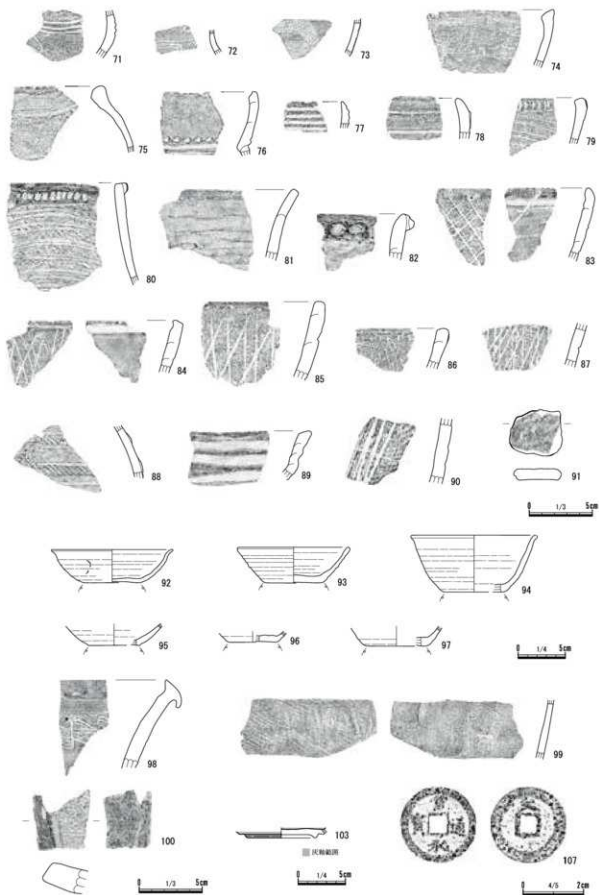
107は寛永通寶で、新寛永(文銭)である。外径2.5cm・方孔一辺0.6cm・厚さ0.1cm・重さ2.7g。完形品。290H内攪乱からの出土である。



第61図 遺構外出土遺物1 (2/3・1/3・1/4)



第62図 遺構外出土遺物2 (1/3)



第63図 遺構外出土遺物3 (1/4・1/3・4/5)

発掘番号 図版番号	器種	石材	長さ	幅	厚さ	重量	特徴	出土位置
第61図1 図版26-1	石 錐	黒曜石	1.8	1.4	0.4	0.8	右側縁下部を欠損／裏面に押圧刻線による連続した刻線／正面の両縁に細かな刻線／石髄未製品か	290H内 覆 瓦
第61図2 図版26-2	打製石斧	ホルンフェルス	6.3	4.9	1.8	79.3	右側縁上部、胴部下半を欠損／短冊形	10T-P1
第61図3 図版26-3	磨 石	砂 岩	10.3	4.6	3.5	320.8	上部を欠損／表裏面、右側面に研磨面／末端部に僅かに敲打痕	289H

(単位: cm, g)

第32表 遺構外出土石器一覧

発掘番号 図版番号	器種 種別	部位 依存状態	法量 (cm)	器形・形態	文様・特徴	胎土	時 期 型式等	出土遺構 出土位置
第61図4 図版26-4	深鉢	胴 破片	厚 1.1	やや外傾する	表裏に条痕文	にぶい褐／砂粒 ・繊維少量	縄文前期後葉 条痕文系	291H
第61図5 図版26-5	深鉢	口縁部 破片	厚 0.7	僅かに内湾して内傾	口縁部上端に竹管状工具の押し 引きによる並行筋状沈線／地文 は単節 L R 縦位施文	橙／砂粒・礫・ 繊維微量	縄文前期前葉 黒灰式	291H
第61図6 図版26-6	深鉢	口縁部 破片	厚 0.6	ほぼ直立	地文不明瞭。無節 R 縦位施文か ／半載竹管状工具の腹面引きに よる変形状文か	黒褐／砂粒中量 ・繊維微量	縄文前期前葉 黒灰式	289H
第61図7 図版26-7	深鉢	胴 破片	厚 0.8	やや内湾	地文は単節 R L 横位施文／細い 隆帯が4本横走／隆帯上には単節 R L 横位施文	橙／砂粒・繊維 微量	縄文前期前葉 黒灰式	遺構外
第61図8 図版26-8	深鉢	口縁部 破片	厚 1.1	やや外傾する	地文は附加条で、R (R (L 2) - L (L 2) + L (L 2) を縦位施文	黄橙／砂粒微量 ・繊維中量	縄文前期前葉 黒灰式	290H
第61図9 図版26-9	深鉢	胴部 破片	厚 0.9	内湾して外傾	地文は無節 R 縦位施文	にぶい黄褐／砂粒 ・繊維微量	縄文前期前葉 黒灰式	115 P
第61図10 図版26-10	深鉢	口縁部 破片	厚 1.2	外傾する／口縁部上 端で薄くなる	地文は結束された単節 R L と単 節 L R による羽状縄文が斜位施 文	にぶい黄褐／砂粒 ・繊維中量	縄文前期前葉 黒灰式	969 D
第61図11 図版26-11	深鉢	底部 破片	厚 1.1	底部は平形か／外反 して広がりながら立 上がる胴部	地文は単節 L R 縦位施文／内面 は横位の調整痕	橙／砂粒中量、 礫微量・繊維微 量	縄文前期前葉 黒灰式	遺構外
第61図12 図版26-12	深鉢	口縁部 破片	厚 1.0	底部は平坦／やや内 湾しながら立上がる 胴部	底面に網代痕	浅黄橙／砂粒多 量、礫・角閃石 中量、繊維微量	縄文前期前葉 黒灰式	290H
第61図13 図版26-13	深鉢	口縁部 破片	厚 0.9	波状口縁／やや内湾	半載竹管状工具による波状文	橙／砂粒微量、 繊維中量	縄文前期後葉 諸磯 a 式	48W
第61図14 図版26-14	深鉢	胴部 破片	厚 0.9	外傾する	爪形文が横走／爪形文間に単沈 線が斜位に充填施文	橙／砂粒中量、 礫微量	縄文前期後葉 諸磯 b 式	289H
第61図15 図版26-15	深鉢	胴部 破片	厚 1.1	やや外傾	半載竹管状工具による格子状文	橙／砂粒中量、 礫微量	縄文前期後葉 諸磯 a ~ b 式	963 D
第61図16 図版26-16	深鉢	胴部 破片	厚 0.8	僅かに外傾	一端を重ねた半載竹管状工具の 腹面引きによる集合沈線	にぶい褐／砂粒 多量、礫中量	縄文前期後葉 諸磯 c 式	289H
第61図17 図版26-17	深鉢	胴部 破片	厚 1.0	内湾して外傾	半載竹管状工具の腹面引きによ る沈線垂下	橙／砂粒・礫少 量	縄文前期後葉 諸磯 c 式か	9 P
第61図18 図版26-18	深鉢	口縁部 破片	厚 0.8	口縁部上端で肥厚	口縁部上端に刺突文が横走	浅黄橙／砂粒微 量、白色針状物 質少量	縄文前期後葉 諸磯式	970 D

第33表 遺構外出土土器一覧(1)

第4章 城山遺跡第79地点の調査

発掘番号 図版番号	器種 種別	部位 依存状態	法量 (cm)	器形・形態	文様・特徴	胎土	時期 型式等	出土遺構 出土位置
第61図19 図版26-19	深鉢	胴部 破片	厚0.6	僅かに外反	幅広い条線が横走	赤褐/砂粒・角閃石少量、礫微量	縄文前期後葉 諸磯式か	289H
第61図20 図版26-20	深鉢	胴部 破片	厚1.0	屈曲する胴部	並行沈線による区画文/地文はR L横位施文	にぶい黄褐/砂粒多量、礫微量	縄文前期後葉 諸磯式か	290H
第61図21 図版26-21	深鉢	口縁部 破片	厚1.0	僅かに内湾して外傾	口縁部上端には竹管状工具による刺突文/刺突文直下には単節縦2本が横走	にぶい褐/砂粒・角閃石・石英微量	縄文前期後葉 浮島式	遺構外
第61図22 図版26-22	深鉢	口縁部 破片	厚0.9	外傾する	幅広い半截竹管による木葉文か	にぶい黄褐/砂粒中量、礫少量	縄文前期後葉 浮島式	10T-P3
第61図23 図版26-23	深鉢	口縁部 破片	厚0.7	僅かに内湾/口縁部上端で僅かに肥厚	口縁部上端と中位に沈線と押捺文が横走する	にぶい褐/砂粒少量、礫微量	縄文前期か	289H
第61図24 図版26-24	深鉢	胴部 破片	厚0.9	外傾する	半截竹管による横位区画/区画内に矢羽状の集合沈線文	暗褐/砂粒多量、礫・雲母微量	縄文中期初頭 五箇ヶ台式	968D
第61図25 図版26-25	深鉢	胴部 破片	厚0.7	外反して外傾	断面三角形の隆帯が横走	にぶい黄褐/砂粒・礫・雲母多量	縄文中期中葉 阿玉台式	遺構外
第61図26 図版26-26	深鉢	胴部 破片	厚0.8	僅かに外傾	キザミ状の縦位単沈線文が横位に並ぶ	にぶい黄褐/砂粒・礫中量、礫少量	縄文中期中葉 阿玉台式	290H
第61図27 図版26-27	深鉢	胴部 破片	厚1.1	外反して外傾	地文は単節R L縦位施文/太い沈線が3本垂下/沈線間は磨削し	にぶい褐/砂粒・礫多量	縄文中期後葉 加曾利E 3式	48W
第61図28 図版26-28	深鉢	胴部 破片	厚0.9	外反する	幅広い浅い沈線2本によるU字状文/下位は逆U字状文/地文は単節R L縦位施文か	黒褐/砂粒・礫中量、チャート少量	縄文中期後葉 加曾利E 3式	968D
第61図29 図版26-29	深鉢	底部 破片	厚1.2	上げ底ないし器台状を呈する底部/外反しながら立ち上がる胴部	単沈線2本の垂下が僅かに確認できる/外部は縦方向のミガキ調整が顕著/	橙/砂粒・礫多量	縄文中期後葉 加曾利E 3式か	968D
第61図30 図版26-30	深鉢	口縁部 破片	厚1.0	内湾して内傾/口縁部上端で肥厚	口縁部上端に太く浅い沈線が横走/地文は無節Lを、上部は横位に、下部は縦位に施文し、羽状縄文を形成	浅黄褐/砂粒・礫少量	縄文中期後葉 加曾利E 3~4式	49W
第61図31 図版26-31	深鉢	胴	厚1.0	僅かに内湾して内傾/口縁部上端で肥厚	口縁部上端に太く浅い沈線が横走/地文は直前段多条の単節L縦位施文	黒褐/砂粒・礫少量	縄文中期後葉 加曾利E 3~4式	確認調査 (3Tr)
第61図32 図版26-32	深鉢	胴部 破片	厚1.0	僅かに内湾して内傾	口縁部上端に太く浅い沈線が横走/地文は単節R L横位施文	にぶい黄褐/砂粒・礫中量、角閃石微量	縄文中期後葉 加曾利E 3~4式	遺構外
第61図33 図版26-33	深鉢	口縁部 破片	厚0.9	僅かに内湾して内傾/小波状口縁ないし小突起となるか	口縁部上端に太く浅い沈線が横走/地文は単節R L横位施文	灰黄褐/砂粒・礫少量、角閃石微量	縄文中期後葉 加曾利E 3~4式	289H
第61図34 図版26-34	深鉢	口縁部 破片	厚0.7	やや内湾して内傾/口縁部上端で薄くなる	口縁部には微隆起が横走/口縁部上端は無文/地文は単節L R縦位施文	にぶい黄褐/砂粒・礫微量	縄文中期後葉 加曾利E 4式	290H
第62図35 図版26-35	深鉢	胴部 破片	厚1.0	外傾する	微隆起が垂下/地文は単節L R縦位施文/幅広い無文帯	橙/砂粒・礫多量、角閃石微量	縄文中期後葉 加曾利E 4式	遺構外
第62図36 図版26-36	深鉢	胴部 破片	厚1.2	直線的に外傾	地文は単節L R縦位施文	黒褐/砂粒多量、礫少量、雲母微量	縄文中期後葉 加曾利E 5式	289H

第33表 遺構外出土土器一覧(2)

標記番号 図版番号	器種 種別	部位 依存状態	法量 (cm)	器形・形態	文様・特徴	胎土	時期 型式等	出土遺構 出土位置
第62図37 図版26-37	深鉢	口縁部 破片	厚 1.0	外反して広がる	地文は単節 R L 縦位施文 / 口縁部上端に竹管状工具による円形刺突文が 2 か所施文され、それを起点に沈線が 1 ~ 2 本横走 / 口縁部上端から幅広の隆帯が斜位に垂下	灰濁 / 砂粒多量、礫微量	縄文後期前葉 堀之内 1 式	10T-P3
第62図38 図版26-38	深鉢	口縁部 破片	厚 0.7	口縁部上端で内折	口縁部上端に逆 U 字条の貼付文 / 内面に浅い沈線が 2 本横走	灰濁 / 砂粒・礫中量	縄文後期前葉 堀之内 1 式	289H
第62図39 図版26-39	深鉢	口縁部 破片	厚 0.7	外反して広がる	地文は単節 R L 縦位施文 / 口縁部上端に沈線が 1 本横走 / 沈線が斜位に垂下	黄褐色 / 砂粒・礫微量	縄文後期前葉 堀之内 1 式	290H
第62図40 図版26-40	深鉢	口縁部 破片	厚 0.9	僅かに内湾して広がる	口縁部上端に沈線が 3 本横走し、一部に押捺文が施文	灰濁 / 砂粒・礫中量、石英少量	縄文後期前葉 堀之内 1 式	遺構外
第62図41 図版26-41	深鉢	胴部 破片	厚 0.6	外横する	地文は単節 L R 横位施文	黒濁 / 砂粒中量、角閃石・礫少量	縄文後期前葉 堀之内 1 式	10T-P4
第62図42 図版26-42	深鉢	口縁部 破片	厚 0.8	外横 / 口唇部で板状に肥厚	口唇部には円形刺突文と沈線文	黒濁 / 砂粒多量 / 細かい空隙が目立つ	縄文後期前葉 堀之内 1 式	962D
第62図43 図版26-43	深鉢	口縁部 破片	厚 1.1	直線的に外横	地文は単節 L R 斜位施文 / 半波竹管による直状・波状沈線が垂下	黒 / 砂粒少量、礫微量	縄文後期前葉 堀之内 1 式	290 H / 963D
第62図44 図版26-44	深鉢	胴部 破片	厚 1.1	直線的に外横	地文は単節 L R 斜位施文 / 半波竹管による直状・波状沈線が垂下	黒 / 砂粒少量、礫微量	縄文後期前葉 堀之内 1 式	290H ⅧA
第62図45 図版26-45	深鉢	胴部 破片	厚 1.0	直線的に外横	地文は単節 L R 斜位施文 / 半波竹管による直状・波状沈線が垂下	黒 / 砂粒少量、礫微量	縄文後期前葉 堀之内 1 式	遺構外
第62図46 図版26-46	深鉢	胴部 破片	厚 1.2	外横する	単沈線による区画文 / 一部沈線間に梨目 / 区画文内に単節 L R が施文	黒濁 / 砂粒・角閃石微量	縄文後期前葉 堀之内 1 式	10T-P4・ P5
第62図47 図版26-47	深鉢	胴部 破片	厚 1.1	外反して広がる	単沈線による垂下文、U 字・逆 U 字状文	橙 / 砂粒・礫多量、チャート少量	縄文後期前葉 堀之内 1 式	10T-P1
第62図48 図版26-48	深鉢	胴部 破片	厚 1.1	内湾して広がる	2 本の沈線が斜位に垂下	黒濁 / 砂粒多量、礫少量、チャート微量	縄文後期前葉 堀之内 1 式	48W
第62図49 図版26-49	深鉢	胴部 破片	厚 0.6	外反して外横	沈線が斜位に垂下	にぶい黄褐色 / 砂粒多量 / 礫少量	縄文後期前葉 堀之内 1 式	遺構外
第62図50 図版26-50	深鉢	口縁部 破片	厚 0.6	外横する / 口縁部上端内面で肥厚	細く浅い沈線による区画文 / 区画文内の一部に単節 R L 横位施文が充填	黒濁 / 砂粒・角閃石少量	縄文後期前葉 堀之内 2 式	969 D
第62図51 図版26-51	深鉢	口縁部 破片	厚 0.8	直線的に外横	地文は単節 R L 縦位施文 / 口縁部上端に沈線が横走 / 単沈線 2 ~ 3 本により高状文	灰黄褐色 / 砂粒・礫少量	縄文後期前葉 堀之内 2 式	968D
第62図52 図版26-52	深鉢	口縁部 破片	厚 0.8	やや外反する口縁 / 直立する口唇部	口縁部上端に梨目が付されたた低い隆帯横走 / 2 本の沈線間に単節 L R 横位が充填施文された帯状文	橙 / 砂粒多量、礫少量	縄文後期前葉 堀之内 2 式	遺構外
第62図53 図版26-53	深鉢	口縁部 破片	厚 0.8	僅かに内湾	刺突が施された隆帯が垂下 / 単沈線が 3 本横走	にぶい黄褐色 / 砂粒・礫少量	縄文後期前葉 堀之内 2 式	10T-P1

第33表 遺構外出土土器一覧(3)

第4章 城山遺跡第79地点の調査

発掘番号 図版番号	形種 種別	部位 依存状態	法量 (cm)	器形・形態	文様・特徴	胎土	時期 型式等	出土遺構 出土位置
第62図54 図版26-54	深鉢	胴部 破片	厚0.8	内傾する	8字状の貼付文/刻目が施された隆帯横走	灰褐色/砂粒・礫中量	縄文後期前葉 Ⅱ之内2式	10T-P5
第62図55 図版26-55	深鉢	胴部 破片	厚1.0	内傾する	地文は単筋R L横位施文/沈線による区画文・幾何学文	にぶい橙/砂粒・礫少量	縄文後期前葉 Ⅱ之内2式	290H
第62図56 図版27-56	深鉢	胴部 破片	厚0.8	内傾する	地文は単筋R L横位施文/2本の沈線が横走し、沈線間は磨り消す	暗褐色/砂粒中量、石灰微量	縄文後期前葉 Ⅱ之内2式	290H Ⅱ乱
第62図57 図版27-57	深鉢	胴部 破片	厚1.0	外反して外傾	地文は単筋R L/3本の深い沈線が垂下/沈線間は磨り消し	にぶい黄橙/砂粒中量、礫微量	縄文後期前葉 Ⅱ之内2式	290H
第62図58 図版27-58	深鉢	胴部 破片	厚0.6	内湾して広がる	2本の沈線が横走/沈線間は単筋R L横位施文が充填	灰白/砂粒・礫少量	縄文後期前葉 Ⅱ之内2式	970D
第62図59 図版27-59	深鉢	胴部 破片	厚0.8	僅かに外反して広がる	2本の沈線による横帯区画/区画内には3~4本の沈線による弧状文/一部単筋R L縦位施文が充填	にぶい黄橙/砂粒多量、石灰微量	縄文後期前葉 Ⅱ之内2式	10T-P3
第62図60 図版27-60	深鉢	胴部 破片	厚1.1	内湾して外傾	2本の沈線による横帯区画/区画内は多条の沈線による曲線文	灰黄褐色/砂粒・礫少量	縄文後期前葉 Ⅱ之内2式	290H
第62図61 図版27-61	深鉢	胴部 破片	厚1.3	やや内湾して外傾	地文は単筋R L横位施文/沈線による区画/沈線間磨り消しか	にぶい黄橙/砂粒多量、礫微量	縄文後期前葉 Ⅱ之内2式か	遺構外
第62図62 図版27-62	深鉢	胴部 破片	厚0.6	僅かに内湾	横走する多条の沈線による横帯文	にぶい黄褐色/砂粒少量、内肉石灰微量	縄文後期中葉 加曾利B式	966D
第62図63 図版27-63	深鉢	口縁部 破片	厚0.9	外反して広がる	口縁部上端に単筋R L縦位施文/太い沈線が2本横走し、沈線間は磨り消し	黒褐色/砂粒少量、礫微量	縄文後期中葉 加曾利B式	遺構外
第62図64 図版27-64	深鉢	口縁部 破片	厚0.6	内湾する/口縁部上端で肥厚	口縁部上端に貼付文/2本の横走する沈線/地文は単筋R L横位施文	にぶい黄橙/砂粒多量、礫少量	縄文後期中葉 加曾利B式	遺構外
第62図65 図版27-65	深鉢	胴部 破片	厚0.6	外反する	横走する2本の沈線/沈線間には刻目	黒褐色/砂粒中量	縄文後期中葉 加曾利B式	確認調査 (1T)
第62図66 図版27-66	深鉢	口縁部 破片	厚0.5	僅かに内湾/口唇部で肥厚	肥厚した口縁部上端に単筋R Lが横位施文/肥厚部直下には地文単筋R L縦位施文後、刺突文列/2本の沈線が横走/沈線間は無文	にぶい黄橙/砂粒中量	縄文後期中葉 加曾利B式	289H
第62図67 図版27-67	鉢	口縁部 破片	厚0.7	内湾して内傾/口唇部で肥厚	口唇部に沈線/口縁部上端には刻目と4本の沈線による横帯文	灰黄褐色/砂粒多量	縄文後期中葉 加曾利B式	289H
第62図68 図版27-68	深鉢	胴部 破片	厚0.6	外傾する	外部に沈線が横走/内部には2本の沈線と刻目による横帯文	灰黄褐色/砂粒微量	縄文後期中葉 加曾利B式	290H
第62図69 図版27-69	深鉢	口縁部 破片	厚0.9	僅かに外傾	口唇部にキザミ/破片下端に浅く太い沈線が横走	にぶい黄褐色/砂粒中量、礫微量	縄文後期中葉 加曾利B式	289H
第62図70 図版27-70	注口土 器か	体部 破片	厚1.0	くの字状に屈曲	体部文字は沈線による入組文、過半は無文	にぶい黄橙/	縄文後期中葉 加曾利B式	290H
第63図71 図版27-71	注口土 器か	体部 破片	厚0.7	内湾する	3本の沈線による横帯文/沈線による曲線文	暗褐色/砂粒多量	縄文後期中葉 加曾利B式	963D

第33表 遺構外出土土器一覧(4)

発掘番号 図版番号	器種 種別	部位 依存状態	法量 (cm)	器形・形態	文様・特徴	胎土	時期 型式等	出土遺構 出土位置
第63図72 図版27-72	注口土 器か	体部 破片	厚 0.4	外反して窄まる	多条の沈線による横帯文／一部にS字状文か	暗褐色／砂粒多量	縄文後期中葉 加賀利B式	289H
第63図73 図版27-73	注口土 器か	体部 破片	厚 0.5	内湾する	9本1対の集合細線による楕曲文	ぶい黄褐色／砂粒少量、石英微量	縄文後期中葉 加賀利B式	10T-P7
第63図74 図版27-74	深鉢	口縁部 破片	厚 0.7	内湾して広がる	無文／横方向のケズリ状の調整痕	明黄褐色／砂粒多量、白色粒子中量	縄文後期中葉 加賀利B式	290H
第63図75 図版27-75	深鉢	口縁部 破片	厚 0.5	内湾して窄まる／口 唇部で肥厚	口縁部上端に沈線横走／横方向のケズリ状の調整痕	明黄褐色／砂粒多量、白色粒子中量	縄文後期中葉 加賀利B式	10T-P4
第63図76 図版27-76	深鉢	胴部 破片	厚 0.8	内湾する／口縁部上 端は僅かに肥厚	無文の口縁部／口縁部下端には 隆帯が横走し、刺突文列と沈線 が治う	暗褐色／砂粒多量、 白色粒子・角閃石少量	縄文後期中葉 加賀利B式	48W
第63図77 図版27-77	鉢	口縁部 破片	厚 0.6	内湾する	地文は単筋LR横位施文／横走 する沈線による多段の横帯文	褐色／砂粒微量	縄文後期中葉 加賀利B式か	289H
第63図78 図版27-78	鉢	口縁部 破片	厚 0.8	口縁部上端で内折	口縁部中位に稜を持つ／単沈線 が横走	灰黄褐色／砂粒・ 礫少量	縄文後期中葉 加賀利B式か	289H
第63図79 図版27-79	深鉢	口縁部 破片	厚 0.7	僅かに内湾する／口 縁部上端で僅かに肥 厚	口縁部上端に削み／口縁部には 沈線が横位ないし斜位に施文／ 粗製土器	黒褐色／砂粒多量、 礫微量、角閃石少量	縄文後期中葉 ～後葉	10T-P1
第63図80 図版27-80	深鉢	口縁部 破片	厚 0.6	僅かに外反しながら 窄まる	口縁部上端にキザミが付された 隆帯が肩付／浅い沈線が弧状に 施文／粗製土器	褐色／砂粒多量、 礫微量	縄文後期中葉 ～後葉	10T-P4
第63図81 図版27-81	深鉢	口縁部 破片	厚 0.9	外反して広がる	無文／横位に稜を伴うナデ調整 ／粗製土器	ぶい褐色／砂粒 多量	縄文後期中葉 ～後葉	10T-P3
第63図82 図版27-82	深鉢	口縁部 破片	厚 1.0	外反して広がる	口縁部上端に押捺を伴う隆帯粘 付／粗製土器	褐色／砂粒・礫多 量	縄文後期中葉 ～後葉	290H
第63図83 図版27-83	深鉢	口縁部 破片	厚 0.7	内湾して広がる／口 唇部は直立する	直立する口唇部は無文／口縁部 は沈線が格子状に施文／左下がり →右上がり／口縁部内湾上端 には浅い沈線が横走／粗製土器	褐色／砂粒・礫多 量	縄文後期中葉 ～後葉	289H
第63図84 図版27-84	深鉢	口縁部 破片	厚 0.9	直線的に外傾	口縁部は沈線が格子状に施文／ 右下がり→左下がり／口縁部内 湾上端には深い沈線が横走／粗 製土器	明褐色／砂粒・礫 中量、石英・角 閃石微量	縄文後期中葉 ～後葉	10T-P4
第63図85 図版27-85	深鉢	口縁部 破片	厚 1.1	やや内湾して広がる	口縁部は沈線が格子状に施文／ 縦位→左下がり／粗製土器	灰白／砂粒・礫多 量	縄文後期中葉 ～後葉	289H
第63図86 図版27-86	深鉢	口縁部 破片	厚 0.8	僅かに内湾する／口 縁部上端から下端に かけてやや薄くなる	口縁部上端にキザミ／口縁部下 端から右下がりの沈線／粗製土 器	黄褐色／砂粒多量、 角閃石中量	縄文後期中葉 ～後葉	290H
第63図87 図版27-87	深鉢	胴部 破片	厚 0.8	僅かに内湾して外傾	沈線が格子目状に施文／縦位→ 右下がり	明褐色／砂粒多量	縄文後期中葉 ～後葉	289H
第63図88 図版27-88	深鉢	胴部 破片	厚 0.5	内湾する	背の低い幅広い隆帯による楕円 区画文／隆帯上には単筋LR横 位施文	黒褐色／砂粒少量、 角閃石多量	縄文後期後葉 安行1～2式	10T-P1
第63図89 図版27-89	深鉢	口縁部 破片	厚 0.7	内湾して外傾、波状 口縁となるか	口縁部には幅広い沈線が3本横 走	黒褐色／砂粒多量、 角閃石少量	縄文後期後葉 安行1～2式	10T-P4

第33表 遺構外出土土器一覧(5)

検出番号 図版番号	器種 種別	部位 依存状態	法量 (cm)	器形・形態	文様・特徴	胎土	時期 型式等	出土遺構 出土位置
第63図90 図版27-90	深鉢	口縁 破片	厚 0.9	やや外積する	地文は単節 R L 縦位施文か/細く深い沈線が3～4本垂下	灰褐色/砂粒中量・礫少量	縄文後期	14 P
第63図92 図版27-92	須恵器 環	30%	高 3.5 口 (12.8) 底 (6.0)	口縁部は外反する/ 体部は丸味をもつ/ 平底であるが、やや 基筒底状	ロクロ成形/ロクロ回転は右回 転/底部に回転糸切り痕/東金 子製品	灰色/白色砂粒 を含む	平安時代 (9c後葉)	290H 須丸
第63図93 図版27-93	須恵器 環	20%	高 3.8 口 (12.0) 底 (6.4)	口縁部は外積する/ 口唇部は僅かに肥厚 /平底	ロクロ成形/ロクロ回転は右回 転/底部に回転糸切り痕/東金 子製品	灰褐色/白色砂 粒・小石を含む	平安時代 (9c中葉)	965 D
第63図94 図版27-94	須恵器 環	30%	高 6.0 口 (13.4) 底 (6.2)	口縁部は僅かに外反 する/平底	ロクロ成形/ロクロ回転は右回 転/底部に回転糸切り痕/酸化 炭焼成/東金子製品か	黄褐色/小石を やや多く、砂粒 を含む	平安時代 (9c中葉)	290H 須丸
第63図95 図版27-95	須恵器 環	体部下半～ 底部20%	高 [2.3] 底 (5.4)	平底	ロクロ成形/ロクロ回転は右回 転/底部に回転糸切り痕	黄白色を基調/ 砂粒・小石を含 む	平安時代 (9c後葉か)	遺構外
第63図96 図版27-96	須恵器 環	体部下半～ 底部50%	高 [1.1] 底 5.2	平底	ロクロ成形/ロクロ回転は右回 転/底部に回転糸切り痕/東金 子製品	青灰色/白色砂 粒・小石を含む	平安時代 (9c後葉か)	290H 須丸
第63図97 図版27-97	須恵器 環	体部下半～ 底部30%	高 [2.1] 底 (6.2)	平底	ロクロ成形/ロクロ回転は右回 転/底部に回転糸切り痕/東金 子製品	青灰色/白色砂 粒を含む	平安時代 (9c後葉か)	遺構外
第63図98 図版27-98	須恵器 甕	口頸部破片	高 17.0	複合口縁/口頸部は 外反する	ロクロ成形/外面頸部にカキ目 痕+縞縞状文/外面に自然釉 /東金子製品か	灰白色/白色砂 粒を含む	平安時代 (9c力)	963 D
第63図99 図版27-99	須恵器 甕	胴部破片	厚 0.5	球胴	内面：当て道具痕/外面：平行 叩き目/東金子製品	灰色/白色砂粒 を含む	平安時代 (9c力)	960 D

第33表 遺構外出土土器一覽(6)

検出番号 図版番号	種別	器種	法量 (cm)	製作の特徴等	推定産地	出土位置	時期
図版27-101	磁器	碗	高 [3.1]	染付/外面：風景文/口縁部～体部小破片	肥前系	遺構外	近世 (18c後半)
図版27-102	陶器	皿	高 [1.1]	志野釉/高台あり/胎土：黒色、精錬されている/被 熱/底部破片	瀬戸・美濃系	遺構外	中世 (16c後半)
図版27-103	陶器	皿	高 [1.1] 底 (7.2)	志野釉/高台あり/胎土：黄白色を基調、精錬されて いる/底部にピン留め2か所あり/被熱/底部破片	瀬戸・美濃系	291 H	中世 (16c後半)
図版27-104	陶器	深鉢	高 [9.0]	複合口縁/唇目 16本以上一単位/内外面に鉄釉/胎 土：黄白色、茶褐色粒子・白色砂粒を含む/口縁部～ 体部破片	瀬戸・美濃系	遺構外	中世 (15c後半)
図版27-105	陶器	深鉢	厚 1.1	唇目 11本一単位/内外面に鉄釉/胎土：黄白色、茶褐 色粒子・白色砂粒を含む/口縁部～体部破片	瀬戸・美濃系	291 H	近世 (19c)
図版27-106	土器	焙烙	厚 0.9	内耳痕/内外面黒く焼けている/胎土：茶褐色粒子・ 角閃石・砂粒を含む/外面：指痕押部による成形後に 横ナデ/内面：横ナデ/体部小破片	在地系	遺構外	中世 (16c後半)

第34表 遺構外出土陶磁器・土器一覽

第5章 調査のまとめ

第1節 市場裏遺跡第21地点の調査成果

本地点からは、縄文時代の土坑1基（5D）、弥生時代後期～古墳時代前期の住居跡1軒（3Y）・方形周溝墓3基（4～6方）などが検出された。ここでは、弥生時代後期～古墳時代前期についてまとめることとする。

（1）3号住居跡について

3号住居跡からは、壺・甕形土器が出土している（第7図）。第7図2は外面にヘラナデ調整、内面にヘラ磨き調整がある小型甕である。器形は、口縁部が小さく屈曲し、最大径が口縁部と胴部中位にくる。脚台部側がなく、全体の器形が分からないが、比田井氏の分類によれば、甕C類に該当し、Ⅱ段階新相以降（比田井 1997）と思われる。これ以外の甕形土器（第7図3～5、9、10）はハケ目調整である。器台などの小型製品、東海系の高坏が出土していないことを考慮して、弥生時代後期後葉～古墳時代前期初頭に位置付けられようか。

次に、本住居跡の覆土に注目したい。覆土の中～下層は、通常自然堆積とは異なり、ローム粒子・ロームブロックを多く含み、床面と間違えるほど非常に硬くしまっていた状況が観察された。同様な覆土の堆積状況は、第23地点の4・5Yにも認められている（徳留・尾形・青木 2017）。これについては、人為的な埋め戻し、土葺屋根材の崩落など、形成過程には多様な可能性が想定できるが、本文中では隣接する5方構築時の埋土との関係を推測した。今後、3Yと5方との新旧関係の把握はもちろんのこと、本遺跡内全体での住居跡と方形周溝墓の分布の把握や、それぞれの遺構覆土の形成過程を検討していく必要がある。

（2）市場裏遺跡における弥生時代後期～古墳時代前期の遺構分布について

市場裏遺跡では、今回の調査により、弥生時代後期～古墳時代前期の住居跡が計3軒、方形周溝墓が計6基となった。市場裏遺跡は弥生時代後期～古墳時代前期の小規模集落と考えられ、今のところ、遺跡北側が住居域、南側が墓域とする構成をもつ集落と考えられている（徳留・尾形・青木 2011）。

遺跡中央東側に位置する本地点では、住居跡、方形周溝墓の両者が確認されている。特に、3Yが5方の内側方台部側に位置しており、本地点は、ちょうど集落の住居域と墓域が一部重なるエリアとして位置付けられる。今後、集落内における遺構の変遷を捉えることが課題である。

第2節 西原大塚遺跡第199地点の調査成果

本地点からは、縄文時代のピット7本（4・12・17・18・23・27・34P）、中世以降の土坑14基（720D～733D）・溝跡1本（54M）・ピット56本（1～3・5～11・13～16・19～22・24～26・

28～33・35～63P)が検出された。ここでは、特に中世以降の遺構について若干のまとめを行うこととする。

(1) 中世以降の遺構について

本地点の地形について、第3章第1節(3)で基本層序および54Mの土層断面を観察・検討した結果、本地点全体に立川ローム第Ⅲ層が削平されていることが分かった。また、削平された時期については、54M(16世紀後半)より古いことが判明しており、本地点で古墳時代～平安時代の遺構・遺物が確認されていないことから、中世の可能性が高い。これらから、本地点には中世の段切状遺構が広がっており、段切状遺構の造成後、土坑・溝跡・ピットが構築されたと考えられる。

本地点は西原大塚遺跡の西側の台地縁辺部付近に位置している。近年、本遺跡では、台地縁辺部の地点で段切状遺構とともに中世以降の遺構が検出された調査事例が増えてきている。

A. 西原大塚遺跡第213地点・区画整理第5Ⅰ・5Ⅱ地点

本地点の約200m南西に位置する。第213地点では、段切状遺構、地下式坑、土坑、井戸跡、板碑埋納遺構などが検出されており、出土遺物や土地造成の時期と遺構との関係から、時期を区分している(尾形・大久保・深井・青木 2019)。土地造成時の時期(段切状遺構構築段階)は、出土した陶磁器などの時期から15世紀中頃とされている。

B. 西原大塚遺跡第220・224地点

本地点の約300m北東に位置する。ここでは、道路状遺構、段切状遺構、地下式坑、土坑、井戸跡などが検出されており、出土遺物や土地造成の時期と遺構との関係から、時期を区分している(尾形・大久保・成島・西川 2020、大久保・尾形 2020)。土地造成の時期(段切状遺構構築段階)は、出土した陶磁器から15世紀後半としている。段切状遺構は、検出面に段差が認められ、4面の平場が構築されている。

C. 西原大塚遺跡区画整理第5Ⅰ・5Ⅱ地点

第213地点の東に隣接する地点である。中世～近世の段切状遺構が検出され、地下式坑、土坑、溝跡などが検出されている(佐々木・内野・宮川 2009)。

D. 西原大塚遺跡区画整理第26地点

本地点南西に隣接する区画整理第26地点では、段切状遺構の確認はないが、中世以降の地下式坑、土坑が検出されている(佐々木・内野・宮川 2009)。

E. 西原大塚遺跡区画整理第34Ⅱ～Ⅳ地点

本地点の約200m北東に位置する。ここでは、段切状遺構の確認はないが、中世の地下式坑、近世の地下室・井戸跡・配石遺構が検出されている(佐々木・内野・宮川 2009)。

以上のように、西原大塚遺跡の西側台地縁辺部において、中世の土地造成の様相が少しずつ明らかになってきている。また、第213地点、第220・224地点の調査成果によれば、段切状遺構の構築は、15世紀中～後半にかけて行われている。本地点の段切状遺構の構築時期は、54Mの時期が16世紀後半の位置付けであることから、それ以前と考えられ、第213地点、第220・224地点の段切状遺構構築時期と近い可能性が考えられる。今後、西原大塚遺跡の西側台地縁辺部における中世の地形変化や土地利用に着目し、調査を実施していくことが求められよう。

第3節 城山遺跡第79地点の調査成果

本地点からは、縄文時代の炉穴1基(14F P)・土坑2基(971 D・973 D)、古墳時代後期の住居跡2軒(289・290 H)・平安時代の住居跡2軒(291・292 H)・掘立柱建築遺構1棟(10 T)、中世以降の土坑15基(958～970・972 D)・井戸跡2基(48・49 W)などが検出された。ここでは、特に古墳時代後期と平安時代の遺物について若干のまとめを行うこととする。

(1) 古墳時代後期の遺物について

289号住居跡出土遺物 (第38図、図版21-2)

本住居跡から出土した遺物をまとめると、1～4は土師器甕形土器、5・6は須恵器で、5は短頸壺、6は甕形土器である。7は土製品で支脚である。

まず、土師器甕形土器については、1～3は3がやや幅が広いが長甕、4は丸甕に区分され、すべて在地系土師器(尾形 2005・2006)である。环形土器の出土はないが、志木市の土師器編年(尾形 2001)では、1が口縁部の位置に最大径をもつことから、14期(7世紀中葉)に位置付けすることができる。

5・6は須恵器であるが、特に5の短頸壺ないし蓋付壺は湖西製品と思われ、特徴として、肩部があまり張らない点は湖西第Ⅲ期(後藤 1989)の中で捉えられるものであろう。

以上から、本住居跡出土土器は、7世紀中葉に位置付けられるものと考えられる。

290号住居跡出土遺物 (第42図、図版22-1)

本住居跡から出土した遺物は、すべて土器で土師器のみで、器種構成は、埴・高坏・鉢・壺・甕形土器である。本住居跡出土土器の中で、6の高坏が有段高坏であることに注目される。今まで市内において、有段高坏が出土している例は、中道遺跡第37地点19 H(佐々木・尾形 1997)、城山遺跡第62地点251 H(尾形・徳留他 2012、尾形・大久保他 2014)の2軒のみで、いずれも5世紀中葉の時期としている。前者の19 Hは市内最古のカマドを有する住居跡で、後者の251 Hにはカマドの設置はなく未だ炉跡である。そのことから、「この時期の住居跡はカマドを有するものと有さないものの両者が併存する可能性が考えられる。」としている(尾形 2014)。有段高坏については、利根川章彦氏(利根川 1982)が児玉地方の5～8世紀の土師器の変遷をまとめられ、「段付高坏」として分類されるもので、Ⅰ・Ⅱ期そしてⅣ期(註1)まで継続するものと考えられている。

また、胎土が赤褐色を呈する人間系土師器(尾形 2008)として、1・2の埴形土器、8の壺形土器が出土しているが、1のような口縁部が屈曲し、受口状に短く直立する埴形土器は、坂戸市上谷遺跡3号住居跡(加藤・今井 2010)、同遺跡7号住居跡(加藤・今井 2012)、大河原遺跡8号墳(藤野 2012)に類例があり、いずれも5世紀後半に位置付けられている。

次に甕形土器(9・10)であるが、接合できなかったが同一個体と考えられる。特徴は「く」の字口縁を固持しているものやや長胴化の兆しが見えることから、5世紀中葉よりやや新しい様相と言える。

以上、本住居跡出土土器は、6の有段高坏から5世紀中葉に比定できそうであるが、利根川氏の言うように段付高坏に時間幅があること、坂戸市上谷遺跡1号住居跡(加藤・今井 2010)からは、6世

紀前葉の土器群の中に有段高環が含まれること、9・10の甕形土器の胴部にやや長胴化の兆しが見られること、さらに1の埴形土器を考慮し、本住居跡は5世紀後葉に位置付けることとしたい。

(2) 平安時代の遺物について

291号住居跡出土土器 (第44図、図版22-2)

器種構成は須恵器環形土器(1~6)・蓋形土器(7)、土師器甕形土器(8・9)、須恵器甕形土器(10)である。

まず、須恵器環形土器については、1・2・4が回転糸切り未調整の土器であり、9世紀以降の特徴を示している。これらを古代の入間を考える会で編年指標の基準とされる口径と内底径の比率(口径比率)を参考してみると、1は口径11.9cm・底径6.0cm・内底径4.8cm・口径比率40%、2は推定口径12.4cm・推定底径5.8cm・内底径5.8cm・口径比率47%、4は推定口径11.4cm・推定底径5.2cm・内底径4.8cm・口径比率42%である。その結果、2の値は、Ⅷ期の内底径6.0cm~5.4cm、口径比率50~45%に含まれるが、1・4は内底径ではⅩ期の5.2~4.1cm、口径比率ではⅨ期の45~40%に該当し、やや食い違うが、法量の縮小化を考えるとⅨ期として比定することが妥当と考えられるため、時期については9世紀後葉に位置付けることとした(古代の入間を考える会 2015)。

須恵器蓋形土器については、東金子製品と考えられる。特徴として、口縁部が非口縁蓋であることから、古代の入間を考える会のⅨ期であることから、須恵器環形土器とほぼ同時期でよいであろう。

土師器甕形土器については、8・9ともに武蔵型甕がある。これらの特に口縁部の特徴は、すべての土器で強い屈曲の「コ」の字口縁を呈していることから、時期については、根本編年(根本 1999)によるⅧ期(9世紀後半)の口縁部が「コ」の字になるもののみ段階に比定できる。

以上から、本住居跡出土土器は、おおそ9世紀後葉に位置付けるものと考えられる。

292号住居跡出土土器 (図版22-3)

出土遺物は2点で、1は土須恵器環形土器で東金子製品、2は土師器甕形土器で武蔵型甕である。いずれも小破片であるが、時期については、須恵器環形土器の口縁部が外反することから、鳩山編年(渡辺 1990・2012)ではⅧ期、さらに土師器甕形土器の「コ」の字口縁がきっちりしていることから、根本編年(根本 1999)のⅧ期に比定でき、9世紀後葉に位置付けられるであろう。

10号掘立柱建築遺構出土土器 (第47図、図版23-1)

器種構成は、須恵器蓋形土器(1~3)・甕形土器(5~10)、灰陶陶器長頸壺形土器(4)である。

ここでは、1~3の須恵器蓋形土器について触れることにする。1~3はすべて東金子製品で、1は推定口径12.0cm、2は推定口径17.0cm、3は推定口径16.6cmで、1はやや小型で、2・3はやや大型のものと言える。蓋形土器については、古代の入間を考える会で一定の基準があり、口径11~12cm、口径13~14cm、15~16cm、17~18cm、19cm以上と区分され、蓋形土器の口径は同時期におけるセットになる坏、埴に合わせた法量になる。特徴としては、天井部の削りの範囲が次段階よりも狭くならない点でⅧ期(9世紀後葉)に比定できると思われる。

[註]

- 註1 Ⅰ期：5世紀第3四半世紀、Ⅱ期：5世紀第4四半世紀前半中心、Ⅲ期：5世紀第4四半世紀後半中心、Ⅳ期：6世紀第1四半世紀中心。

[引用・参考文献]

- 赤塚次郎 1990『廻間遺跡』(財)愛知県埋蔵文化財センター
- 大久保聡・尾形剛敏 2020『西原大塚遺跡第220地点 西原大塚遺跡第222地点 西原大塚遺跡第227地点 埋蔵文化財発掘調査報告書』志木市の文化財第75集 埼玉県志木市教育委員会
- 尾形剛敏 2001『志木市における古墳時代の土師器の編年(2)』『あらかわ』第4号 あらかわ考古談話会
- 2005『第4章 まとめ』『城山遺跡第42地点 埋蔵文化財発掘調査報告書』志木市遺跡調査会調査報告第10集 埼玉県志木市遺跡調査会
- 2006『7世紀における「在地系土師器」の出現と歴史的意義—武蔵野台地北西部の無彩系・黒色系土師器の一事例—』『埼玉考古Ⅱ』埼玉考古学会
- 2008『古墳時代後期の土師器研究の再認識—(仮称)「入間系土師器」の実態と生産地推定を例にして—』『埼玉考古』第43号 埼玉考古学会
- 尾形剛敏・大久保聡・成島一也・西川忠春 2020『西原大塚遺跡第224地点 埋蔵文化財発掘調査報告書』志木市の文化財第74集 埼玉県志木市教育委員会
- 尾形剛敏・大久保聡・深井恵子・青木 修 2014『志木市遺跡群21』志木市の文化財第58集 埼玉県志木市教育委員会
- 尾形剛敏・大久保聡・宮下孝優 2014『城山遺跡第82地点 埋蔵文化財発掘調査報告書』志木市の文化財第60集 埼玉県志木市教育委員会
- 尾形剛敏・大久保聡・深井恵子・青木 修 2019『西原大塚遺跡第213地点 中野遺跡第102地点 中野遺跡第104地点 埋蔵文化財発掘調査報告書』志木市の文化財第48集 埼玉県志木市教育委員会
- 尾形剛敏・佐々木保俊 1991『志木市遺跡群Ⅲ』志木市の文化財第16集 埼玉県志木市教育委員会
- 尾形剛敏・徳留彰紀・深井恵子・青木 修 2012『城山遺跡第62地点 埋蔵文化財発掘調査報告書』志木市の文化財第48集 埼玉県志木市教育委員会
- 尾形剛敏・深井恵子・青木 修 2005『城山遺跡第42地点 埋蔵文化財発掘調査報告書』志木市遺跡調査会調査報告第10集 埼玉県志木市遺跡調査会
- 加藤恭朗・今井千恵 2010『上谷遺跡—上谷遺跡発掘調査報告書2—』埼玉県坂戸市教育委員会
- 2010『上谷遺跡4—上谷遺跡6区・7区発掘調査報告書—』埼玉県坂戸市教育委員会
- 古代の入間を考える会 2015『南比企窯と東金子窯(Ⅱ) 一東金子窯の開窯と9世紀の編年—』
- 後藤建一他 1989『静岡県内の窯業遺跡』静岡県文化財調査報告書第42集 静岡県教育委員会
- 佐々木保俊・尾形剛敏 1997『志木市遺跡群Ⅴ』志木市の文化財第25集 埼玉県志木市教育委員会
- 佐々木保俊・内野美津江・宮川幸佳 2009『西原大塚遺跡』西原特定地区画整理事業に伴う発掘調査報告書 志木市遺跡調査会調査報告第13集 埼玉県志木市遺跡調査会
- 徳留彰紀・尾形剛敏・青木 修 2011『市場裏遺跡第13地点 埋蔵文化財発掘調査報告書』志木市の文化財第44集 埼玉県志木市教育委員会
- 徳留彰紀・尾形剛敏・青木 修 2017『市場裏遺跡第23地点 城山遺跡第87地点 西原大塚遺跡第207地点 中野遺跡第95地点 埋蔵文化財発掘調査報告書』志木市の文化財第68集 埼玉県志木市教育委員会
- 利根川章彦 1982『古墳時代集落構成の一考察—児玉地方の5～8世紀の集落群の動態と土師器の変遷を中心として—』『土曜考古』第5号 土曜考古学会
- 根本 靖 1999『所沢市東の上遺跡の基礎研究Ⅱ—土師器煮淨具の変遷について—』『あらかわ』第2号 あらかわ考古談話会
- 比田井克仁 1997『弥生時代後期における時間軸の検討—南武蔵地域の検討を通して—』『古代』第103号 早稲田大学考古学会
- 藤野一之 2012『大河原遺跡2—上大河原遺跡5区発掘調査報告書—』埼玉県坂戸市教育委員会
- 渡辺 一 1990『鳩山窯跡群Ⅱ』鳩山窯跡群遺跡調査会 鳩山町教育委員会
- 2012『鳩山窯跡群 25年を過ぎて振り返る大発掘』埼玉県比企郡鳩山町教育委員会

[付 編]

自然 科学 分析

I. 市場裏遺跡から出土した大型植物遺体

パンダリ スタルシャン・佐々木由香 (パレオ・ラボ)

1. はじめに

埼玉県志木市本町に所在する市場裏遺跡は、弥生時代後期～古墳時代前期、中世以降の複合遺跡である。ここでは、第21地点の弥生時代後期後葉～古墳時代前期初頭の竪穴建物から得られた炭化種実の同定を行い、当時利用された種実について検討した。

2. 試料と方法

試料は、第21地点の3号住居跡から採取された堆積物（上層部および西側、3Y-P1）の水洗済み試料1試料である。堆積物の採取から水洗までの作業は、志木市教育委員会によって行われた。3号住居跡の時期は、弥生時代後期後葉～古墳時代前期初頭である。

水洗は、ウォーターフローテーション法で行われた。水洗前の土壌重量は921gである。種実の抽出、同定および計数は、実体顕微鏡下で行った。計数の方法は、完形または一部が破損していても1個体とみなせるものは完形として数え、1個体に満たないものは破片とした。同定された試料は、志木市教育委員会に保管されている。

3. 結果

同定した結果、草本植物のイネ炭化種子（穎果）とダイズ属炭化種子、ササゲ属アズキ垂属炭化種子の3分類群が見いだされた。状態が悪く、科以上の細分に必要な識別点が残存していない一群を、同定不能炭化種実とした（第35表）。

3号住居跡からは、イネ種子（穎果）の完形2点と破片4点、ダイズ属種子の破片2点、ササゲ属アズキ垂属種子の半割2点、破片5点が得られた。

次に、得られた主要な分類群の記載を行い、図版に写真を示して同定の根拠とする。なお、分類群の学名は米倉・梶田(2003)に準拠し、APGⅢリストの順とした。

(1) イネ *Oryza sativa* L. 炭化種子（穎果） イネ科

上面観は両凸レンズ形、側面観は楕円形。一端に胚が残る。両面に縦方向の2本の浅い溝がある。長さ4.1mm、残存幅2.7mm。

(2) ダイズ属 *Glycine* spp. 炭化種子 マメ科

破片で変形が著しいが、本来の上面観は楕円形、側面観は長楕円形か。へそは側面のほぼ中央にあり、長楕円形で全長の1/3未満、片側に寄ると推定されるが、残存していない。残存長6.7mm、残存幅3.8mm（図版28-1）、もう1点の破片の大きさは、残存長5.5mm、残存幅4.7mm。

分類群	水洗量 (g)	遺構	
		3号住居跡	上層部および西側
イネ	炭化種子	2 (4)	
ダイズ属	炭化種子	(2)	
ササゲ属アズキ垂属	炭化種子	(7)	
同定不能	炭化種実	(11)	
(括弧内は破片数)			

第35表 市場裏遺跡第21地点から出土した炭化種実

1. 市場裏遺跡から出土した大型植物遺体

(3) ササゲ属アズキ亜属 *Vigna* subgenus *Ceratotropis* spp. 炭化種子 マメ科

完形ならば上面観は方形に近い円形、側面観は方形に近い楕円形。臍は全長の半分から2/3ほどの長さで、片側に寄ると推定されるが、残存していない。初生葉は中央下端に向かって伸びる。長さ5.0mm、幅3.5mm（図版28-1）、もう1点の半割の大きさは、長さ4.9mm、幅3.7mm。

4. 考察

市場裏遺跡第21地点の弥生時代後期後葉～古墳時代前期初頭の3号住居跡から出土した炭化種実を同定した結果、栽培植物のイネと、野生種と栽培種双方の可能性のあるダイズ属とササゲ属アズキ亜属が得られた。ダイズ属は破片であったが、復元長は7.2mmと推定され、那須（2018）で示された現在の野生種の大きさの上限値（長さ10.0mm）より小さかった。ササゲ属アズキ亜属の大きさは、長さ5.0mm、幅3.5mmと、長さ4.9mm、幅3.7mmで、那須（2018）で示された野生種の大きさの上限値（長さ7.0mm）より小さかった。弥生時代後期後葉～古墳時代前期の市場裏遺跡では、稲作の栽培が行われていた可能性があるが、マメ類が栽培されていたかどうかは不明であった。

[引用文献]

- 那須浩郎 2018「縄文時代の植物のドメスティケーション」『第四紀研究』57（4）、109-126。
米倉浩司・梶田 忠 2003『BG Plants 和名-学名インデックス (YList)』<http://ylist.info>

Ⅱ. 市場裏遺跡第21地点出土炭化材の樹種同定

黒沼 保子 (パレオ・ラボ)

1. はじめに

志木市に所在する市場裏遺跡の第21地点から出土した炭化材の樹種同定を行った。

2. 試料と方法

試料は3号住居跡から出土した炭化材3点である。遺構の時期は、調査所見で弥生時代後期後葉～古墳時代前期初頭と推測されている。

樹種同定に先立ち、肉眼観察と実体顕微鏡観察による形状の確認と、残存年輪数および残存径の計測を行った。その後、カミソリまたは手で3断面（横断面・接線断面・放射断面）を割り出し、試料台に試料を両面テープで固定した。次に、イオンスパッタで金コーティングを施し、走査型電子顕微鏡（KEYENCE社製 VHX-D510）を用いて樹種の同定と写真撮影を行った。

3. 結果

樹種同定の結果、広葉樹のコナラ属コナラ節（以下、コナラ節）と、単子葉類のイネ科が確認された。結果の一覧を第36表に示す。

遺構名	No.	樹種	形状・部位	残存径	残存年輪数
3号住居跡	炭1	コナラ属コナラ節	割材?	3.0×6.0cm	40
	炭2	イネ科草本	稈	直径0.3cm	-
	炭3	イネ科草本	稈	不明	-

第36表 樹種同定結果

以下に、同定根拠となった木材組織の特徴を記載し、走査型電子顕微鏡写真を図版に示す。

(1) コナラ属コナラ節 *Quercus* sect. *Prinus* ブナ科 図版23-2 1a-1c (炭1)

大型の道管が年輪のはじめに1列程度並び、晩材部では薄壁で角張った小道管が火炎状に配列する環孔材である。軸方向柔組織はいびつな線状となる。道管の穿孔は単一である。放射組織は同性で、単列と広放射組織の2種類がある。

コナラ節は暖帯から温帯下部に分布する落葉高木で、カシワとミズナラ、コナラ、ナラガシワがある。材は全体的に重硬で、加工困難である。

(2) イネ科 Poaceae 図版23-2 2a (炭2)、3a (炭3)

柔細胞と維管束で構成される単子葉類である。維管束が柔細胞中に散在する不斉中心柱である。維管束を囲む維管束鞘は薄いため、草本と思われる。稈の組織のみから属や種を識別するのは難しい。

4. 考察

弥生時代後期後葉～古墳時代前期初頭と推定されている3号住居跡から出土した炭化材は、コナラ節とイネ科草本であった。コナラ節は割材?で、残存径は3.0×6.0cm、残存年輪数は40年輪であった。用途は不明であるが、住居内から出土しているため建築部材や燃料材などが考えられる。イネ科草本は屋根材や壁材、床材の可能性が考えられる。

埼玉県や東京都で、弥生時代～古墳時代の竪穴住居跡から出土した炭化材はクヌギ節とコナラ節が多

II. 市場裏遺跡第21 地点出土炭化材の樹種同定

く確認されている（伊東・山田編 2012）。今回は1点のみの分析であったが、周辺地域の木材利用傾向とも類似している。

【引用文献】

平井信二 1996『木の大本科』394p 朝倉書店

伊東隆夫・山田昌久編 2012『木の考古学—出土木製品用材データベース—』449p 海青社

Ⅲ. 城山遺跡から出土した炭化種実

バンダリ スタルシャン・佐々木由香（パレオ・ラボ）

1. はじめに

埼玉県志木市柏町に所在する城山遺跡は、旧石器時代から近世の複合の遺跡である。ここでは、第79地点の290号住居跡（古墳時代後期）の竪穴建物と10号掘立柱建築遺構（平安時代）から出土した炭化種実の同定を行い、当時利用された種実について検討した。

2. 試料と方法

試料は、第79地点の10号掘立柱建築遺構から回収された土壌（No.10T-P5/炭1）と290号住居跡から回収された土壌（290H-第42図1土器内）の水洗済み試料2試料である。土壌の採取から水洗までの作業は、志木市教育委員会によって行われた。

290号住居跡の土壌（290H-第42図1土器内）の水洗は、ウォーターフローテーション法で行われた。水洗前の土壌重量は346gである。10号掘立柱建築遺構（No.10T-P5/炭1）の水洗量は不明である。種実の抽出、同定および計数は、実体顕微鏡下で行った。計数の方法は、完形または一部が破損していても1個体とみなせるものは完形として数え、1個体に満たないものは破片とした。計数が難しい分類群については、重量から完形個体換算数を求めた。

3. 結果

同定した結果、草本植物のイネ炭化種子（穎果）（塊を含む）のみ、1分類群が見いだされた。ほかに、状態が悪く、科以上の細分に必要な識別点が残存していない一群を、同定不能炭化種実とした。また、未炭化の種実（スベリヒユ属種子）も得られたが、遺跡の立地を考慮すると当時の生の種実は遺存しないと判断されるため、後世の混入と判断した（第37表）。

以下に、炭化種実の産出状況を遺構別に記載する。

10号掘立柱建築遺構：産出した種実はイネの炭化種子塊2点で、青森県赤坂遺跡の古墳時代のイネ炭化種子10点の重量（0.1g）を元に（パレオ・ラボ 2015）、重量から完形換算個体数を求めると、約888点であった。

290号住居跡：同定可能な炭化種実は得られなかった。

	遺構	
	10号掘立柱建築遺構	290号住居跡
No.	10T-P5/炭1	290H-第42図1土器内
時期	平安時代（9c後葉）	古墳時代後期（5c後葉）
分類群	水洗量（g）	346
イネ	炭化種子塊 888 ^a	8.88g
同定不能	炭化種実	(2)
^a 完形個体換算数（イネ炭化種子10点の重量0.1gから完形個体数に換算）		
未炭化		
スベリヒユ属	種子	1

第37表 城山遺跡第79地点から出土した炭化種実（括弧内は破片数）

Ⅲ. 城山遺跡から出土した炭化種実

次に、得られた分類群の記載を行い、図版29に写真を示して同定の根拠とする。

(1) イネ *Oryza sativa* L. 炭化種子(穎果)塊 イネ科

個々のイネ種子の形態は、上面観が両凸レンズ形、側面観は楕円形。一端に胚があった凹みがあり、両面に縦方向の2本の浅い溝がある。塊の大きさは、大きい塊が長軸31.4mm、短軸43.2mm、厚さ32.1mm、小さい塊が長軸22.3mm、短軸25.0mm、厚さ16.6mm。

4. 考察

平安時代の10号掘立柱建築遺構から出土したイネ炭化種子塊のイネは、いわゆる炭化米の状態、塊は種子同士が糊着していた。塊の底に相当する部分のみ、塊の表面に細い木製の板状の圧痕がばらばらについており、炊飯された種子(いわゆるご飯)が容器に入った状態で炭化した可能性が考えられる。面が形成されていたのは、種子塊の一面のみであった。ほとんどのイネ種子は調理後の変形した状態であったため、外面から種子の形態を観察するのは困難であった。

古墳時代後期の290号住居跡から出土した土器内の土壌からは、同定可能な炭化種実は得られなかった。土器の中の土壌には炭化種実がほとんど含まれていなかった可能性があるが、土壌水洗した量が少なかつたために炭化種実が検出されなかつた可能性や、土器内に堆積した土が乾燥環境に晒されるなどしたために、同定可能な炭化種実が残存しにくい環境であった可能性なども考えられる。

[引用文献]

パレオ・ラボ 2015『炭化種実同定』青森県埋蔵文化財センター編『「赤坂遺跡Ⅲ」青森県埋蔵文化財調査報告書第552集 182-193 青森県教育委員会

IV. 城山遺跡第79地点出土炭化材の樹種同定

黒沼 保子 (パレオ・ラボ)

1. はじめに

志木市に所在する城山遺跡の第79地点から出土した炭化材の樹種同定を行った。

2. 試料と方法

試料は、古墳時代後期（7世紀中葉）の289号住居跡から出土した炭化材9点と、古墳時代後期（5世紀後葉）の290号住居跡から出土した炭化材1点、平安時代（9世紀後葉）の10号掘立柱建築遺構から出土した炭化材13点である。

樹種同定に先立ち、肉眼観察と実体顕微鏡観察による形状の確認と、残存年輪数および残存径の計測を行った。その後、カミソリまたは手で3断面（横断面・接線断面・放射断面）を割り出し、試料台に試料を両面テープで固定した。次に、イオンスパッタで金コーティングを施し、走査型電子顕微鏡（KEYENCE社製 VHX-D510）を用いて樹種の同定と写真撮影を行った。

3. 結果

樹種同定の結果、針葉樹のヒノキと、広葉樹のクリ、コナラ属クヌギ節（以下、クヌギ節）、コナラ属コナラ節（以下、コナラ節）、ヤナギ属、単子葉類のイネ科草本が確認された。遺構別の樹種同定結果を第38表、結果一覧を第39表に示す。

以下に、同定根拠となった木材組織の特徴を記載し、走査型電子顕微鏡写真を図版に示す。

- (1) ヒノキ *Chamaecyparis obtusa* (Siebold et Zucc.) Endl. ヒノキ科 図版30 1a-1c (10T-P5炭1)

仮道管と放射組織、樹脂細胞からなる針葉樹である。早材から晩材への移行は緩やかである。樹脂細胞は主に晩材部に散在する。分野壁孔はトウヒ型～ヒノキ型で、1分野に2個存在する。

ヒノキは福島県以南の温帯から暖帯に分布する常緑高木である。材は加工容易で割裂性は大きく、耐朽性および耐湿性は著しく高く、狂いが少ない。

- (2) クリ *Castanea crenata* Siebold et Zucc. ブナ科 図版30 2a-2c (10T-P1炭3a)

大型の道管が年輪のはじめに数列並び、晩材部では薄壁で角張った小道管が火災状に配列する環孔材

樹種	古墳時代後期		平安時代			計
	289号住居跡	290号住居跡	10号掘立柱建築遺構			
	—	カマド	P1	P4	P5	
ヒノキ					1	1
クリ			6	3		9
コナラ属クヌギ節		1	5			6
コナラ属コナラ節	3					3
ヤナギ属	4					4
イネ科草本	3					3
総計	10	1	11	3	1	26

第38表 遺構別の樹種同定結果

IV. 城山遺跡第79地点出土炭化材の樹種同定

遺構名	位置	No.	樹種	形状・部位	残存径	残存年輪数	時期	備考
289 H	炭1~9	炭1-1	ヤナギ属	破片	約1cm	2	古墳時代後期 (7c中葉)	-
		炭1-2	イネ科草本	稈	直径0.8cm	-		-
		炭2	ヤナギ属	破片	約2cm	3		-
		炭3	ヤナギ属	削材?	約3cm	3		-
		炭4	イネ科草本	稈	直径0.5cm	-		-
		炭5	ヤナギ属	破片	約2.5cm	3?		-
		炭6	コナラ属コナラ節	破片	約2.5cm	10?		-
		炭7	コナラ属コナラ節	破片	約1.5cm	3		-
		炭8	イネ科草本	稈	不明	-		-
炭9	コナラ属コナラ節	破片	約1cm	3	-			
290 H	カマド	炭1	コナラ属クヌギ節	丸木	直径3cm	5	古墳時代後期 (5c後葉)	-
10T	P1	炭1	クリ	破片	約1cm	2	平安時代 (9c後葉)	-
		炭2	コナラ属クヌギ節	破片	約2.5cm	3		-
		炭3	クリ	不明	3.0×1.3cm	5		-
		炭4	クリ	不明	4.0×1.0cm	5		-
		炭5	クリ	破片	約2.5cm	3		-
		炭6	コナラ属クヌギ節	不明	0.6×1.3cm	4		-
		炭7	コナラ属クヌギ節	みかん割り	半径2.7cm	6		-
		炭8-1	クリ	破片	約1.5cm	3		-
		炭8-2	コナラ属クヌギ節	破片	約1.5cm	3		-
		炭9	クリ	破片	約1cm	3		-
	一括	コナラ属クヌギ節	みかん割り	直径3cm	5	-		
	P4	炭1	クリ	破片	約1cm	2		-
		炭2	クリ	破片	約2.5cm	3		-
		一括	クリ	破片	約1cm	3		-
P5	炭1	ヒノキ	追極目?	不明	不明	炭化率に付着		

第39表 樹種同定結果一覧

である。軸方向柔組織はいびつな線状となる。道管の穿孔は単一である。放射組織は同性で、主に単列である。

クリは暖帯から温帯下部に分布する落葉高木である。材は重硬で、耐朽性および耐湿性に優れ、保存性が高い。

(3) コナラ属クヌギ節 *Quercus sect. Aegilops* ブナ科 図版30 3a-3c (290H炭1)

大型の道管が年輪のはじめに数列並び、晩材部では急に径を減じた円形で厚壁の小道管が単独で放射方向に配列する環孔材である。軸方向柔組織はいびつな線状となる。道管の穿孔は単一である。放射組織は同性で、単列と広放射組織の2種類がある。

クヌギ節は暖帯に生育する落葉高木で、クヌギとアベマキがある。材は重硬および強靱で、加工困難である。

(4) コナラ属コナラ節 *Quercus sect. Prinus* ブナ科 図版30 4a-4c (289H炭6)

大型の道管が年輪のはじめに1列程度並び、晩材部では薄壁で角張った小道管が火災状に配列する環孔材である。軸方向柔組織はいびつな線状となる。道管の穿孔は単一である。放射組織は同性で、単列と広放射組織の2種類がある。

コナラ節は暖帯から温帯下部に分布する落葉高木で、カシワとミズナラ、コナラ、ナラガシワがある。材は全体的に重硬で、加工困難である。

(5) ヤナギ属 *Salix* ヤナギ科 図版30 5a-5c (289H炭1-1)

やや小型の道管が、単独もしくは複数複合してやや密に分布する散孔材である。道管の穿孔は単一となる。放射組織は単列で、異性である。

ヤナギ属は暖帯から寒帯に広く生育する落葉高木または低木で、ケショウヤナギやコゴメヤナギ、シダレヤナギなど、日本では90種ほどがある。材は全般に軽軟で、強度は低いが韌性があり、切削加工は容易である。

(6) イネ科 *Poaceae* 図版30 6a (289H炭1-2)

柔細胞と維管束で構成される単子葉類である。維管束が柔細胞中に散在する不斉中心柱である。維管束を囲む維管束鞘は薄いため、草本と思われる。稈の組織のみから属や種を識別するのは難しい。

4. 考察

古墳時代後期では、7世紀中葉の289住居跡から出土した炭化材は、ヤナギ属が3点とコナラ節が4点、イネ科草本が3点確認された。コナラ節はすべて破片、ヤナギ属は割材？と破片が見られた。イネ科草本は直径0.5～0.8cmの稈であった。5世紀後葉の290号住居跡のカマドから出土した炭化材1点はクヌギ節で、直径3cmの丸木であった。カマドから出土しているため、燃料材と考えられる。

平安時代の10号掘立柱建築遺構では、P1出土の炭化材はクリとクヌギ節、P4出土の炭化材はクリ、P5出土の炭化材はヒノキが確認された。P1とP4の出土炭化材は用途不明であるが、建築部材や燃料材の可能性が考えられる。クリはすべて破片であったが、クヌギ節は不明や破片のほかに、半径2.7cmや直径3.0cmのみかん割りも見られた。P5出土のヒノキは炭化米塊に付着していた薄板状の材であり、容器であった可能性がある。木取りは追極目？であった。

埼玉県は住居跡出土の炭化材は、古墳時代中期～後期はクヌギ節とコナラ節が多く、古墳時代末～平安時代はクヌギ節とクリが多用される傾向がある（伊東・山田編2012）。今回の分析でも同様の傾向が確認された。

[引用・参考文献]

平井信二 1996『木の百科』394p, 朝倉書店。

伊東隆夫・山田昌久編 2012『木の考古学—出土木製品用材データベース—』449p, 海青社。

图 版



1. 調査前風景



2. 表土剥ぎ風景



3. 遺構確認状況



4. 3号住居跡遺物出土・焼土検出状態



5. 3号住居跡炭化材出土・焼土検出状態



6. 3号住居跡遺物出土状態



7. 3号住居跡遺物出土状態



8. 3号住居跡土層断面(B-B')



1. 3号住居跡赤色砂利層検出状態



2. 3号住居跡貯蔵穴・凸堤



3. 3号住居跡P1



4. 3号住居跡P2



5. 3号住居跡



6. 3号住居跡掘り方



7. 3号住居跡土層断面(A-A)



8. 調査風景



1. 4号方形周溝墓



2. 4号方形周溝墓



3. 5号方形周溝墓



4. 5号方形周溝墓



5. 6号方形周溝墓



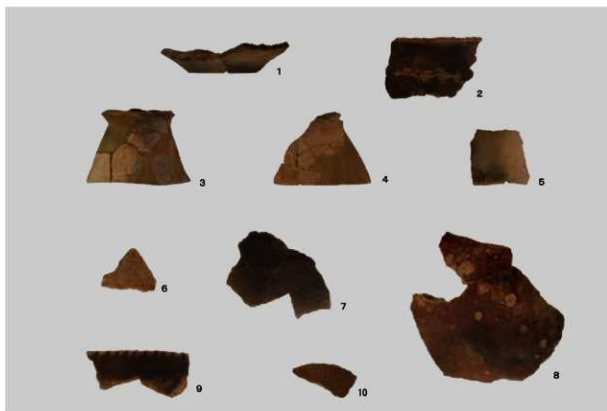
6. 4・6号方形周溝墓



7. 5号土坑



8. 1号ピット



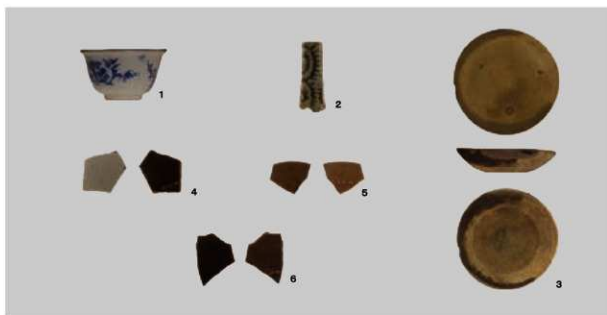
1, 3号住居跡出土遺物



2, 4号方形周溝墓出土遺物



3, 5号方形周溝墓出土遺物



4, 遺構外出土遺物



1. 調査前風景



2. 表土剥ぎ風景



3. 遺構確認状況



4. 基本土層A-A'(東面)



5. 基本土層B-B'(南面)



6. 720号土坑



7. 721号土坑



8. 722号土坑



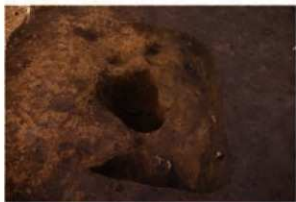
1. 723号土坑



2. 724・725号土坑



3. 726号土坑



4. 727号土坑



5. 728号土坑



6. 729~732号土坑



7. 730号土坑



8. 731号土坑



1. 733号土坑



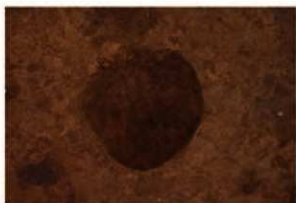
3. 54号溝跡(東から)



2. 54号溝跡(西から)



4. 54号溝跡遺物出土状態



5. 4号ピット



6. 11号ピット



7. 12号ピット



1. 17号ピット



2. 18号ピット



3. 23号ピット



4. 27号ピット



5. 34号ピット



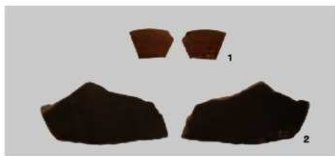
6. 61号ピット



7. 除雪作業風景



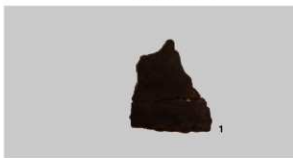
8. 調査風景



1. 54号溝跡出土遺物



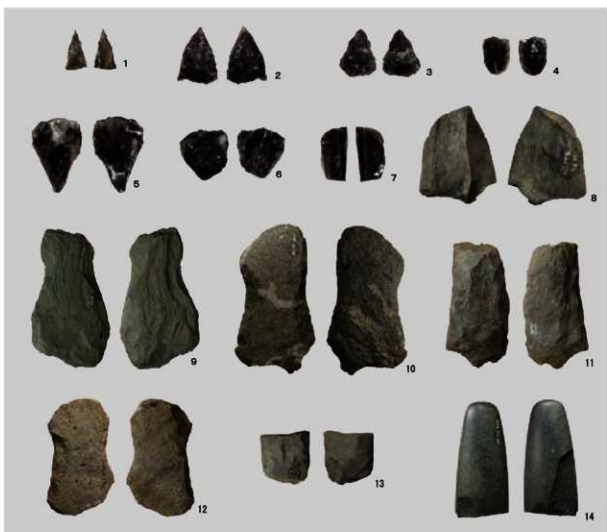
2. 11号ピット出土遺物



3. 23号ピット出土遺物



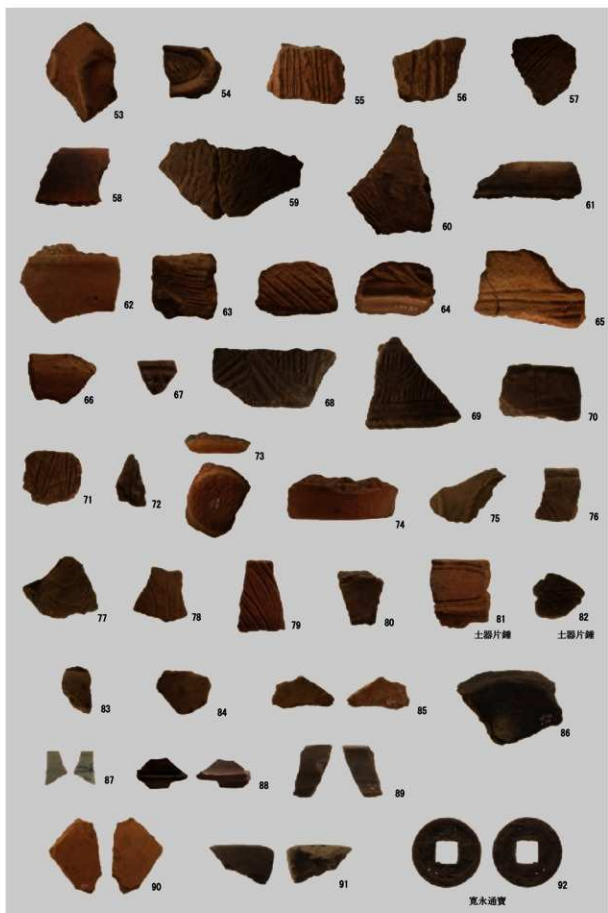
4. 61号ピット出土遺物



5. 遺構外出土遺物 1



遺構外出土遺物 2



遺構外出土遺物 3



1. 調査前風景



2. 表土剥ぎ風景



3. 基本土層 A-A'



4. 基本土層 B-B'



5. 14号炉穴検出状況



6. 14号炉穴



7. 971号土坑土層断面



8. 971号土坑



1. 971号土坑坑底面工具痕



2. 973号土坑



3. 105号ピット



4. 106号ピット



5. 108号ピット



6. 110号ピット



7. 116号ピット



8. 117号ピット



1. 289号住居跡遺物出土状態



2. 289号住居跡遺物出土状態



3. 289号住居跡炭化材出土状態



4. 289号住居跡カマド



5. 289号住居跡P I



6. 289号住居跡



7. 290号住居跡遺物出土状態



8. 290号住居跡遺物出土状態



1. 290号住居跡カマド遺物出土状態



2. 290号住居跡カマド



3. 290号住居跡カマド掘り方



4. 290号住居跡貯蔵穴



5. 290号住居跡P 1



6. 290号住居跡P 2



7. 290号住居跡



8. 291号住居跡遺物出土状態



1. 291号住居跡遺物出土状態



2. 291号住居跡



3. 292号住居跡



4. 292号住居跡カマド



5. 10号掘立柱建築遺構



6. 10号掘立柱建築遺構P1遺物出土状態



7. 10号掘立柱建築遺構P1遺物出土状態



8. 10号掘立柱建築遺構P1



1. 10号掘立柱建筑遺構 P 2遺物出土狀態



2. 10号掘立柱建筑遺構 P 2



3. 10号掘立柱建筑遺構 P 3



4. 10号掘立柱建筑遺構 P 4遺物出土狀態



5. 10号掘立柱建筑遺構 P 4



6. 10号掘立柱建筑遺構 P 5



7. 10号掘立柱建筑遺構 P 6



8. 10号掘立柱建筑遺構 P 7



1. 33号ピット



2. 113号ピット



3. 957号土坑(西から)



4. 958号土坑(東から)



5. 959号土坑(東から)



6. 960・961号土坑(西から)



7. 962号土坑(南から)



8. 963号土坑(東から)



1. 964号土坑(南から)



2. 965号土坑(東から)



3. 966号土坑(西から)



4. 967号土坑(西から)



5. 968号土坑(南から)



6. 969号土坑(東から)



7. 970号土坑遺物出土状態



8. 970号土坑遺物出土状態



1. 970号土坑グライ化状況



2. 970号土坑



3. 972号土坑(東から)



4. 20号ピット遺物出土状態



5. 48号井戸跡



6. 49号井戸跡



7. 調査風景



8. 埋め戻し風景



1. 971号土坑出土遺物



2. 289号住居跡出土遺物



1. 290号住居跡出土遺物



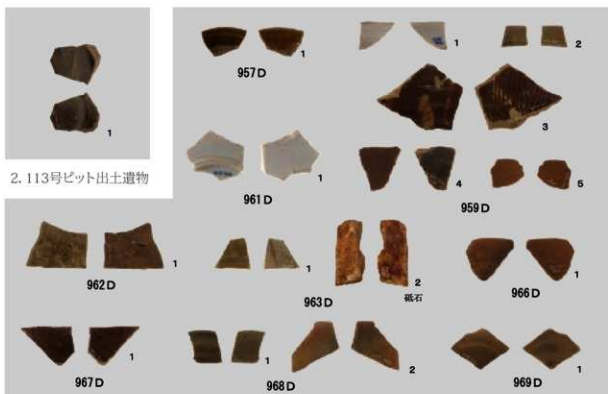
2. 291号住居跡出土遺物



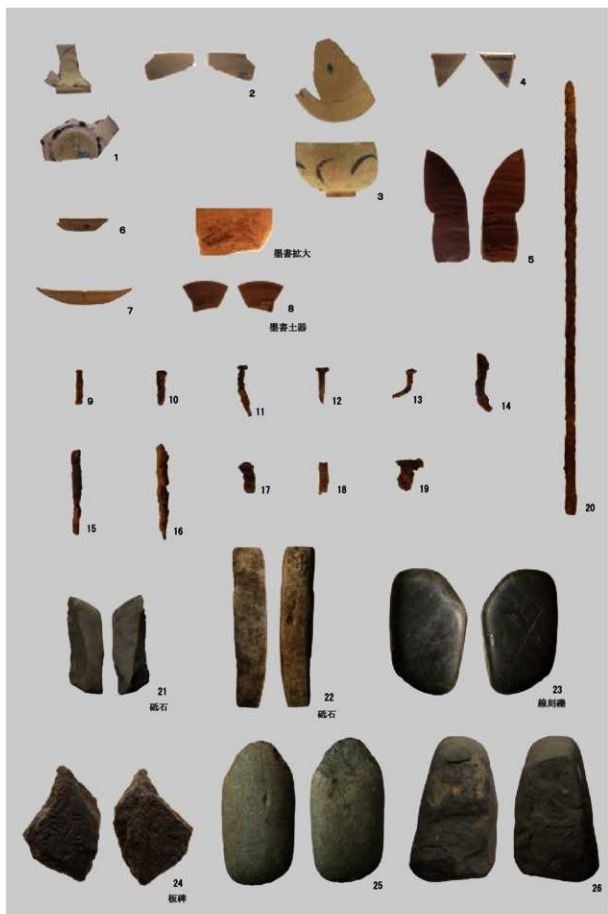
3. 292号住居跡出土遺物



1. 10号掘立柱建築遺構出土遺物



3. 土坑出土遺物



970号土坑出土遺物 1



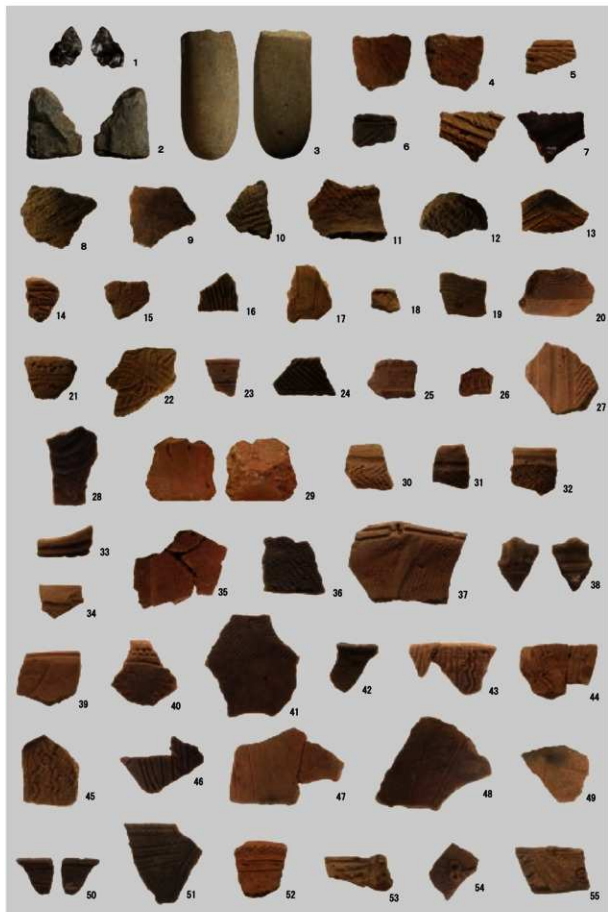
1. 970号土坑出土遺物 2



2. 井戸跡出土遺物



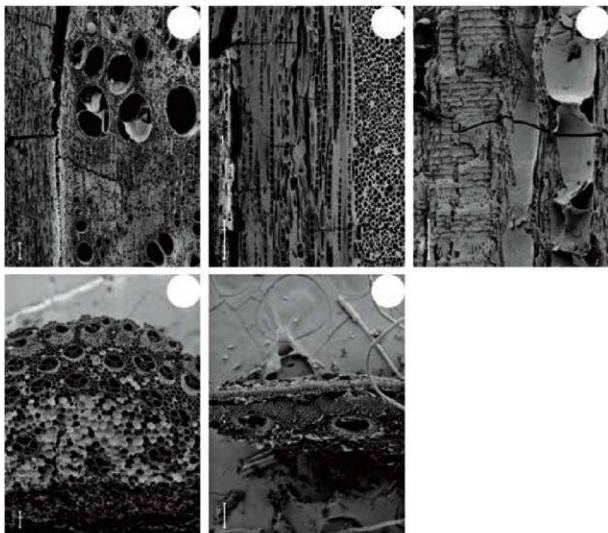
3. ビット出土遺物



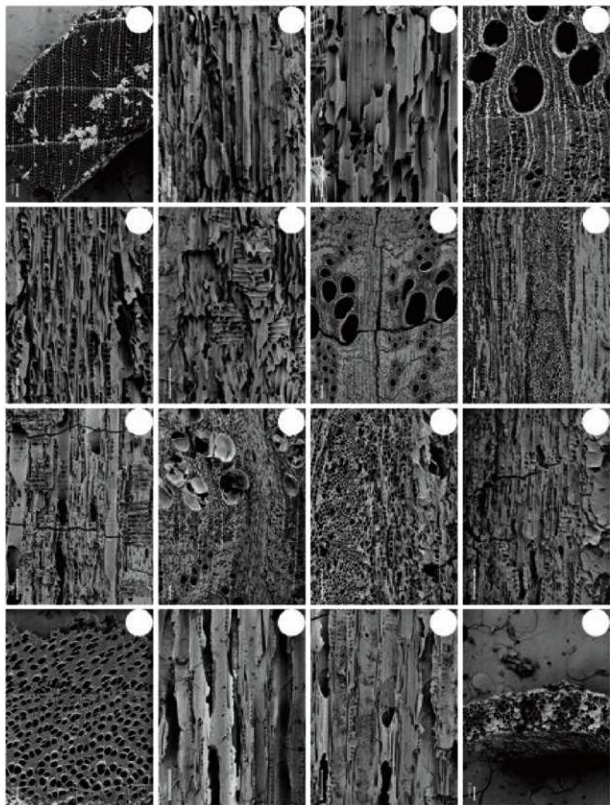
遺構外出土遺物 1



遺構外出土遺物2







報 告 書 抄 録

ふりがな	しきしいせきぐん 24							
書名	志木市遺跡群 24							
シリーズ名	志木市の文化財							
シリーズ番号	第81集							
著者氏名	大久保 聡 尾形剛敏 徳留彰紀							
編集機関	埼玉県志木市教育委員会							
所在地	〒353-0002 埼玉県志木市中宗園1丁目1番1号 TEL048 (473) 1111							
発行年月日	令和3 (2021) 年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 (°'")	東経 (°'")	調査期間	調査面積 (㎡) (全体面積)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
市場裏遺跡 (第21地点)	志木市本町 1丁目2509-1	11228	09-015	35° 49' 57"	139° 34' 40"	20130213 ～ 20130302	68.21	個人住宅建設
西原大塚遺跡 (第199地点)	志木市幸町 3丁目7296-1	11228	09-007	35° 49' 30"	139° 33' 53"	20140203 ～ 20140221	174.51	個人住宅建設
城山遺跡 (第79地点)	志木市柏町 3丁目2617-3	11228	09-003	35° 49' 55"	139° 34' 44"	20130516 ～ 20130719	165.42	個人住宅建設
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
市場裏遺跡 (第21地点)	集落跡・ 墓域	縄文時代 弥生時代後期 ～古墳時代前期		土坑 住居跡 方形周溝墓	1基 1軒 3基	なし 土器 土器		
西原大塚遺跡 (第199地点)	集落跡・ 墓域	縄文時代 中世以降		ピット 土坑 溝跡 ピット	7本 14基 1本 56本	土器 なし 陶器・土器 石製品(磁石)		
城山遺跡 (第79地点)	城館跡・ 集落跡	縄文時代 古墳時代後期 ～平安時代 中世以降		が穴 土坑 ピット 住居跡 竪立柱建築遺構 ピット 土坑 井戸跡 ピット	1基 2軒 6本 4軒 1棟 3本 15基 2基 109本	土器 土器 なし 土器 土器 土器 陶磁器・土器・石製品・ 鉄製品・板碑 陶器・土器 陶磁器・土器・鉄製品	970 Dは底面が広 範囲にグライ化し、 溜池状の窪みの可能 性がある。出土した 線刻石には力土と思 われる絵画が線刻さ れていた。	
要 約								
<p>市場裏遺跡は、弥生時代後期～古墳時代前期を中心とした遺跡である。本地点では、弥生時代後期～古墳時代前期の住居跡、方形周溝墓が検出された。3 Yは覆土が非常に硬くしており、埋め戻された可能性がある。</p> <p>西原大塚遺跡は市内最大規模の遺跡で、旧石器時代～近世にかけての複合遺跡である。今回の調査では、中世以降の土坑、溝跡が検出された。54 Mは出土遺物から16世紀後半と考えられる。</p> <p>城山遺跡は、旧石器時代～近世にかけての複合遺跡である。本地点では縄文時代、古墳時代後期～平安時代、中世、近世の遺構が検出された。10 Tは隣接する第82地点とまたがる竪立柱建築遺構である。</p>								

志木市の文化財 第81集

埼玉県志木市

志木市遺跡群 24

発行 埼玉県志木市教育委員会
埼玉県志木市中宗岡1丁目1番1号
発行日 令和3(2021)年3月31日
印刷 株式会社 白峰社